令和２年度　取組報告　　**春日中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**地域とのかかわりを大切にする子･自分を大切にする子･なかまを大切にする子･学習を大切にする子**

取組目標　**地域と学校園、保護者との連携を深め、地域と学校園が連携し協働した取組を充実させるとともに、ボランティアスタッフとして地域人材を積極的に活用する。**

今年度の取組紹介

今年度は、コロナ感染症対策のため、計画した取組の多くが中止となりました。しかし、このようなコロナ禍の中でも、済美小学校では、感染症防止対策を行い地域の方々と共に「しめ縄とんど大会」を行うことができました。普段の学習では、なかなか体験することができない「とんど焼き」という日本の伝統行事を体験することができました。


【しめ縄とんど大会】

また、済美南小学校では、子どもたちが安全に登下校できるよう「登下校見守り活動」を行っていただきました。歩いている子どもを見つけると、「おはよう！」「いってらっしゃい！」と、地域の方々がいつも元気いっぱい声かけをしてくれます。子どもたちが安全に登下校できるよう、危険箇所に立って見守ってくださっているだけでなく、もうそろそろあの子が通るな、今日は少し遅いなど子どもたちのことを本当によく知ってくださっています。また、子どもたちの歩く様子や表情に合わせて優しい声掛けをしてくださり、子どもたちの心までも温かく見守ってくれています。


【登下校安全見守り活動】

今年度のまとめ

子どもたちは、地域の方々の「子どもたちのために」という思いのもと、伝統行事を体験し地域の方々と触れあったり、地域の方々に見守られたりすることで、自分の住む地域や人々を愛する心を育てる良い機会となりました。

地域の方々による「地域の子は地域で育てる」という意識のもと、学校と協働した取組を今後さらに発展させようと考えています。

来年度に向けて

今年度までの事業を検証しより発展させることで、地域と学校園、家庭の連携をさらに強いものにしていきたいと考えています。また、地域人材の活用については、地域との連携を深めることで、新たな人材の発掘に取り組んでいきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立春日中学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域とのかかわりを大切にする子･自分を大切にする子･なかまを大切にする子･学習を大切にする子**

取組目標　**地域の方との関りを通して、生徒自身が必要とされている存在であることを認識させ、自尊感情の高めることで、学習への意欲の向上と規範意識の育成につなげたい。**

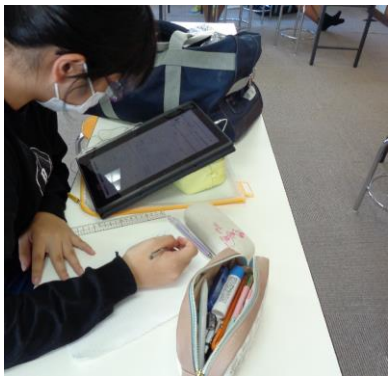
今年度の取組紹介

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、キャリア教育としての「職場体験」などの各種体験学習については中止せざるを得ない状況となり、全ての取組を実施することはできませんでした。

しかし、本校が長年にわたって取り組んできている学習活動支援事業として学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための放課後学習会「わかるわかる学習会」には重点的に取り組みました。



「わかるわかる学習会」では、基礎学力の定着を図る「こつこつコース」、発展的な学習に取り組む「どんどんコース」に分かれて学習に取り組んでいます。生徒たちは、持参した問題集などを使って学習したり、生徒一人一人に配付されたタブレットを使って学習に取り組んだりしています。タブレットには「みんなの学習クラブ」アプリを導入し、小学校の学習内容からの復習ができるようになっています。自分の自学自習を基本としますが、大学生を中心としたボランティアスタッフにアドバイスをもらいながら熱心に学習に取り組んでいました。



今年度のまとめ

学ぶ意欲のある生徒からの「勉強がわかるようになりたい」という思いを受けて始まった「わかるわかる学習会」も１０年以上続いています。生徒たちは、ボランティアスタッフとともに学習に取り組み、「勉強がわかるようになった」と実感するとともに、自身が芽生え、学習意欲の向上につなげることができました。また、タブレットを使っての学習は、生徒たちが自分のペースで学習するのに有効な手段となりました。

来年度に向けて

今年度の取組への成果と課題をふまえ、来年度も「わかるわかる学習会」や今年度実施できなかった「各種体験学習」などの学習活動支援事業、「出前で部活」などの地域交流事業に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立済美小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子**

取組目標　**済美の町と人、そして奈良の町と人と関わる体験活動を行うことで、地域に誇りを持つ取組を進めていく。**

【今年度の取組紹介】

全学年　「読み聞かせ」

コロナ禍でありましたが、感染症防止対策をきっちりと行い地域の方々に読み聞かせ活動をしていただきました。子どもたちは、この読み聞かせ活動を通し、本に対する世界を広げることができました。教卓にテーブルクロス、大きな蠟燭、ぬいぐるみ等の演出で物語の世界へ誘う様々な工夫をして下さいました。この読み聞かせ活動を通して本の楽しさを知るとともに、思いやりの心も育てていただきました。



全学年　「せいびの時間（大規模清掃）」

地域の方々と「せいびの時間」に取り組みました。地域の方々から子どもたちは草の抜き方の基本等も教えていただきました。子どもたちは地域の方々とコミュニケーションを取りながら、学校が美しく変わっていく様子に達成感と満足感を感じ、こころ豊かになる時間となりました。

地域の方々、本当にありがとうございました。



【今年度のまとめ】

今年度のまとめ

今年度も、「学校は、地域と連携して、教育を進めようとしている」という項目で評価をいただきました。地域の方々の支援・協力のおかげで、多くの児童が自分たちの住む地域に愛着を持ち、誇りに思うこころを育んでいます。

【来年度に向けて】

これからも、地域連携を大切にし、児童の心を豊かに育み、「済美・奈良を誇りに思う子ども」を育てる取り組みを進めていきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大安寺小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域とのかかわりを大切にする子**
自分を大切にする子
なかまを大切にする子
学習を大切にする子

取組目標　**大安寺っ子、地域で学び、つながろう**

今年度の取組紹介

今年度も昨年度に引き続き、地域交流事業として「大安寺から学ぶ」に取り組みました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため活動する内容もできるだけ少人数で作業・活動などを実施することとなりました。そのような中でも地域の方々との出会いや関わりを通じて、交流を深め、体験学習ができました。

5年生は、「米作り」に取り組み、田植えから稲刈りまでを体験し、収穫したお米をいただきました。

さらに、教育環境の整備や子どもたちの登下校の安全確保のための見守り活動に、地域の方々が積極的に関わってくださいました。今年度、子どもたちのほうから率先してあいさつが増えたという声が多くありました。





【5年　稲作体験】

今年度のまとめ

今年度も年間を通じて、地域の方々のご協力をいただき、校庭や中庭の環境整備ができました。コロナ禍の中で、児童は、様々な活動が制限された学校生活を過ごすこととなりました。そのような中でも地域の方々とできることを考えて、取組を進めてまいりました。学習活動支援事業では、児童が閲覧した図書の本を一冊一冊消毒していただきました。また、図工科や家庭科の授業での学習補助にも入っていただき、丁寧にアドバスをいただくことで児童の活動が広がりました。

さらに、教育環境支援事業として、運動場の草刈りや窓ふきといった活動を通して、地域の方々との関わりを充実させて取組を行いました。

来年度に向けて

新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、地域の方々と共に事業に取り組んで参ります。地域の方々と学校がともにできることを考えて取組をしていく必要があります。 ICT機器を活用した新しい交流も取り入れながら、校区・地域の様々な方々とのつながりを大切にしていきたいです。

また、地域の事や伝統・文化について学び、地域社会から学ぶことの大切さを身につけ、児童自身が大安寺の地域について、誇りを持って語れるように、育んでいきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立済美南小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域とのかかわりを大切にする子/自分を大切にする子/なかまを大切にする子/学習を大切にする子**

取組目標　**地域とのふれ合いを通して、郷土愛やコミュニケーション力を育む。また、事業での関りを通して、子どもと地域、学校と地域、地域同士のつながりを深めていく。**

【今年度の取組紹介】

【環境整備・校門のペンキ塗り】



６月からの学校再開を前に、校門をさわやかな済南ブルーに塗ってくださいました。地域の方々のエールが子どもたちに伝わったようで、とても良い笑顔で登校していました。
今年度も教育環境支援事業において、たくさんの地域の方々が集まってくださり、花壇やプランターの手入れ、樹木の剪定等をしていただきました。年間を通してきれいな花で子どもたちを迎え、見守り続けてくださっています。

【稲作体験・稲刈り】



毎年５年生が稲作体験を行っています。今年も田んぼ作りから、田植え、稲刈り、脱穀までを丁寧に指導していただきました。水の管理や日々の稲の状態の観察、これだけがんばっても収穫できる量はこれだけなのかと、お米を作ることの大変さを知りました。また、地域の方の物作りに対する思いや、知識・経験にすごいなあと感心しきりの子どもたちでした。

今年度のまとめ

コロナ禍で地域の方々と一緒に行える活動が制限されましたが、地域の多くの方がこんな状況だからこそ子どもたちのために何かできることはないかと尽力してくださいました。安全見守り、学校の環境整備や図書室の環境整備と地域の方々に支えられていることをしっかりと子どもたちは感じ取っていました。学校と地域が協力して積み重ねてきた取組を今後も続けていきたいです。

来年度に向けて

地域の子どもたちの健全育成のため、コロナウイルス感染症予防対策をしながら今までの「チーム済南」の活動を続けていきたいです。また、ＩＣＴを活用して地域の方とのつながりを大切にしてけるよう考えています。ホームページや学校便りを活用し取組や成果をより積極的に地域に向けて発信していきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立済美幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

- 地域とのかかわりを大切にする子
- 自分を大切にする子
- 仲間を大切にする子
- 学習を大切にする子

取組目標　**子ども達にとって地域とのつながりを意識できるふれあい活動事業を中心に、様々な経験や体験を通して地域とのつながりを強く感じられる取組を行う。**

【今年度の取組紹介】



今年度はコロナウイルス感染防止のために、いくつかの行事を中止縮小しなければなりませんでした。しかし本園ではこれまで大切にしてきた取組があります。

◆まず、『ならまちたんけん』です。今年度も地域の方と一緒に、安全指導・案内をしてもらい、「音声館・庚申堂コース」と「元興寺・興福寺コース」の２回実施しました。子ども達は地域の方からその由来や言い伝えを聞き、興味を持って見ていました。身近にある地域の良さを見たり聞いたり体験したりすることができました。また、保護者も一緒に参加する姿が見えています。今後も、子ども達にとって、地域の方々が身近に感じ取れるものにしていきたいです。



◆次に『新年を祝うお茶会』です。子ども達にとって日本の伝統文化に触れる体験です。地域の方々が、フルートと琴の生演奏を聴かせてくれます。続いて、地域のお茶の先生に作法を見せてもらったり、お茶の点て方を学んだりしています。その後、子ども達はお茶を点てて味わいます。緊張しながらも、「むずかしかった。」「にがいけど、おいしかった。」「お菓子はおいしい。」などと、感想を出していました。

【今年度のまとめ】

子ども達にとって、地域とのつながりを意識できる活動（「ならまちたんけん」・「新年を祝うお茶会」・「親子花苗植え」・「絵本のよみ聞かせ」・「子育て支援」・「運動あそび・サッカークラブ」・「昔遊び」等）を今年度も地域の方の支援をいただきました。地域の方々とのかかわりを通して、子ども達に豊かな心が育ってきています。また、自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちを持てるようになってきました。保護者からは、「ならまちたんけんは地域の方から貴重な体験をさせてもらっている」という意見が増えてきています。子ども達が今後もたくさんの経験から、思いやりの心・挑戦する心を持てるようになってくれたらと願っています。

【来年度に向けて】

地域の方々から多くのことを学び、引き続き幼稚園が地域の子育て支援の拠点となるよう、取組の精選を含めて、連携をさらに深めていきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大安寺幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**〇地域とのかかわりを大切にする子**
〇自分を大切にする子
〇なかまを大切にする子
〇学習を大切にする子

取組目標　**家庭・地域・幼稚園が一緒になって子育ての大切さや楽しさを感じる**

【今年度の取組紹介】

地域交流事業として、PTA さんとの共催で「幼稚園まつり」を行いました。５歳児は、お祭りを楽しみに、友達と力を合わせて、神輿を二基作りました。昔から伝わる保護者の方が作られ改良されてきた大きな神輿も用意され、初めて見た４歳児は大喜びでした。地域の方に大きなうちわを振ってもらったり、太鼓をならしてもらったりしながら、「わっしょい！」「わっしょい！」とお神輿を担いだり、ひっぱったりしました。園庭では、PTA さんが準備してくれた、まとあてや、さかなつり、くじびきなどのコーナーあそびを楽しみ、ピロティーでは、保育者と一緒にまつぼっくりと紙コップを使って、けん玉をつくり遊びました。子どもたちは、遊びのコーナーを繰り返し回り、楽しい時間を過ごすことができました。





【今年度のまとめ】

今年度は、コロナ禍での事業となり、計画していた事業の中で実施できなかったものが多くありました。長年継続してきた、地域の万年青年クラブの方とのふれあい会や幼稚園祭りでの地域の方との交流の場をもつことができなかったことは、とても残念です。しかしながら、地域の方には、近くのコスモス畑に招待してもらい、コスモスのトンネルをくぐったり花を摘ませてもらったりしました。また、園庭をきれいに整備してもらったり、子どもたちの遊んでいる様子をみて声をかけて頂いたりして、心温まることも多くありました。

子どもたちが安全に安心して経験できる事業となるように、保護者や職員と綿密に話し合い、今まで継続して行ってきた、活動一つ一つの意味や内容を深く考える一年となりました。

【来年度に向けて】

コロナ禍でも様々な体験ができるような事業内容を検討し、臨機応変に内容や時期を変更できるようなゆとりと柔軟性をもって実施していきたいと考えています。

地域の方と、触れ合いの場を直接もつことができない場合には、気持ちが温かくなったりやさしさを感じたりすることが出来るような事業内容や保育内容の工夫をしていきたいと考えています。

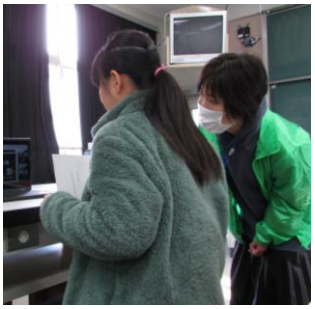
令和２年度　取組報告　　三笠中学校区地域教育協議会

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、奈良の中心地としての伝統や文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む**

【今年度の取組紹介】

〇子ども未来会議



多くの人や子どもがひとところに集まることができない中、「子ども未来会議」をオンラインで実施しました。多くの人が会して直接話し合うこれまでの「子ども未来会議」の双方向性とリアルタイムな進行とともに、どこからでも参加できる新しい形、可能性が示されました。また、会議の準備や司会に、三笠中学校のＯＢ、ＯＧが参加してくれたことは、意義深いです。「地域で人が育つ、地域が人を育てる」そんな繋がりが生まれました。

〇おうちでチャレンジ、三笠はひとつ

コロナ禍の中、できることは限定的でしたが、できないことを嘆くよりも、今だからこそできることをさがし、完全な感染予防対策のもと、新しい事業への挑戦「おうちでチャレンジカード」や従来の事業のイノベーション「オンラインでの子ども未来会議」機関誌の発行「三笠はひとつ」に取り組み、何とか次年度へとつなげていく事が出来ました。



【今年度のまとめ】

「三笠はひとつ、三笠はならのまほろば」を合言葉に、絆と協働によって地域活性化を図り、子どもの育ちと学びをさらに充実させることを目的とし、各種事業の展開を計画していましたが、コロナ禍の中実現できることは限定的でした。しかし、できないことを嘆くよりも、今だからこそできることをさがし、完全な感染予防対策のもと、新しい事業への挑戦「おうちでチャレンジカード」や実施形態の変更「オンラインでの子ども未来会議」に取り組み、何とか次年度へとつなげていく事が出来ました。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中、新しい形で種々の事業を実施し、その可能性や有用性が発見できました。続けることと変わること、つなぐことの大切さを忘れず、今後も工夫し事業を継続して行っていきます。そのための予算や人材の確保も課題ですが。啓発活動を充実させ、地域教育協議会の理解をより一層深め、認知度を高めていき一人でも多くの人が参加できる事業にしていくことで、課題解決に努めます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立三笠中学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって未来を切りひらく子ども**

取組目標　**学校を支援してもらうだけが目的ではなく、地域力の醸成や住民自身のやりがいを感じる場をつくり、地域と学校との間に良好（双方にメリット）な関係つくりをめざす。**

今年度の取組紹介

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、放課後や土曜日などの課外授業から、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため活動は少なかったが、地域行事・清掃活動等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。特に進路に向けた面接練習として、企業勤務経験者などの地域住民が、面接官となり、目前の高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



（労働に学ぶ）



（面接練習）

今年度のまとめ

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業により事業のスタートは遅くなりましたが、感染防止対策を講じて学校内での「学習支援」「ゲストティーチャー」「面接指導」等に地域の方々に来て頂き、実施することができました。地域の方々には、教員とは違った視点からたくさんのことを子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えていただきました。一方コロナ禍の中、地域に出向いてのボランティア活動がほとんど行えなかったことは、多くの大人たちに評価をいただく機会、自己有用感を味わう機会が少なくなったことは残念に思います。

来年度に向けて

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切にし、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域のみんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立椿井小学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望をもち、**

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標　**世界にはばたく世界で活きる椿井っ子**

今年度の取組紹介

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めました。

新型コロナウイルス感染症の流行下で、活動にも様々な制限がありましたが、できる限り今までの取組を踏襲する形で事業を進めました。名人に学ぶ事業、手話交流会では地域の方においでいただき、ゲームや歌を通じて手話に親しむ活動を行っていただきました。回数は限られていましたが、コミュニケーションの一つの手段として手話に触れるというのは、児童にとって大変有意義な活動となりました。また名人に学ぶ事業では、おん祭りについてお話を聞かせていただいたり、綿紡ぎ体験を通じて糸や布について学ぶという取組も行いました。



綿紡ぎ体験



手話交流会

今年度のまとめ

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができています。コロナ禍で非常に制限の多い中でしたが、感染拡大防止策を講じながら活動することができました。「環境を整える」事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

来年度に向けて

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していきます。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大宮小学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**夢を持ち、夢を語り、夢を叶える**

たくましい子どもを育てる大宮アクション

【今年度の取組紹介】

◆子ども未来会議

・１２月２３日に「第１１回子ども未来会議」を開催しました。今年度は、コロナウイルス感染防止のため、「リモート会議」にて実施しました。各小学校児童３名、中学校生徒２名が会議に参加し、それぞれの学校にて、今年度貸与されたタブレットを使用しました。

・それぞれの学級、学年で集約した意見を伝えることからスタートし、徐々に意見交換を進めていきました。三笠中学校区出身の大学生、高校生が司会を務めリモートのハード面でも、より良い進行のソフト面でもみんなを引っ張ってくれる頼もしい存在でした。

・リモートならではの難しさもありましたが、観覧した保護者の方から「今回のリモート会議はいい記念になるのではないか」というお言葉をいただきました。直接会うことはできなくても、オンラインで人と繋がることができる新たな可能性を感じた「子ども未来会議」となりました。



【今年度のまとめ】

・例年、地域の方々からたくさんの協力を得て実施してきた取組は、コロナ禍のなか実施できることは限られました。その状況を踏まえて新型コロナウイルス感染対策をとり、子どもたち、あるいは大人だけでもできることを続けたり、オンラインを活用したりしながら可能な範囲で実施しました。

・オンラインを活用した「子ども未来会議」は、三笠中学校区出身の卒業生が主体的に関わり進めてくれました。本取組の趣旨を理解しながら皆で協力して実施できたことは意義深いと考えています。現在の小学生が、近い将来、今回の卒業生のように活躍してくれることを期待しています。

【来年度に向けて】

・地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。

・コロナ禍での対策を踏まえた取組の進め方を検討していく必要があります。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大安寺西小学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りを持って、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実**

今年度の取組紹介

本校の取組の特色の１つであるのが、「雅楽体験」を取り入れた音楽教育を活用した教育活動です。南都楽所の講師先生の指導も受けながら、取り組む予定でした。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重な機会になっているのはもちろんですが、大西小の伝統を受け継ぐ誇りを感じ、地域・仲間とつながる思いを味わうことができていました。しかし今年は、コロナ禍により断念いたしました。





また、本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習」にも継続して取り組む予定でしたが断念いたしました。色んな行事に制限がある中、地域の方々と共に行う「佐保川清掃」・「河川植樹」活動は行うことができました。「わが町を流れるふるさとの川を大切に思う心」を育むことができ、「大好きな大西小を誇りに思う心」の育みにつながっていることを実感する取組となりました。また、コロナ第３波を懸念しながら、第８回校区成人式を行うことができました。例年とは違い、短時間で密にならないように内容を変え、新成人にとって少しでも成人の門出になる行事になるように恩師の参加のもと行いました。

今年度のまとめ

コロナ禍により、限られた活動となりました。本来なら、豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施する予定でした。美しい佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があってのことということ改めて感じました。

また、第８回目を迎えた校区成人式ではなつかしい校舎に集い、和やかなひとときを過ごしました。

来年度に向けて

コロナ禍を想定するとなかなか活動が厳しい状況ではあります。また、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。３年前から始めた「地域ボランティア募集」の呼びかけをさらに充実していき、人材確保をしたいと思います。また、各取組を今後も継続して無理なく充実させていく上でも、地域・学校・家庭の３団体が熟議を重ねながら、より効率的かつ効果的な事業となるよう、今後も検証・改善を行い、地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思い、大切にする心』を育んでいきたいと考えています。

令和2年度　取組報告　　奈良市立佐保川小学校運営委員会

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。**

【　佐保川清掃活動　】

佐保川の環境を守る活動として、地域の方々と共同で取り組む佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる佐保川をみんなで大切にする心を育みます。そして、地域の方々とこの気持ちをつなげる大切な取組でもあります。



【　図書充実活動　】

保護者の方々による図書室の環境整備や図書修繕を行っていただきました。また、低学年の児童を対象に、絵本の読み聞かせを行っていただきました。読書は「心のビタミン」といわれています。子どもたちに読書の素晴らしさを伝え、本との出会いを促し、豊かな心を育むことに大いに役立てることができました。



【今年度のまとめ】

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、咳エチケットや手指の消毒に加えて、換気の充実、三密の回避などが余儀なくされた１年でした。その中でも、感染状況が落ち着いている期間に、図書充実活動や環境整備活動事業などを行ってくださり、子どもたちの教育環境の向上につながりました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々を通して、地域の方々と触れ合い、地域の行事に積極的に参加する等、子どもたちに体感させることが重要であると考えます。佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大宮幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**地域の人材や教育力をいかした多様な体験活動を進めながら、人とかかわる楽しさを感じ、豊かな感性やたくましい心を育む取組の充実**

【今年度の取組紹介】



《環境整備事業より》

芝の世話・畑や花壇の整備を地域の方のお力を借り子ども達と一緒に行いました。地域の方が、暑い中芝刈りや芝の間の草引きをしてくださったり、野菜や花の植え方を教えてくださったりする様子を見て、子ども達も草引きや水やりを進んで行うようになりました。「頑張ってるね。」「水やり頼むよ。」と声をかけていただくと子ども達は嬉しさや達成感を感じていました。様々な方が幼稚園のために協力してくださる様子を見ることで、子ども達も地域の方に見守られていることを実感することができる機会となっています。

《体力づくり事業より》

『げんきっこクラブ』と題して、地域で活躍されているゲストティーチャーに来ていただき、10～1 月に年 4 回実施しました。園庭で鬼ごっこやボールに慣れるような遊び、サッカー等、年齢に合わせて十分に体を動かして遊ぶ内容で、体を動かすことに苦手意識をもっている子も楽しんで参加することができました。この活動をきっかけに友達と誘い合って鬼ごっこやサッカーをする子が増えたり、日頃の保育に取り入れたりすることもでき、保育内容の充実につながりました。子ども達が思い切り体を動かす環境が少なくなっている中、幼児期に必要な思い切り体を動かす楽しさを味わうことができる活動と、なっています。



【今年度のまとめ】

今年度は、たくさんの人数の方との触れ合いができない等、活動内容に制約がありましたが、地域の方が工夫してくださり、多くの協力を得ることができ、様々な活動を実施することができました。大宮地域ならではの体験活動に重点を置きながら、直接体験をすることで、コミュニケーション力や体力の向上にもつながりました。また、地域の方々と関わったり園外保育に出かけたりすることで、地域の様子や文化財を知る機会にもなりました。制約等があった今年度だからこそ、地域の方々の子ども達に対する温かい気持ちや、子ども達につけさせたい力などを、今まで以上に感じ、考えることができたと実感しています。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方やゲストティーチャーの方のお力を借り、めざす子ども像に向け、子ども達にとって地域の方に親しみを感じ、人と関わることで得られる喜びや温かさ、安心感等を得られるような活動を継続していきたいと思います。また、大宮地区を知り、親しめる機会も増やしていきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立大安寺西幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標　**様々な環境に関わり心を動かす感動体験を通して、たくましい心と体・豊かな感性をはぐくむための遊びの創造。**

【今年度の取組紹介】

〔地域活動事業〕



園外保育の計画が進まなかった際に、地域の方の協力により「コミュニティ農園」での芋ほり遠足を実施することができました。行き帰りの見守り、畑での援助等、地域の方と楽しく貴重な経験をすることができました。収穫したさつま芋を一人ずつ持ち帰り、家庭での会話や、翌日の子どもたちの会話にも話題に上りました。



（伝統文化触れ合い事業）

地域で活動されている、生け花の先生に来ていただき、生花を使って自由に生ける「生け花教室」を行いました。園庭に咲く草花とは違う花の色、形、大きさ、匂いなど触ったり嗅いだりと、五感を使って子どもたちの自由な発想で生けることができました。同じ花でもそれぞれの仕上がりがあって、お花の表情も様々です。作品展に展示して、家族の方に見ていただくことができました。



【今年度のまとめ】

様々な方々と触れ合い交流する機会がもてなかった中、地域の方々の協力のおかげで、園外保育（芋ほり）を実施することができました。又、「体操教室」や「チャレンジクラブ」では、体を使って活動する楽しさを体験でき、普段の保育に取り入れながら、運動遊びに興味を持つことができるようになってきました。今後も保護者や地域の方には、ホームページや地域の会合等で園生活の様子や園児の成長を発信しながら、“地域の中の幼稚園”としてより地域の方々の理解や協力を得られるようにしていきたいと思います。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者も園児の成長を感じ、共に事業の継続を望む声が届いています。今年度の成果や課題を受けて、回数や行事の精選をしながら、保護者や地域の方のお力を借りて、引き続き進めていきたいと思います

令和２年度　取組報告　　**若草中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**『奈良を知る　地域を知る』－世界遺産と環境－**
～クロスオーバー若草　点から線へ、線から面へ～

今年度の取組紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会定例会、地域合同文化講演会、などの事業が中止になり実施することができませんでした。その中で、実施できたものを１つ紹介します。

・コーディネーター会議

役員会を開催し、コロナ禍における協議会の運営について検討をしました。感染予防を最優先し大人数の集まりを中止しました。具体的には、地域合同文化講演会と定例会を中止し、代表者によるコーディネーター会議を２回実施しました。役員改選による新役員の報告や今年度のまとめ、来年度の計画について情報交換を行いました。今年度のまとめについては、地域コーディネーターのみなさんや地域の関係機関のみなさんには書面にて情報共有を行いました。



今年度のまとめ

今年度はコロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は大人数ということで中止しました。できる事業として各運営委員会の繋がりを継続するために代表者による地域コーディネーター会議を2回実施しました。情報共有もできてとても有意義なものでした。

来年度に向けて

・コロナ禍においてできる事業を工夫しながらすすめていきます。
・今年度同様、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
・地域の歴史を学んだり、地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめキャリア教育の支援に繋げていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立若草中学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　・学びをはぐくむ

今年度の取組紹介

〇学習支援

・「中３学習会」「図書館学習」

３年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域ボランティアに協力いただき中３学習会を行っています。

定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。



〇キャリア教育支援

・「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行いました。フラワー装飾、印章彫刻、ネイルアーティスト造形クリエイター、保育士、広告美術など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けてとても有意義な体験でした。





〇環境整備

・校内環境整備

地域の方々がボランティアとして、季節の花植えをハンギングに植えていただき学習環境をより美しく整備していただきました。



今年度のまとめ

今年度はコロナ禍において感染拡大防止を鑑み学校での行事や学習体験も制限され中止となる事業が多かったです。その中でも感染対策を行いながら中３学習会やゲストティーチャーを招いての学びは実施することができました。保護者･地域の方々に学校にきていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

来年度に向けて

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立鼓阪小学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする**

今年度の取組紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。その中で、実施できたものから１つ紹介します。

・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に１・２年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、三つあります。一つ目は、児童が自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。二つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。三つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させることです。



主な活動の流れは、５月菜の花刈取り、６月脱穀と搾油、９月東大寺に献納、１０月種まき、１１月移植です。５月は休校中だったので教職員で刈取りは行いました。



今年度のまとめ

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多い校区です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配ではありました。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りを持ち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

来年度に向けて

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ禍に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立佐保小学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**佐保に生きる（地域と共に）**

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープを通して～



10 年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続き NPO 法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくことを学んでいます。今年度は、昨年度までに整備したビオトープに循環する小川に初めて水を流し、活動を広げました。また、中庭の一部にあるバタフライガーデンに柑橘系の苗木を植え、水やりや肥料やりなどの活動をとおしてゲストティーチャーから自然環境についての学びを深めました。





地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

地域や保護者の協力を得ながら、講師や教員の指導の下、イベントや学校行事・PTA 行事の場で日頃の練習の成果を披露し、地域とのつながりや地域の活性化にも貢献しています。本校のマーチングバンドの活動は、校区にとっての伝統であり、守り受け継ぐ心が子ども達にも根付いています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままなりませんでした。けれども、練習場所を分散したりマスクを着用して練習できるパーカッションを多く取り入れたりしながら、伝統を守るべく練習を続けました。

【今年度のまとめ】

自然環境学習では、ビオトープに循環させる小川に水を流したりバタフライガーデンに植樹をしたりすることを通して、学びを深めることができました。地域連携活動（マーチングバンド）は、地域の方と触れ合う発表の場がありませんでしたが、臥薪嘗胆の思いで練習を続け、関係の皆様のご協力のおかげで、金管バンドフェスティバルに参加することができ、達成感を味わいました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も実施できるような知恵を出し合い、活動を充実させていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立鼓阪北小学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**地域とのふれあい、人・もの・こと　との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる**

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、様々な事業の中止を余儀なくされました。毎年、地域の方々、保護者と学校職員との交流の場であった「菜の花まつり」は断念しましたが、本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、感染防止対策をしながら、ボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。

「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、５年生が東大寺と春日大社に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。

５年生



油絞りのため脱穀作業

５年生からバトンを受け継いだ４年生



菜の花の間引き作業



菜種油の奉納

【今年度のまとめ】

今年度は地域交流の機会をもつことが難しく、活動を中止した事業もありましたが、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、各活動を深化・発展させてきました。２学期から「お話したっきゅうびん」さんが朝の読書の時間（毎月 2 回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくれました。「いのち」や「きずな」をテーマにした話やちょっと笑えるユニークな話を聞かせてくれます。コロナ禍の中、心の潤うひと時になっています。

また、学校図書館の大規模環境整備を行ってもらいました。市立図書館の司書さん延べ 40 人の方々と地域ボランティアの方々で「学習センター」「読書センター」として機能できる図書館にしていただきました。

【来年度に向けて】

今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。多くの方に協力いただき環境整備をして頂いた学校図書館を大いに活用し、読書推進活動を充実させていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立佐保幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**地域の自然環境や様々な人との関わりをいかした体験を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、佐保幼稚園で学んだことを誇れる子どもの育成**

【今年度の取組紹介】

○　マリーゴールドでの染色（環境整備事業）



春、職員やボランティアで時期を逃さず花や夏野菜の種や苗を植え、子ども達が臨時休園後すぐに活動できるようにしました。6月からマリーゴールドの世話をし、2学期にたくさんの花を咲かせました。子ども達は、花で飾りや色水をつくったり、オアシスに生けたりといろいろな遊びに利用しました。特に5歳児は、マリーゴールドの花で染色を経験しました。収穫した花を煮詰めて染め液を作り、布を縛って漬ける等、初めての事ばかりでした。綺麗な黄色に布が染まり、糸をほどくと染まらなかった丸い模様が浮かび上がると、子ども達は、目を見張りました。出来上がった喜びを味わうとともに、自然の力や科学的な不思議さも感じることができました。

○　英語で遊ぼう（異文化ふれあい事業）



昨年度から始めた「英語で遊ぼう」では、ゲストティーチャーに来ていただき、音楽や絵本、ゲームやダンスを取り入れながら英語に親しんでいます。体を動かしたり、歌ったりすることで英語がより身近に感じて楽しむことができました。終わってからも、友達同士と英語で言葉を交わしたり、教わった歌や言葉を口ずさんだりする姿も見られました。英語を通して異文化に触れることで、いろいろなことに興味や関心が広がっていきました。

【今年度のまとめ】

・今年度は、感染症拡大予防対策を講じての取組となりました。特に子ども達に大切な人との関わり・ふれ合いができず、職員と地域の方が活動の方法を探り検討したり、活動の意義を再確認し合ったりしながら進めてきました。その中で子ども達は、自ら感染症予防対策をしながら活動し、地域の方への親しみや感謝の気持ちをもつとともに、自己肯定感が高まりました。

・大佛鐵道公園や佐保川、鴻の池運動公園、植村牧場など、地域の自然環境や施設への園外保育を取り入れたことで、「佐保に生きる」の第一歩「佐保を知る」ことができ、地域に興味や関心を持つきっかけができました。また、子どもの姿や話から保護者も地域に関心を持つことにもつながることができました。

【来年度に向けて】

・今年度の見直しをいかして、地域の方とのつながりを持ち、感じたことや学んだことを表現し、次への意欲や活動に考えて行動できる子ども達をめざしていきたいと思います。

・地域を知ることを続けながら、今年度の活動で興味や関心を持ったことを更に深められる内容を検討して取り組み、保護者への啓発に努めていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立若草こども園運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**地域や小学校との連携を大切にし、様々な人のふれあいや体験活動を通して豊かな心と体を育む。**

【今年度の取組紹介】



○畑づくり事業では、地域の方に畑の先生として来ていただき、サツマイモの苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋には収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。



○体力づくり事業では、子どもたちの体力向上、体幹を意識した運動能力の向上を目的に体操教室の先生に来ていただきました。運動器具による指導やうまくなるコツを一人一人丁寧にアドバイスしてもらうことで、様々な運動遊びに積極的に取り組み、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができました。



○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど多彩なバリエーションでお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話などを子ども達は毎回楽しみにしていて、想像力を豊かにし、集中して話を聞く力に繋がっています。

【今年度のまとめ】

熱心で温かい地域の方々との連携を大切にしながら、様々な生活体験を広げることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、体力づくりの活動では、年齢に応じた運動遊びに繰り返し取り組む中で、やればできる喜びが自信となり、次の活動に向かう意欲へと繋がっています。

【来年度に向けて】

これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、来年度はさらに園・家庭・地域の連携を深めながら、内容の充実を図り、子どもの体力向上と笑顔あふれるこども園をめざしていきたいと思います。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**伏見中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち、心豊かに、ともに生き抜く子ども**

取 組 目 標　**「つながる力を育てよう」**
～地域の一員であることを自覚し、誇りを持つ子どもを育てる～

【今年度の取組紹介】.

あやめ池小学校の図書ボランティアでは、通常本の修理や新刊のブッカーなどの作業のほかに、ブックトーク(テーマに沿った本の紹介)を行って子どもたちが本に親しむきっかけづくりをしています。例年であれば各教室に行き直接子どもたちの前で行ってましたが、今年はそれができないためビデオに撮って紹介しています。画面を通してなのでわかりやすく興味を持たせるよう工夫しています。地球の成り立ちを以前は黒板をはみ出す模造紙を使って表現していましたが、ビデオでは 30 センチの定規に置き換え生き物の誕生が 5.22 センチ、人間になったのは 29.9987 センチといった具合に表現しました。今はできることを継続し、無理のない範囲で楽しく活動しています。

写真は、一番上がコロナ前、教室で子ども達の表情を見ながら活動できていましたが、二枚目は、コロナ後。ビデオを通しての活動風景です。







【今年度のまとめ】

コロナ感染拡大の影響で、1 学期は活動自粛。2 学期から、ようやく感染防止策をとりながら、活動を開始。残念ながら、地域清掃や、自治会の活動も全て中止となったため、参加もできず、それぞれ学校の方針により、地域との交流の場である、昔遊びなどができなかったところもありました。

中学においては、少しずつ子どもたちの学習に対する取組が落ち着きだした秋ごろから、漢検を第二回から実施しましたが、やはり、資格取得に対する学習意欲は強く、多くの受検があり、手ごたえを感じることが出来ました。

【来年度に向けて】

コロナが収束方向に向かったにせよ、あまり派手な活動はせず、地道にできる範囲で子ども達をサポートできるよう努めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立伏見中学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生き抜く子ども**

取組目標　**「つながる力を育てよう」　～「伏見中　大好き！」と心から言える日のために～　地域と共に育つ生徒の育成**

【今年度の取組紹介】

◆「１００万回生きたねこ」の読み聞かせ（９月２５日）

図書ボランティアさんに読み聞かせをしていただきました。毎年１年生を対象におこなっていただいています。「言葉を一言ずつはっきりと聞き取ることができ、話の筋が良く分かりました。」、「本のイラストの見せ方が上手で、お話の世界に引き込まれました。」「ぜひ、また来てください。」と、読み聞かせならではの感動を味わうことができたようでした。



◆図書室環境整備（通年）

中央図書館の司書さんが来校される時に合わせて、ボランティアさんたちも来てくださっています。司書さんの専門的なご意見をお聞きしながら、本の配置、新刊の選書等おこなっています。昼休みの開館時には生徒たちと話をし、希望図書の聞き取りや、おすすめ本の紹介をしてくださいました。図書室に行く生徒数が増え、本に親しむ機会が多くなったと感じています。来年度以降もさらに充実した取組にしていきたいと考えています。



【今年度のまとめ】

新型コロナウィルス感染症対策をとりながら慎重に活動をすすめました。毎年３回おこなっている漢字検定は２回にしました。教室、手指の消毒、マスクの着用、検温等、徹底しました。図書ボランティアさんたちは来校する人数を制限し、マスクとマウスガードの併用着用で対策してくださいました。外でおこなっている花植えボランティアや環境整備清掃などは地域の方々と生徒たちが一緒に活動することができました。古くなっていた校門横フェンス沿いの掲示板を「どうにかできないものか。」と地域の方からお声をいただき、美術部が絵を描きました。通行する方々にも喜んで見ていただけるものが完成しました。地域連携を主軸とした、「地域と共に育つ生徒の育成」を目指し、今年度はできることを考えて、取り組むことができました。

【来年度に向けて】

今年度はふれあい行事が全く開催されませんでした。毎年生徒が活躍する地域交流事業や地域ボランティアに参加することもできず、残念な一年でした。こんな時だからこそ、情報発信・啓発活動にも力を入れ、コーディネーターやボランティアによる、よりよい体制づくりに取り組みたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立伏見小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標　**「いきいきわくわく地域とともに」～伏見でふれ合い、学び、育つ伏見っ子～地域に根ざした「自ら学ぶ子ども　心豊かな子ども　たくましい子ども」の育成**

【今年度の取組紹介】

主な柱を「地域連携による伏見まつりの開催～子どもの笑顔が地域を笑顔に～」「地域文化遺産学習等を通じた学校教育活動の充実」「夏季清掃や本の補修作業等を通じた学校環境整備」とし、取組を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅に縮小し、取組を実施しました。

「子ども見守り活動事業」では、子どもの登下校の時間に多くの地域の方々に通学路に立っていただき、安全を見守っていただきました。また、今年度は、見守り隊員紹介式をリモートで行いました。

学校環境整備の側面からは、地域ボランティアの方々と自然委員会の子どもたちが一緒になって花壇や中庭の整備等を取り組みました。今年度は、中庭にある池の清掃を行いました。また、図書ボランティアの方々と図書委員会の子どもたちと一緒になって図書室の蔵書補修等を行いました。読み聞かせで使用する本が増えてきたので、整理するための本棚を作成しました。このように、多くの方々が、より良い学校環境づくりに力を尽くしてくださいました。





【今年度のまとめ】

教育活動の活性化、地域拠点としての学校の機能の維持向上、子ども・地域・学校相互のより良い関係形成の面において、次のような様子から、一定の効果を得ることができたと考えています。

・地域の方との交流の機会が少なくなったが、その少ない機会の中でも、子どもたちが地域の方へのお礼の気持ちを伝え活動を通して、地域に対する愛着、関わってくださる方々への感謝の気持ち等が育ってきました。

・学習を通して、子どもたちが自分にできることを考える等、今後の素地となる活動や体験を行うことができました。

【来年度に向けて】

諸活動に携わってくださる方の世代交代や新たな人材の参加は徐々に進みつつありますが、継続的かつ安定的な人材の確保が課題であると考えます。また、毎年予算が減額されることや働き方改革の観点からも、事業の見直しの必要があると考えます。地域の方の今まで以上のボランティア的協力や教職員の地域行事への参加方法を検討していく必要があると考えます。更に、コロナ禍において、どのように取組を実施していくかを検討していく必要があると考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立あやめ池小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子ども**

取組目標　**「出会いと体験から豊かな学びを」－地域ぐるみの子育て－**

【今年度の取組紹介】

本校では、２つの団体の方々が図書館教育の充実にご尽力いただいています。本との出会いを通して、心豊かな子に育ってほしいと願っています。

【お話の会】

地域のボランティアの方が、各教室で本の読み聞かせをしてくださっています。今年度は、コロナの影響でライブの回数を控えて、録画配信にもチャレンジしていただきました。子どもたちはあっという間に、物語の世界に引き込まれていきます。



【図書ボランティア】

自作の紙人形・脚本を用いたパネルシアター劇で、本の紹介をしていただいています。教科書に掲載されている物語の作者の他の作品を中心に録画配信にチャレンジいただきました。また、本の修繕や図書館の充実にもお力添えをいただいています。子どもたちの読書環境が充実しています。



【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策と本事業の一層の充実を考えての取組となりました。限られた中ではありますが、学校に地域の方が集まっていただくことで、学校と地域の連携がさらに深まり充実し、新たな取組が創造できると思います。ICT を活用した取組は今年度から始めていただきました。関わってくださったボランティアさんの累計は 1900 名を超えました。すべての方々のご尽力をもって子どもたちが「心豊かに育つ」学校教育が展開できたと考えております。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策と本事業の充実をすべての関係者の皆様のお知恵をいただきながら、「地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子どもの育成」に向けた取組を継続・発展させていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立西大寺北小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取　組　目　標　**自分たちが暮らす地域に親しみを持ち、自分たちが地域の人たちに支えられていることを感じられるような行事を作っていく。**

【今年度の取組紹介】

◆ぶっくらばこ図書室環境整備（通年）



ぶっくらばこの活動として例年は図書室の環境整備と読み聞かせを行っています。しかし今年度は外部からの来校者を減らすことや、子どもたちの密を避けるために、読み聞かせ事業を実施することができませんでした。しかし、コロナ禍の過ごし方として、読書活動を啓発し、書籍を増やしたこともあり、ブッカーかけや棚の整理などに力を注いでくださいました。おかげで子どもたちが図書室に通う機会も増え、来年度以降もさらに充実した取り組みにしていきたいと感じています。

◆昔あそび（１月２４日金曜日）



毎年、地域の方々に「昔あそび」を教えていただいています。今年度はコロナ禍の中での実施に戸惑いもありましたが、ソーシャルディスタンスを保ち、時間にゆとりをもって実施しました。コマ回し、あやとり、羽子板など、様々な遊びを教えていただき、一緒に楽しむことができました。この交流を通して、地域の方々と子どもたちとの繋がりが深まり、子どもたちが自分の町を好きになる大切な行事となっています。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、例年実施してきた事業の見直しを行わざるを得ませんでした。これまで毎年行ってきた伝承文化事業（能体験）や PC サポート事業、読書啓発事業（読み聞かせ）については、外部の方と子どもたちの関わりが密になるため、中止に至りました。しかし校内環境整備についは、例年のように一度に大勢の参加者を募って子どもたちと作業することは避け、期間を設けて参加者が分散するように活動を行いました。また、昔遊びについては、時間短縮、地域の方々の来校者数、実施場所などに工夫を凝らして実施することができました。

コロナ禍の中で、事業を精選する良い機会になったと捉え、来年度につなげていきたいと思います。

【来年度に向けて】

今年は中止した事業が大半で、ホームページでの学校の取組や地域との交流の紹介が少なくなってしまいました。来年度は今年度の経験をいかし、どの活動をどの程度まで実施できるのかを、コーディネーターと協議しながら実施していきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立西大寺北幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標　**身近な人と人との輪の中で、豊かに学び、自ら考え行動する子どもを育成する。**

【今年度の取組紹介】　**～地域の人と一緒に楽しもう事業～**

【サッカーを楽しもう】

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、年４回運動遊びやサッカーを教えていただきました。今年度はクラスごとに時間を分けて行いました。準備体操から始まり、合図を聞いていろいろな動きをしたり、ボールを蹴ってシュートをしたりしました。４歳児は、友達と一緒に動くことが楽しく「走るの楽しいな」「ゴールに入った」と喜んでいました。５歳児は最後の試合では途中で作戦会議をして「ボールがきたら、みんなで攻めよう」など友達と相談しながら進める姿に成長を感じました。



【習字を楽しもう】

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、５歳児が年３回、墨や筆を使って習字を教えていただきました。手や体も大きく動かしながら、筆の動きを体験した後、筆を使って細い線や太い線から始まり、色々な字を書きました。「今日は何を書くのかな」と楽しみにし、「『た』って『こ』の字が入ってるなあ」など発見しながら、話もしっかりと集中して聞き、「大きく書けたよ」と意欲的に取り組んでいました。文字に興味を持つきっかけにもなりました。



【今年度のまとめ】

地域の方やゲストティーチャーとの体験活動は普段経験できないことに触れる機会となり、子ども達にとって豊かな学びとなりました。また、地域の方々がいつも温かく接してくださることで、回を重ねるごとに、子どもたちは親しみを感じ、自分から挨拶をしたり話しかけたりするなど積極的にかかわっていく姿につながりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、学年やクラスごとなど、時間も限られる中でありましたが、子ども達は毎回活動を楽しみにしており、絵本の読み聞かせ活動では豊かな心情や話を聞く態度が育まれました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方や子ども達が安心・安全に取り組めるように、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、園、地域、家庭と連携し、子どもにとってよりよい心豊かな体験ができるように、引き続き事業を継続し、保育の充実が図れるように検討し、計画して行きたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立伏見こども園運営委員会**

めざす子ども像　**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標　**地域とのつながりを繋げる・広げる・深める**

～地域の教育力を活かし、心揺さぶられる感動体験の充実と心豊かな子どもの育成～

【今年度の取組紹介】

◇木製遊具づくり（環境整備事業）

子ども達が主体的に活動する場を整えるために、環境整備事業として地域の方と木製遊具をつくりました。木工職人の方と地域の方が組み立てる前に、自分たちができることを考え、木が丈夫になるように地域の方とペンキ塗りをしました。「絵の具みたいに塗るんだね。」「お家でお父さんとしたことあるよ。」などと地域の方と話をし、少しずつ出来上がってくる遊具に「早くできてほしいな。」「ここから登るんだよね。僕たちが塗った木ははしごの部分だ。」と、日々期待が膨らみました。子ども達が自然と挨拶したり、地域の方や木工職人の方の名前を呼び、声をかけたりする姿も見られ、遊具が完成後、地域の方を招いて「竣工式」を開きました。



また、保護者を巻き込んで、遊具の名前を募集して決め、子ども達の思いが詰まった『ふしみスライダー』に決まりました。「上に登ったら、景色がとってもきれい。」と、新しい遊具にとても喜び、思い切り体を使って遊ぶ体験を積み重ねることができました。後日、新しいボランティアの方と、遊具と組み合わせて使うことができる木製用具を一緒につくりました。みんなで取り組んだ木製遊具づくりが、地域とのつながりを広げ、様々な人と関わる楽しさを感じ、温かい心に触れる機会となり、地域の方との関係を深めることができました。



◇蚕の飼育・喜光寺へ園外保育（地域学習事業・世界遺産学習事業）

５歳児が中心となって、蚕を育てました。「どうやって大きくなるんだろう。」と、図鑑で調べたり、地域の方に教えてもらったりしながら、毎日世話を続けることで、生き物へのいたわりの気持ちが芽生えました。昔は、生活するために蚕が必要であったことや、蚕は繭をつくり成虫になると餌も食べずに命が尽きることを知り、昔の人に思いを馳せながら、自分たちの生活と結びつけて考え、取り組みました。いよいよ蚕が繭になる姿を見届け、一本一本の細い絹糸を何か形に残したいと自分たちで考え『絹糸のうちわ』と『りん座布団』をつくり、命への感謝の気持ちをもち、喜光寺へ奉納することにしました。副住職から「大切な命を使ってつくられたものです。大切にします。」と聞き、命へのいたわり・大切さを改めて感じました。自分たちの住んでいる町にある喜光寺に、大切に育てた蚕の証があることは、子ども達の心にずっと残り、豊かな心を育むことができました。





【今年度のまとめ】

地域の方と交流する「いきいき広場」や「絵本読み聞かせ」を通して、子ども達が地域の方と心を一つに取り組んだ活動や、英語に触れて遊んだりサッカーで体を動かして活動したりする体験活動は、子ども達の心を動かし、人と関わる嬉しさや楽しさを感じ、心豊かな子どもの育成につながりました。また、地域の方や保護者に掲示物で啓発したり、自由に参観する機会をつくったりしたことで、保護者から「こども園に地域の方の力がこんなにも注がれていること改めて感じた。」「講師の先生と遊べる日を、毎回とても楽しみにしています。」等の声が聞かれ、園での取組を理解していただくことができました。

【来年度に向けて】

地域の方とのつながりを広げ、深められることができる方法を考え、取り組んでいきたいです。今年度取り組んだ活動内容を踏まえ、次年度も継続して取り組む活動と、子ども達の実態に合わせた活動を取り入れながら年間計画に位置付け、計画的に進めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**富雄中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**『命や人を大切にする子』『感謝の気持ちを大切にする子』『夢に向かって進める子』『富雄を愛する子』**

取組目標　**小中全てでスタートしたコミュニティ・スクールと連動し、幼稚園も含めた 11 年間を一貫した考えのもと地域と学校が協働する体制の定着を目指す。**

今年度の取組紹介





例年郷土学習として取り組んでいる「歴史講座」ですが、今までの「一堂に集まって共に学ぶ」という開催方法がコロナ禍で密を避けるため出来ず、代わりにできる取組を模索しました。実行委員会を組織し協議を重ねた結果、地域の歴史、風土を散策しながら学ぶスタンプラリー「ふるさと発見ウォーク」を実施することになりました。用意したラリーカード、地図、資料を手に参加者がそれぞれで巡り、ポイントで中学生ボランティアから解説を聞き、ゴールを目指しました。未就園児から 80 代まで、多くの親子やお友達同士が参加してくださり、お天気にも恵まれ、この学びの機会を楽しんでいただけました。密を避けるため出発地点も 2 か所に分け、それぞれのペースで歩けるように配慮した結果、一体感に欠ける取組になるのではと心配しましたが、参加された皆さんは故郷を知るというテーマを共有し、歩きながらも様々な交流を持っていただいたようです。来年度以降もこのような取組にリクエストをいただきました。資料を準備するための作業が実行委員会のメンバーにとっても地域を学ぶ良い機会になりました。

【今年度のまとめ】

これまで継続してきた取組を、コロナ禍を理由に途切れさせることは考えず、何とか方法を考え、対策を取り、実施しました。集う場所を分散させたり、一斉に取り組むのではなく、それぞれで取り組めるようにキットを作成して配布したりと、今年度経験したことがコーディネーターにとってはスキルアップにつながったように感じます。また、今まで継続してきたことが地域や学校にしっかりと根を張っていることを感じることもできました。こういう時期だからこその新たな地域とのつながりもできましたので、今後も関係を大事にしていきたいと思います。

【来年度に向けて】

現在の制約された状況がいつまで続くのか分かりませんが、「コロナ禍における学びの継続」を合言葉に、活動を発展させていきたいと思います。必要なことをあきらめないで、できる形にアレンジし、慎重さをもって推進していくための体制はできています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄中学校運営委員会**

めざす子ども像　**命や人を大切にする子　夢に向かって進める子**

感謝の気持ちを大切にする子　　富雄を愛する子

取組目標

地域と一体になった活動を通し、めざす子ども像に合わせた取組みの充実。

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域と共に例年行ってきた取組が大きく制限される中、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるかを、コーディネーターと話し合いを重ね、工夫をしながら今できる新しい方法での取組をすすめることができました。

ボランティア部では、毎年訪問させていただいていた、色々な施設にコロナの影響で訪問することができず、何か今できることはないかと考え、施設へのマスクの寄付を行うことができました。また、今年は、全ての地域での夏祭りが中止になり、「富より団子」を販売することができませんでした。そんな中、少しでも多くの人に「富より団子」を知ってもらうことができないかと考え、コーディネーターと生徒が地域のスーパーやお店にプレゼンテーションに行ったことで、実際に商品として置いてもらうことが出来ました。キャリア教育においても、中学３年生を対象に、各企業で実際に面接等の人事を担当されている方を招いていただき、少人数での模擬面接の体験を行うことが出来ました。この取組は、生徒たちにとって実際に人事を担当されている方からのアドバイスを聞くことが出来、貴重な体験になりました。国際理解教育においても、今年度はJICAの海外協力隊に行っていた方をコーディネートしていただき、日本人から見た各国の様子について話を聞くことが出来、それぞれの国の実際の様子や文化を学ぶことができました。





【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の為、人が集まっての活動が大きく制限される中、地域の方々と教員及び生徒たちが従来の方法にとらわれず、今できる新しい取組の方法について検討を重ね工夫しながら実施することができました。その結果、年度の初めに思い描いていた以上の活動を実施することができました。また、それぞれの活動内容について見直しを行った結果、新たな取組を実現することができたものもあり、コロナ禍の中でも効果的な取組を行うことができました。

【来年度に向けて】

今年度の経験を生かし、その時その時の状況の中、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるのかをコーディネーターと教員がしっかりと熟議し、それぞれの取組に教員も積極的に参加することで、より一層地域と協働できるよう努めていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄北小学校運営委員会**

めざす子ども像　**命や人を大切にする子　感謝の気持ちを大切にする子**
夢に向かって進める子　富雄を愛する子

取組目標
〇地域の人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習等の充実
〇学んだことや取り組んだことを地域や保護者ボランティアに伝え、見てもらう機会をもつことで児童の表現力、発信力、コミュニケーション力を高める。
〇地域の方とのふれあいを通して、挨拶する態度を育てる。

【今年度の取組紹介】

ホタルの学習（４年生・環境学習）

“富雄のホタル”を通して自然を守る営みについて学習しました。
ホタルの餌“カワニナ”の育成現場を取材して作成した学習用ビデオを視聴した後、地域のカワニナ博士に、カワニナの飼育方法を教えてもらいました。飼育して 100 匹まで増えたホタルの餌カワニナ、いよいよ放流のときがやってきました。地域の方と一緒にホタルの生息地へ向かい、「来年、たくさんのホタルが飛んでいますように！」と願いを込めて放流しました。また新たに 10 匹のカワニナを採取しました。来年のカワニナ放流に向けて、飼育を始めています。



地域の方とカワニナを放流

ビデオレターで町たんけん（２年生・生活科）

子どもたちの生活する富雄の町をたんけんしました。
子どもたちもよく知っている富雄の交番・郵便局・青果店・米穀店・生花店・文房具店に、自分たちの考えた質問をビデオレターとして届けました。町の皆さんがひとつひとつに丁寧に答えてくださったものを映像にして、今度は子どもたちへ届けました。実際に会えないけれど、ビデオレターでつながることができました。「すきな花が分かったよ、こんどお花屋さんにいきたいな」という声も聞こえました。富雄の町のすてきな所や人をたくさん発見できました。



文房具店からのビデオレターを視聴

【今年度のまとめ】

コロナウイルスの影響で、地域に出て体験できなかったり、地域の方と直接出会えなかったりすることもありましたが、動画を作成するなどして、子どもたちが、地域の方に質問したり考えを伝えたりする機会をとりました。繰り返して視聴できたり伝え方を何度も工夫できたりする動画の良さもあり、子どもたちにとってより質の高い学習となりました。今年度も、挨拶に重点を置いて取り組みました。地域とのふれあいの中で挨拶をすることで、地域の方からは「地域も元気がもらえる」と言っていただいています。

【来年度に向けて】

コロナウイルスの影響から、地域と学校の打ち合わせを十分にできなかったことが課題にありました。来年度は、「子どもにどんな力を付けたいのか」を教員とボランティアが共有し、役割を明確にして子どもたちに関わることで、「自ら進んで活動しようとする児童の育成」を進めます。動画活用や小グループ活動等のウイルス感染対策を講じ、富雄で出会う「人」「もの」「自然」から、「富雄を誇りに思う児童」を育てていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立鳥見小学校運営委員会**

めざす子ども像　**命や人を大切にする子　　夢に向かって進める子**
感謝の気持ちを大切にする子　富雄を愛する子

取組目標　**・ゲストティーチャーを招聘するなど多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。**
・地域の方と共に活動することで、人と出会うことの楽しさ・素晴らしさ、地域の良さを知ると共に、地域に対する誇りと自信、地域を愛する心を育てる。

今年度の取組紹介



○図書活動支援事業

児童と地域の方と間近で接触することに配慮し，図書の本のブッカーかけや季節感あふれる図書室の整備をしていただきました。図書室の環境が季節ごとに変わり、心豊かな学校図書館教育を行うことができました。



○体験学習事業（1 年）

１年生は，昔遊び体験を実施できませんでしたので、地域コーディネーターの方の協力により「大型紙芝居」の鑑賞をしました。初めての取組でしたが、感染症予防対策をしっかりしていただき、１年生は畳１畳の大きな紙芝居に吸い込まれるように鑑賞していました。お話は奈良の民話を取りあげていただき、「奈良にもこんなお話があるんやな。」と興味を示してくれる子たちもいました。地域のことを知り、興味を持ち、地域を愛する子の育成のきっかけづくりになりました。

今年度のまとめ

今年度はコロナウイルス感染状況をふまえての取組になりました。地域コーディネーターの方と学校とで今までの事業を見直しました。同じ形で実施できる取組・形態を工夫してできる取組・新たな取組に仕分けを行いながら地域ボランティアの方等に協力をいただき実施することができました。感染症予防を行いながら、福祉体験（4 年生）、命の学習（2・6 年生）、花植え（環境委員会）を行うことができました。形態を工夫して鳥見バザー（特別支援学級）や図書活動支援事業（全校）を行うことができました。新たな取組として大紙芝居体験（1 年生）を行うことができました。また、変わらず子どもたちの登下校時の安全見守り活動を続けてくださいました。地域コーディネーターのお知恵やボランティアの方々のご協力に感謝いたします。

来年度に向けて

来年度も今年度同様，体験学習事業，環境整備事業，学習ボランティア事業，子ども安全見守り事業の 4 つの事業を中心に取組を展開していきます。コロナウイルス感染状況を見極め、今までの取組を考え直し、工夫して実施することにより、富雄中学校区の取組目標が達成されるよう工夫改善しながら実施していきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄北幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

命や人を大切にする子　夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子　富雄を愛する子

取 組 目 標

様々な事業を通して、地域の人と触れ合い、関わることで、コミュニケーション力を高めたり、感動体験を積み重ねていくことで豊かな心を育てたりする。また、事業内容を多くの方に知らせていくことで、人が集まり、協働していくことができる。

【今年度の取組紹介】

◎日本の心「思いやり」を大切にした伝統文化に触れて



剣道教室では、剣道具を見て「かっこいい」「鬼滅の刃の刀だ」と目をキラキラ輝かせている子どもたち。竹刀の振り方、声の出し方はいつも以上に力が入っていました。日本古来の武道の基本精神である「礼に始まり、礼で終わる」の精神を学び、相手を敬い尊敬する気持ちをもつことの大切さと自分の心を整えコントロールする方法を知りました。



茶道教室では、作法を知り、相手のためにもてなす心得を学びながら、季節あふれる香合、茶碗、なつめ等を見せていただきました。お茶を点てたりいただくことは相手のことを考えたり、いろいろなことに感謝して行うことや自然の楽しさ・美しさを感じたりすることなど、茶道の「もてなし」と「しつらえ」を教えていただきました。

◎「お兄ちゃんたちに会いたいなぁ」中学生によるボランティア活動

中学生ボランティア部の生徒が、冬野菜の栽培ができるように畑作りや子どもたちが気持ちよく遊べるように、草引きや落ち葉集め等の環境整備をしてくれました。次の日、子どもたちは「わあ、外がきれい」「お兄ちゃんたちに『ありがとう』と言いたい」「会いたいなぁ」と感謝の気持ちをもつことができました。

【今年度のまとめ】

地域コーディネーターや地域の支援者の顔写真と様子を掲示して知らせたことで子どもたちだけでなく保護者も顔を知りつながることができました。保護者による園評価アンケートでは、９８％の良い評価が得られ、地域コーディネーターの方からも体験された保護者や地域の方の率直な意見を聞いたりしながら取組の高評価を得ました。地域の方に温かく見守られ、感謝の気持ちや思いやりの心を育んだり、地域のすばらしさを知ったりしながら、子ども・保護者・地域の方が一つとなって、心に蓄積される体験となりました。

【来年度に向けて】

コーディネーターの方々と一緒に人とかかわり、人とつながりが持てる体験活動になるように計画・実践・振り返りをしていくと共に、保護者や地域の方の他の方々にも園の取り組みをさらに理解していただき協力が得られるようにタイムリーな啓発活動にも努めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立鳥見幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

命や人を大切にする子　　夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子　　富雄を愛する子

取 組 目 標

〇地域の方との活動や行事を通して、触れ合いを深められるような取り組みの充実。
〇幼児の心身の発達を促す直接体験ができるような保育内容の工夫。

今年度の取組紹介

〇「三味線コンサート」

今年度の新規事業として、幼稚園に地域の三味線教室の方々が来てくださり、コンサートをして下さいました。実際に三味線に触らせていただいた後、三味線で「アンパンマンマーチ」「さくら」「炭坑節」などの曲を演奏していただきました。子ども達は「三味線って、初めて見た」「音が響くな」と初めての三味線の演奏に体を乗り出して聞いていました。演奏の後、阿波踊りの着物に着替えたゲストティーチャーの方に、阿波踊りを見せていただきました。曲に合わせて、地域の方のしなやかな手足の使い方を見ながら子ども達も踊ってみました。日本の伝統楽器に触れ、阿波踊りを体験するいい機会となりました。



〇「茶道教室」

地域の茶道教室の先生にゲストティーチャーとして来ていただき茶道教室を行いました。先生やボランティアの方の着物姿や、掛け軸や一輪挿しの花。いつもと違う雰囲気に子ども達は、興味津々の様子でした。和菓子をいただき、先生にお点前を見せていただいた後、４歳児は、ボランティアやコーディネーターの方に点てていただいたお茶を、５歳児は自分で点てたお茶をいただきました。日本の四季を大切にする気持ちやおもてなしの心に触れるいい機会となりました。



今年度のまとめ

コーディネーターの方々と相談しながら取組を進め、多くのボランティアやゲストティーチャーのご協力により、保育内容を充実させ、環境改善を行うことができました。子ども達は地域の方々との触れ合いを通して、感謝の気持ちや安心感をもてるように積み重ねてきました。今年度は、様々な日本の文化を身近に体験することができました。

来年度に向けて

今年度同様、コーディネーターの方々と連携し、小学校以降の学びにつながる心身を育んでいけるような豊かな体験や園内の環境づくり等に、地域の方々の力添えを得ながら取り組んでいきたいと考えています。また、子どもたちの活動の広報活動に努めていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**都南中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像

○ みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
○ 感性豊かで、たくましく自立する子ども
○ 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
○ 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

すべての園児・児童・生徒に 15 年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることで「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

今年度も例年通りＳＡＫＵＲＡ夢フォーラム、ＳＡＫＵＲＡ夢フェスタをはじめ様々に計画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を最優先に考え残念ながら中止といたしました。

そのような中でしたが、ＳＡＫＵＲＡ夢スクールは感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の２講座を開講することができました。





【今年度のまとめ】

様々な計画を何とか実施できるように検討しましたが多くの事業を実施することができず残念に思います。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの感染状況の予測は難しいですが、子どもたち・学校園・地域が協力して事業の実施に向けて検討していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都南中学校運営委員会**

めざす子ども像

- **○　みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
- **○　「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども**
- **○　感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- **○　地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- **○　共に汗して働くことのできる子ども**

取　組　目　標

自己有用感を育成し高めることで、学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

今年度の取組紹介

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりましたが、コロナ禍での活動は難しく、ほとんどの活動をやむなく中止することとなりました。しかし、活動や行事は出来なかったものの、今までの取組が実を結んでいるのか、アンケートの結果からは、生徒の学校や地域を思う心が育てられていると感じます。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力のおかげで読書推進活動が行われています。今年度は図書室の利用を制限しましたが、図書室内のリフォームを大々的に行いました。制限がなくなり、自由に図書室を利用できるようになったときの生徒の反応が楽しみです。



クリーンキャンペーンの様子

今年度のまとめ

今年度に関しては、やはりコロナの影響は大きく、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに行う様々な取組ができませんでした。

出来なかったからこそ、改めて地域の方々との交流の大切さを再認識できました。

また、活動をすることができたものに関しては、やはり生徒への影響が大きく、自己有用感の高まりにつながり、自己形成の一助になっていると感じます。

来年度に向けて

来年度も「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに掲げ、事業を推進していこうと考えています。地域の人にさらに学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立東市小学校運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなで力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に生かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取 組 目 標

学校と地域が連携・協働して学習環境を整備することを通して、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での事業の実施のため、できるだけ少ない人数でできる活動に絞って取り組みました。

○　絵本の読み聞かせ活動



毎週水曜日の朝の読書の時間に地域の方に来ていただき、絵本を読んでいただきました。今年度は１０月からのスタートで１年生を中心に読みに来ていただきました。それまでは、活動が制限されたり他の人との接触を極力減らすことが求められたりするなど窮屈な環境だったので、読み聞かせの時間は子どもにとって一服の清涼剤のような時間となりました。終わった後は、楽しそうに読んでもらった絵本の話をしている姿が見られました。

【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

上で紹介した絵本の読み聞かせ活動も当初は実施がむずかしいと思われていたのですが、何とか実施できました。人とのつながりが希薄になりそうな状況で、絵本が人と人をつなぎ、子どもの心を癒す大切な時間となり、意義のある活動になりました。環境整備事業では、いつもより少ない人数での作業でしたが、学校の環境整備を委員会や高学年の子どもたちと一緒に行い学習環境を整えました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの感染状況によって活動が実施できなかったり制限されたりしました。来年度も同様の状況が考えられるため、今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思います。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立辰市小学校運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に生かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗を流して働くことのできる子ども

取組目標

活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。

【今年度の取組紹介】

〇環境整備事業

学校園や学級園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

〇学習支援活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

〇読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生とともに行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。



〇児童の安全指導事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、１年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の一年となりましたが、そのような中でありながら今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。ペンキ塗りや職員室前廊下の飾りつけははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさんの地域の方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

依然として続くコロナ禍の中で、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続いての課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるようボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立明治小学校運営委員会**

めざす子ども像	○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども ○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども ○感性豊かで、たくましく自立する子ども ○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども ○共に汗して働くことのできる子ども
取組目標	地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。

【今年度の取組紹介】





明治地区のみなさんに協力していただき、３年生は「地域のくらしを守る」学習をしました。消防団のみなさんと、「ポンプ車見学」「放水体験」「質問コーナー」の学習を行いました。「放水体験」では、１人ずつ子どもたち全員が実際に放水させてもらいました。体験させていただいたホースは細いもので実際の消火活動の６分の１の力だそうですが、子どもたちにとってはなかなかのパワーで“本物に触れて”目を輝かせていました。消防団の方々は「普段は別の仕事をしていて、もし火事が近所であったら駆けつける」という大変な役割をされていることもわかりました。

現役の消防士さんからもお話を聞きました。子どもたちがこれまでに授業や体験活動から浮かんだ疑問に答えてもらう形で進めました。時間切れで聞ききれないほど、みんな熱心に学習することができました。お話を聞いて、「命をかけて火事から人を守る」使命感が子どもたちにしっかりと伝わっていることが授業後の「一人一言メッセージ」からわかりました。

自分たちの住んでいる町は、たくさんの人に支えられて、安全安心に暮らせるようになっていることに多くの子どもたちが気づくことができました。地域の方から「直接お話を聞く」「本物に触れる」ことで、子どもたちにとってより身近に感じることができ、めざす子ども像にせまれたと思います。

【今年度のまとめ】

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん持つことで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りをもち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思います。

【来年度に向けて】

地域との連携を更に深め、新たな取組の創設、人材発掘に努め、今後も「地域と共に歩む学校」をめざして取組を続けたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立帯解小学校運営委員会**

めざす子ども像
〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成**

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では，地域の方をゲストティーチャーとして招き，地域の方と共に活動したり，学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動，聞き取り学習として組み込んでいます。しかしながら本年度は，コロナウイルス感染拡大防止のため，大半の事業を断念せざるを得ず，本来の地域で決める学校予算の活動ができない１年間となりました。そんな中でも，何とか実施できた事業２つの取組を紹介します。

５年生における栽培活動においては，地域の方からお借りした田で実際に籾まきから田植え，秋には稲刈りの体験をさせていただいていましたが，本年度は稲刈りのみの体験となりました。身近なお米の栽培に関わり，地域の方とつながることで，地域の良さを知り，感謝の心が育まれています。



１年生の体験・交流活動では，生活科の昔遊びの学習で，地域にお住まいの方をゲストティーチャーにお招きし，凧あげのやり方を教えていただきました。地域の方々の知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は，児童の豊かな感性の育成につながっています。



今後も「３０万人の市民を先生に」という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために，さらに地域の方と子どもたちがつながり，学びの輪が広がることを願って取組を進めています。

【今年度のまとめ】

本年度は，地域の方とともに学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが，毎朝の登校見守りや上記活動で児童が地域の方と関わる中で，学校だけでは学べない体験をし，豊かな感性の育成につながりました。地域の方との活動は，学校評価において，児童・保護者共に 90%以上の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ，支えられながら地域の歴史を知り，地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら，地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と，豊かな感性をもち主体的に生きる子どもの育成を目指していきたいと考えています。また，取組の内容を多くの方に知っていただき，さらに継続・発展させていくために広報にも力を入れていきたいと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立明治幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

- ○ **みんなと力を合わせなかまと共に高まっていく子ども**
- ○ **「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども**
- ○ **感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- ○ **地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- ○ **共に汗して働くことのできる子ども**

取組目標　**豊かな心をもち、いきいきと活動する幼児の育成**

【今年度の取組紹介】



《ふれあい活動事業『ランラン広場』》

地域の民生児童委員さんにご協力いただき、製作、遊び、絵本の読み聞かせなど内容を工夫しながら楽しい時間を過ごす事ができました。今年度は民生主任児童委員さんが中心となりご来園いただきましたが、子どもたちも顔と名前を覚え、戸外で5歳児は「転がしドッチボール」、4歳児は「じゃんけんゲーム」を実施した回は、遊びを通して親しみの気持ちをもち、子どもの方から積極的に関わる姿も見られました。

《ふれあい活動事業『ふれあい体操』》

明治小学校の体育館をお借りし、山本三歌代先生を招聘して親子で活動しました。打合せの際、家庭内でも楽しんでいただける内容になるように、タオルやポリ袋など身近な物を使用した活動を提案してくださいました。また、子どもと保護者１名の参加にさせていただきましたが、１対１のふれあいや、体を動かす楽しさなども親子で味わってくださっていました。



【今年度のまとめ】

今年度は、コロナの影響もあり、実施できなかった活動もありましたが、新しい生活様式を踏まえた上で実施できるように、打ち合わせを重ね、子どもや参加者の動きや動線などを考慮した上で、内容を工夫して取り組みました。

子どもたちが様々な取組を通して、直接感動体験を味わい積み重ねられたことは、豊かな感性につながっていると思います。また、地域を身近に感じ、地域の方に親しみの気持ちをもてたことは、地域で生活する子どもたちにとっても、保護者にとっても、安心安全で暮らせることの一歩につながると思っています。

【来年度に向けて】

引き続き、地域の方との交流や、地域の方の教育力をいかした多種多様な経験活動を通して、子どもの豊かな感性を育んでいきたいです。また、子どもたちが地域の方に親しみの気持ちをもち、人と関わることで得られる感謝の気持ちや、自分を取り巻く地域を大切に思う気持ちを育てていきたいと思っています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立帯解こども園運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**地域に開かれた幼保連携型こども園をめざして**

【今年度の取組紹介】教育支援活動「地域の方から学ぼう！」

毎年運動会のオープニングで和太鼓を叩く年長児。年長５歳児 32 名も「自分たちの番だ！」と期待を持って過ごしていた中、今年度も地域の方に来ていただき和太鼓の指導をしていただきました。子どもたちは和太鼓を叩く地域の方の姿や力強い音、響きに心を打たれ「かっこいい」「やってみたい」と、自然に大きな拍手がわきました。バチの持ち方はもちろん、手の上げ方や構え方などを教わりながら、実際に太鼓を叩くことで、自分の音、友達の音を聞き、響きやリズムを体で直に感じて楽しむことができました。５歳児はその体験をもとに日々和太鼓を練習し、たくましい姿を参観で保護者の方々に見ていただくことができました。また秋には、「生け花体験」を行いました。遊びの中で園内の花を使って遊ぶ経験とは違い、地域の方から花の扱い方、見せ方なども教わり、一人一人が好きな花を選び、作品として意識しながら仕上げることができ、作品展で多くの保護者の方に見ていただきました。





【今年度のまとめ】

地域の方と一緒に進めてきた事業は、地域の方とのふれあいや関わりの中で、親しみや憧れの気持ちを感じながら、地域の方の協力なしでは経験できない様々な体験や学び、感性を豊かにする経験となりました。生け花体験や花いっぱい運動で自然物に触れ、園内の環境を整えたり花を植える経験から、「お花を育てる人」になりたいという子どももいて、いつも違う形での自然物とのかかわりは大変貴重な機会になりました。また、畑の先生や地域の方々にご協力いただいて取り組んでいる菜園活動や芋掘り・焼き芋パーティなども、これまで同様、継続しているからこそ経験として積み重なり、育てる喜びや収穫への期待、そして、食への意欲にもつながっていると感じています。また、体験している時だけではなく、園での生活や遊びにおいて体験・経験したことを活かして考える力にもつながっていると思います。感染症対策を行いながらの取組ではありましたが、こども園の教育・保育を地域の方々にご理解していただきながら、多くの協力を得て、事業や取組を進めることができたと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍で実施してきた今年度の取組方法を必要に応じて継続し、子どもたちの成長や経験につながるよう地域や保護者の方々の協力を得ながら、活動を計画するとともに、子どもたちが心を動かし夢中になって遊び込み、主体的に遊びを展開できるような園庭の環境を見直し整備したり、菜園、花壇づくりを進めていきたいと思います。また、これらの事業や活動を地域や保護者の方とともに進めていき、こども園の教育・保育への理解をさらに深めていただけるようにしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立高円こども園運営委員会**

めざす子ども像
〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標
・地域との関わりを通し、お互い認め合い、助け合い思いやる心を育てる。
・地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

高円こども園では、地域の方を招いての環境整備事業「花いっぱい運動」を行ってきています。コロナ禍の中で少人数での活動になりましたが、地域の方と共に花壇やプランターなどに季節の花を植えました。土の掘り方や花苗の持ち方、植え方などを教わり植えることが出来ました。自分達で植えた花に愛着を持ち、自ら水やりをするなど花に興味を持ち、開花なども喜ぶ姿が見られました。また地域の方から、木製の手作りプランターなども頂き、様々な場所で植物と触れ合える機会となっています。また今年度より、生け花体験事業を講師の方を招いて行い、子ども達が花器に花を生けました。花の名前などを覚えたり、茎を切る長さなどを考えたりしながら子ども達なりの感性で生けることを楽しみました。生けた花は、後日作品展で園内の子どもや保護者の方に見て頂きました。「花いっぱい運動」や「生け花体験」等を通して、地域の方に親しみを感じ、感性を豊かにする経験を行うことが出来ました。






【今年度のまとめ】

環境整備事業「花いっぱい運動」や生花体験、太鼓演奏など地域の方の協力を得ながら様々な体験や経験を積み重ねていくことが出来ました。様々な活動を通し子ども達は、優しい気持ち、思いやりの心を豊かにすることが出来ました。また年間を通しての太鼓演奏は、高円こども園の特色の一つで地域の方も太鼓を披露する場を楽しみにして下さっています。子ども達も太鼓を演奏することで目標に向かって心を一つにすることや自信につながる取組となっています。また５歳児の太鼓を見たり、聞いたりすることで４歳児は、自分たちが太鼓を叩くことへのあこがれを抱きながら、普段の遊びの中で竹太鼓を５歳児から教えてもらい叩く姿も見られます。地域の方のご協力をいただきながらコロナ禍での活動となりましたが子ども達にとっては貴重な体験となりました。

【来年度に向けて】

子ども達が今後も地域の方との交流を深めながら、自分たちの住む地域に親しみを持ちながら、感性豊かなしなやかな心と身体を育む取組が出来るようにしていきたいと思います。また、これらの活動を保護者や地域の方と共に進めながら、活動内容の充実をはかっていきたいと思います。そしてこども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域のこども園になっていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立辰市こども園運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**ひとりひとりの笑顔が輝く辰市こども園**

【今年度の取組紹介】



開園２年目を迎え、子ども・保護者ともに園の生活にも慣れ、安心しながら園生活を送るようになってきつつあります。

今年度はコロナ禍の中、新しい生活様式を身に付けながら、生活や遊び・行事に取り組んできました。

昨年度より継続している体力づくり事業「サッカー教室」は、地域に拠点を置かれている奈良クラブよりコーチを招き、体ほぐしから始まり、ボールに触れた遊び、最後にはチームに分かれミニゲームをしていただきました。子ども達は回を重ねるごとに思う存分体を動かすようになり、サッカー教室を心待ちにするようになりました。ミニゲームをする中で、友達同士切磋琢磨しながらボールを追いかけ、懸命にゴールを狙う姿が見られるようになりました。また、コーチにも親しみを持つようになり、笑顔で会話するようにもなってきました。



サッカー教室の始めと終わりにはきちんと整列し、コーチとあいさつを交わしたり、ゲームの中では簡単なルールを守ったりしながら遊ぶなど、規律や規範意識の芽生えにもつながっています。

２月には４歳児がサッカー教室に参加しました。楽しい経験をした子ども達は、「早く５歳さんになりたい」と、進級への期待にもつながりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、地域の方との触れ合いができにくかったり、来園していただく事が難しかったりする現状にありました。その中でも、人数を制限したり、時間を短縮したり、また密を避けた環境作りを工夫しながら、事業に取り組んできました。地域の方からは子ども達が園で遊びや生活する姿を見ていただき、園教育を知ってもらう機会になりました。今後も地域に開かれたこども園となるように地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中で、地域の方の教育力を生かした取組ができるように、今年度の経験をもとに、事業に取り組んでいきたいです。

令和２年度　取組報告　　**田原中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**・ふるさとを愛し、誇りとする子ども**
・思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
・よく考え、よく学び進んで実行する子ども
・人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標　**地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で例年通りとはいかない状況でしたが、「田原の子どもたちは、田原に住むすべての人で育てる」という考え方に基づき、これまで「交通安全立哨活動」、環境整備活動「どんごが丘整備作業」「田原ふれあい夢花壇」など児童生徒が安心・安全で心地よく学校教育に臨めるように、児童生徒とともに学習環境の整備に努めています。また、学習支援活動として、外国語の授業補助「外国語科授業支援」、放課後の学習支援「田原学び舎プロジェクト」、地域に伝わる伝統文化の継承「祭文踊りの指導」を行いました。



キャリア教育の一環として行う「職場体験」「田原合同大運動会」や、文化鑑賞会・人権講演会の共催などは、今年度行うことが出来ませんでしたが、学校の取組を地域に周知するための、多くの機会を設定し地域人材を発掘し、次年度はまた、地域人材を活かした支援を行っていきたいです。

【今年度のまとめ】

田原は、豊かな自然や伝統文化を地域の努力によって現在にまで引き継いでいる地域です。これまで学校では「よく考え、よく学び、進んで実行できる児童生徒」「思いを伝えあい、人とのつながりを大切にする児童生徒」「ふるさとを愛し、誇りとする児童生徒」の育成を目標に、様々な活動に取組んでいます。地域教育協議会では、人材の育成が大切であると考え、学校の教育活動を支援してきました。今年度は、テーマを定め、地域と学校がそれぞれの考えの共有できるように地域教育協議会で話し合ってきました。未来を生きる子どもたちに付けたい力を今後も共に考え、学校とともに「田原の教育」がさらに充実したものなるよう取り組みたいと考えています。

【来年度に向けて】

近年、田原地区では少子化・高齢過疎化が一層すすんでおり、学校においても、それにともなう児童生徒数の著しい減少がみられますが、令和２年度から奈良市特認校制度により、田原小中学校に他校区の子どもが就学することができるようになりました。田原小中学校の特色ある取組を深めるとともに、内外にそのよさをアピールし、地域、学校がより魅力あるものになるよう、地域と学校が連携協働した事業の運営を進めていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立田原中学校運営委員会**

めざす子ども像　**・ふるさとを愛し、誇りとする子ども**
・思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
・よく考え、よく学び進んで実行する子ども
・人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標　**地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

【今年度の取組紹介】

田原小中学校では、施設一体型小中一貫教育校としての特性を生かし、前・中・後期の各ブロックの発達段階に応じた特色ある活動に取り組んでおり、児童生徒は上級生をモデルとすることで、おのずとブロックの中でリーダーとしての素養が育成されています。今年度は、コロナウイルス感染症により，縦割りの活動ができなかったのですが、下級生たちは上級生を見て、きちんと成長を遂げています。



今年度は、職場体験学習を実施することが出来ませんでしたが、県の職業能力開発協会にお願いし、5 年~8 年生対象の「熟練した技能者による体験教室」を開催しました。この体験教室に、地域で活躍されている表具師さんとの出会いが「卒業制作　ベンチプロジェクト」ににつながりました。校内の憩いのスペースに、9 年生や 8 年生の手作りベンチが増えていく・・・楽しみです。



【今年度のまとめ】

学校では、「9 年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」ことを学校教育目標に据え、教育活動を進めてきました。

これまで、地域と学校の間では、教育目標の実現に向けて多くの意見交流を重ねながら、活動支援にあたっていただきました。今年度はコロナウイルス感染症により地域の方々との活動が制限されましたが、やはり、大切なことは、学校と地域とのつながりを強化し、地域の学校教育への関心を一層高めることが大切であると考えています。

【来年度に向けて】

今年度も、多くの地域の方々のご協力によって、取組を進めることができました。一方で、今後の活動の継続に向けて、コーディネーターやボランティアスタッフの高齢化が問題となっています。また、学校・地域との交流を通して、少子化・高齢過疎化という学校・地域の抱える共通の課題解決に向けて、取り組む必要性について、改めて確認することができました。今後は、より多くの方々に積極的に関わってもらえるよう、事業内容の工夫や、参画・運営方法の改善を図るとともに、特に保護者世代への呼びかけを積極的にすすめることで、学校・地域の活性化につなげていきたいと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立田原小学校運営委員会**

めざす子ども像　**・ふるさとを愛し、誇りとする子ども**
・思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
・よく考え、よく学び進んで実行する子ども
・人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標　**地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

【今年度の取組紹介】



年度当初の学校閉鎖期間の影響で、全日授業が再開された後も、低学年６時間授業・高学年７時間授業を行い、遅れを取り戻す日々が続き、児童の体験学習の取組は難しい状況でした。今年度は、十分な取組を行うことができませんでしたが、田原小中学校の９年間を見通したキャリア教育を次年度も続けて行きたいと思います。

小学校では、状況を見ながら少しずつ活動の幅を広げ、１学期中には、２・３年生校区探検（太安万侶の墓）、２学期には３・４・５年生が稲刈り体験などの活動を密に注意しながら一部の事業は再開しました。このような状況下においても、地域の現状や課題に深く目を向ける姿勢を培っていきたいと考えています。５・６年生は中学１年生にあたる７年生・８年生とともに、職業教育の一環として、「ものづくり教室」を体験しました。「美容」と「建具製作」のグループに分かれヘアーカット・写真立て製作を体験しました。職業体験・地域の産業を学ぶ“ふるさと（たわら）”次年度も学んでいきます。

【今年度のまとめ】

田原地区は豊かな自然や伝統文化が地域の方の努力で現在にまで引き継がれてきています。小学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」そして、子どもたちが気付いた田原の魅力を発信する取組を様々な方の力を借りながら行っています。また、中学校と施設一体型の小中一貫教育校の特色を生かし、中学生の取組を参考に、今、自分たちのできることを考え、取り組んでいます。このことが地域を支える次の世代の人材育成につながると考えています。

そのためには、地域と学校が連携協働して、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ヒト・モノ・コト」のかかわりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組を進めることが大切であると考えます。

【来年度に向けて】

これまでの取組を継続し、充実した取組になるように改善を図っていきたいです。令和２年度から奈良市特認校制度により他校区の子どもが田原小中学校に就学することができます。田原小中学校の特色ある取組を進めるとともに、内外にその魅力をアピールし、地域と学校が連携協働した事業の運営を行っていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**興東館柳生中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

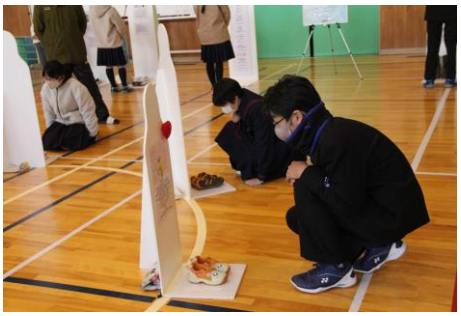
取組目標　**様々な体験活動や地域の方々との交流を通して、校区の自然・歴史・文化等の良さを知り、豊かな心と自主的に行動する力、コミュニケーション能力を育てる**

今年度の取組紹介

ミニ生命のメッセージ展開催

中学校区の園児から中学生までが一つになれる行事「ふれあい広場」が今年度は残念ながら中止となりました。今年は校区でテーマを「命」とし各校園でその発達段階に応じて奈良県助産師会による「いのちの講座」を開催することになりました。生まれることの神秘さや自分を大切にすることなど、校区みんなで考えることが出来たと思います。





また中学校では助産師会の講座だけでなく、このコロナ禍だからこそ命の尊さを、今あるあたりまえの生活の有難さを少しでも感じ取って欲しいとの思いを込め、また校区のみなさんとも一緒に…と、体育館にて「ミニ命のメッセージ展」を協議会コーディネーターの協力のもと開催しました。地域の皆様にもご参加いただけました。

準備が整った体育館は、どことなく空気が一変したことも印象深く残っています。生徒達、教職員、地域の方々が、見て感じたこと受け止めたことはそれぞれ違いますが、校区で「生」と「死」を考える取組となりました。

今年度のまとめ

今年度は、様々な活動を中止する中で、コロナ禍でも出来ることとしてテーマを「命」として各校園でそれぞれ取組をすすめました。奈良県助産師会からはどの学校も同じ助産師さんによる講座で、小中の学びのつながりもより一層強く感じました。今年の大柳生太鼓踊りは、踊り保存会、地域の皆様方の暖かいご指導のもと練習を工夫し取り組みました。楽しみにしている地域の方々の前ではその成果を披露できず残念でしたが、歌・鉦は地域の方々が担当し生徒たちと一緒になって今年の踊りが出来上がりました。そこにはいつもとは違った地域の方との達成感がありました。

来年度に向けて

今年の取組を踏まえ、コロナ禍で出来ないこと、出来ることを学校園と地域との連携をとり、協働しながら企画運営していくことが必要です。また地域全体に協議会の活動を浸透できるよう、また新しい人材の育成、さらに地域が主体的に行事に取り組めるよう広報活動の充実を図ることも大切な取組となります。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立興東館柳生中学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標　**故郷を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成**

【今年度の取組紹介】

地域の方と共に学ぶ



自分たちの校区のすばらしさを、自分たち自身が知ることが大事だと考え、豊かな自然の中で、地域人材を活かした多彩な体験学習を進めています。なかでも大柳生太鼓踊りは、地域保存会・地域ボランティアの方々によるご指導のもと取り組んでいます。発表の場である地域行事「ふれあい広場」は、今年度は中止となり３年生の保護者のみに公開し、その成果を披露しました。今年は歌・鉦を地域の方が担当し、生徒と共にこの大柳生太鼓踊りをつくりあげることができ、例年にない感動が体育館中に広がりました。



この体験学習を通して伝統文化の素晴らしさ、受け継ぐことの大切さと難しさ、そしてその思いを感じ、受け止めたことと思います。

この他にも木剣体操や白砂川の水質調査など地域と共に学ぶ学習はESD（持続可能な開発のための教育）の活動の１つとなっています。

【今年度のまとめ】

上記の他にも、地域花いっぱい活動や校区清掃活動など地域を大切にする、地域に貢献する活動もコロナ禍ではありましたが実施できました。体験学習や伝統文化などを学ぶことにより、故郷を愛する心、地域を誇りに思う心を育んでいます。地域の方々の支援により生徒達の学びは広がりをみせ、そして何より地域の方の熱心な姿は、生徒が主体的に学ぶ力を自然と引き出させてくれています。

【来年度に向けて】

少人数を生かした全校体制の取組が本校の特徴でもあります。来年度もこの利点を生かし、地域人材を活かした体験学習などをより一層積極的に進めていきたいと思います。また、あらゆる機会において地域の方々に本事業の取組を伝えることで、更なる協力体制につなげていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立柳生小学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標　**地域の特色を生かした体験的な活動を多く取り入れる中で、「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」を育成する。**

【今年度の取組紹介】

１、柳生の伝統を体験的に学ぶ

６年生は毎年卒業記念制作として「柳生焼体験」を実施しています。柳生の土を使った粘土を使い、土の器を制作します。地域の陶芸店「柳生堂」さんの作業場をお借りし、丁寧に作り方を指導していただきます。児童は思い思いの作品を制作します。隣はとてもすてきな作品のギャラリーになっています。焼きあがった作品は、毎年卒業式の式場で展示披露します。



柳生焼体験

２、人権参観　「命の講座」

興東館柳生中学校区の「命」をテーマにした取組で、本校では、助産師さんをお招きし人権参観「命の講座」を実施しました。助産師さんの別室からのリモートによる講座になりましたが、児童が意欲的に視聴・体験し内容の濃い講座になりました。地域の方の参観もあり、保護者の質問タイムは、（少人数に分けて実施）のべ 60 分になるなど、熱心なご意見や質問が相次いで出され、充実した取組になりました。



命の講座

【今年度のまとめ】

感染症防止対応が必要な中、地域の方の協力により「お話しの会」「柳生焼体験」「炭焼き体験」等、地域にゆかりのあるさまざまな学習活動を展開できました。地域の方のご厚意により開催方法を工夫して地域を知る充実した内容の体験学習を実施することができ、子どもたちは自らが住む地域の魅力を味わうことができました。

【来年度に向けて】

例年興東館柳生中学校区で合同開催している「ふれあい広場」は、本年度は感染症防止対応のため開催形式を変え、各校園「命」を統一テーマにしたさまざまな取組になりました（上記参照）。

今後、「ふれあい広場」の企画運営を改善していく方法の一つとして、各校園の実務者と総合 CN がともに話し合い情報共有していく機会や会議を設け、地域の方・教員・保護者の共通理解を図ることができればと考えています。そして地域の和が深められる有意義な取組にしたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立興東小学校運営委員会**

めざす子ども像　**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標　**地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実をはかる。**

【今年度の取組紹介】

地域の方々との出会いを大切にし、地域の教育力をお借りして、本校教育を推進しています。なかでも“もち米作り”を行い、米に関わる様々な体験学習を今年度も実施しました。今年度はコロナ感染症のため、４月から６月まで臨時休業になりました。そのため田おこし・田植えを教員で行いました。子どもたちは、稲刈り・脱穀・籾摺りと年間を通して地域の方々に支援していただき“しめ縄づくり”までの活動を今年度も実施できました。本校にとってこの米作り体験は、地域で学ぶ体験学習事業の軸となる取組です。

その他にも３年生の蜜蝋でのろうそく作り体験、４年生の白砂川でのニジマスの放流体験、５年生の絵手紙教室、６年生の円成寺への歴史遺産学習として、校区にある国宝をもつ円成寺を訪問しています。その他、計画はあったのですがコロナ感染症対策のため実施することができず、本当に残念で仕方ありません。しかし、ここまでたくさんの活動が実施できたのも地域の方々のご協力あってのたまものであると感謝しています。





【今年度のまとめ】

本年度も地域の方々の熱心な支援・協力のもと学校としての取組も順調に進めることができました。どの体験活動でも児童が生き生きと活動し、楽しそうにしている姿から本当に貴重な経験をさせていただいていると感じました。子どもたちはその体験活動からたくさんのことを考え、学んだことを作文で表現していました。また、地域の方の思いや願いを知り、感謝の気持ちを表現していたことからも、学校に対する地域の方々とのつながりがさらに深まった様子がうかがえました。

【来年度に向けて】

校区から得られる人の温かさ、地域の産業、伝統文化の再確認と伝承していくことの大切さを学び、郷土のことを誇れる児童に育てていきたいと考えています。そのために、校区の歴史や伝統・産業を学び、先人の知恵や思いに触れ、体験を通して感性を育てていきたいと考えます。また、次年度も、これまで行ってきた活動を糧に、地域と連携・協働し、人と人とのふれあいから生まれる豊かな心を大切にし、学校・地域の実情に合わせた取組を考えて、地域との絆をさらに強固たるものにしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立柳生こども園運営委員会**

めざす子ども像　**郷土に誇りをもち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標　**自然や地域の人との関わりを通して、豊かな心を育み主体的に活動に取り組もうとする態度を育成する。**

【今年度の取組紹介】

コロナ禍の中、取組内容や活動を考慮して進めてきました。その中で、地域の特色を活かした伝統文化や歴史に触れ親しむ経験や、地域の方に『地域の先生』として来ていただいての様々な体験活動を計画的に取り入れ、園と地域が一体となっての取組活動ができました。



○菜園活動

・畑の先生として地域の方から、その時期のいろいろな野菜苗や種のまき方を教わってきました。秋には、『収穫祭』で、やきいもにしていただきました。



○「命」のテーマとして絵本活動

・絵本「はらぺこあおむし」「うまれてきてくれてありがとう」から命の大切さを学び、5歳児「ともだちや」から表現活動へつなげ、子ども達は仲間と共につくりあげる楽しさと認め合うことを学びました。



○柳生焼体験

・土をこね、ひも状にして積み重ねていき器の形に仕上げました。重ねた所が薄くならないように伸ばしていくことが難しかったようでした。出来上がった器を見て子ども達は、「お味噌汁入れるわ」と喜んでいました。地域の方とふれあい、いろいろなことを学ぶ機会となりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の為、できる範囲内の活動内容でした。その中でも、地域が一体となっての取組を継続できるようにしていたことで、子ども達は園の教育活動では経験できないたくさんの人との出会いと交流ができ、自然と人と人とのつながりができていきました。いろいろな経験を通して、認めてほめてもらえる事は、子ども達の大事な育ちの根源であり、少人数の園であるからこそ大事に育みたい思いやり、認め合い、たくましさに繋がっていく取組であるとこれらの活動を通して実感しています。また、地域の方の温かいまなざしとご理解・ご協力により実践できたことに深く感謝をしています。

【来年度に向けて】

地域全体で少子化が進み利用園児が減少する中で、本園が担う課題は大きいです。地域の中で子ども達が豊かに育つためには地域の人・もの・こと(地域資源)と触れ親しみ、顔見知りとなることで関係が豊かに広がっていきます。今年度、取り組んできた活動の成果を次年度に繋げ、地域と共に子どもの育ちや学びを大事に見つめ、活気ある豊かな地域活動をこれからも展開していきたいです。

令和２年度　取組報告　　**登美ヶ丘中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**こ小中・地域の確かなつながりの中で**
自ら考え未来を切り拓く子ども

・課題解決に自ら取り組む　・規範意識を身につけ人権感覚を持つ
・未来を切り拓く力を身につける　・地域に貢献する

取組目標　**協議会と学校の連携を密にし、地域に発信していく取組を通して、地域の方々と子どもたちが一緒に参画できる場を企画・提供する。**

【今年度の取組紹介】



◦今年度の学習支援活動は、コロナ感染対策の為休校になったこともあり、学校が開校になった時は、学習に不安があるのか申込者は多数ありました。私たちも密にならない工夫や対策には苦慮しましたし、指導者も当初予定人員を増やしてあたりました。

しかし、生徒たちは学校生活がいつもと変わらないサイクルになりつつあると同時に、色々な行事とも重なり欠席する生徒も増えてきました。当初の半分以下に減りましたが、「テストの点数が上がった」と伝えに来る生徒や「こんな問題やった」「こここれで合っとるな」と声をかけてくる生徒が年々増えてきてはいます。



◦今年初めて挑戦した活動で、フラワーアレンジメント制作があります。ゲストティーチャーをお招きして、行事等でなかなか日程がとりにくいことから、希望者を募りお昼休みを利用して行いました。人数制限を持ちましたが、男子生徒の希望者も多く、少々密ではありましたが 2 人 1 組で作品を完成させました。出来上がったものは、校内や登美中 50 周年行事の時に飾りました。

【今年度のまとめ】

◦地域の方々との交流は、今年度は乏しく広報活動での一方通行の交流でしかありませんでした。今年のようなコロナみたいにどうにも対応できない時の活動を考えたとき、慎重かつ貪欲的に私たちがどうあるべきかを考えさせられました。

【来年度に向けて】

◦いつどんな時でも地域と関わり合っていける体制を整えていけるよう話し合っていきます。
◦学習支援の面で、何とかしてあげたい子をどうやって救い上げるかを色々模索していきたいです。
取り組み方法は一つではないと思っています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立登美ヶ丘中学校運営委員会**

めざす子ども像　**こ小中・地域の確かなつながりの中で**
自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標　**地域を愛し、地域に誇りを持ち、自ら学び、考え、判断し**
手応えのある夢を持ち、たくましく生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

・コロナ禍の中で始まった今年度、授業において「繋がり合い、学び合う集団」を育成するため、計画的に校内授業研修を実施し改善に努めました。また、広く地域や保護者にも報告し、理解を得ました。



・未来を担い自立できる生徒の育成を目指し、本年度も生徒自ら考え取り組む事業を行いました。具体的な内容として、リーダー育成のため生徒会が中心となってクリーン作戦や苗植えなどを実施しました。特に、プロジェクト「チューリップ」では、生徒会・保護者・地域が一体となって、チューリップ植えを行いました。また、「はるかのひまわり」を校区だけに止まらず、広く地域に配布しました。

・キャリア教育の一つとしての地域の方々にお越しいただき、働くことの意義について講演をいただきました。また、事業所の休業日における環境整備事業（花壇の整備）に協力を得て取り組みました。



・学力向上プロジェクトとして昨年度国語、数学、英語の３教科で月、水、木、金の放課後、土曜日の午前中に地域在住の指導者を招き、基本でつまずく子どもたちに学習の場所を提供し基礎学力の向上に努めました。

・今年度は 50 周年記念式典を地域の方々にご協力いただき、当日の会場をフラワーアレンジメントにより、華やかにするなどして、執り行うことが出来ました。

今年度のまとめ

・今年度もコーディネーターや多くのボランティアの方々の支援を受け、一つひとつの取組が計画的に進められました。また、一層の工夫と改善を加えていただきより充実したものになりました。特に学力向上プロジェクトも軌道にのり、少数ではありますが生徒にも定着してきました。

・広報紙の発行をはじめ、ホームページの充実を図ることで、これまで以上に協議会の取組の啓発が進みました。

来年度に向けて

・来年度は、これまでの取組を継続しながら、「学力向上プロジェクト」にさらなる改善を加え地域と連携して取り組む予定です。地域の方の講師を探すことが困難ですが、コーディネーターを中心に進めていきます。

・「ホタルフェスタ」など校区の幼小中が連携して取り組める事業が行えませんでしたが、来年度は実行することで、地域の「夏祭り」等を通して小中一貫教育の一役を担っていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立鶴舞小学校運営委員会**

めざす子ども像　**こ・小・中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標　**地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる**

今年度の取組紹介



昨年度の活動を継承・発展させながら今年度も「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」取組を継続しました。

１学期から、子ども達が、地域の方と共に植物を栽培・収穫する活動に取り組み、収穫した植物を活かして様々な作品・製品を作ることが出来ました。

２年生は、カモミールの苗植え・花摘み・乾燥を行い、収穫したカモミールで、カモミール染めハンカチを作りました。

３年生は、藍の苗植え・葉摘み・乾燥を行い、収穫した藍から、藍染めしおりを作りました。

４年生は、千日紅の苗植え・花摘み・乾燥を行い、収穫した千日紅をリースにするためのキット作りを行いました。

５年生は、校区の秋篠川でカラムシを採集し、奈良女子大学の先生にも指導して頂きながら、その繊維を取り出してコースター作りを行いました。

また、今年度も、防災教育の一環として地域の方に講演・ご指導いただき、地域の方と触れ合い、つながりながら「守られる側から守る側への気づき」を体感し「今、自分たちが安心して毎日の生活を安全に送ることが出来ていること」に感謝することが出来ました。



３月には、お世話になった地域の方々を学校に招待し、各会場をリモートで結びながら、「感謝の気持ちを伝える集会」を実施しました。各学年が栽培・収穫したものを活かした作品・製品を、お礼として地域の方にプレゼントし、「君のかわりはだれもいない（ふるさと鶴舞バージョン）」の歌も披露しました。

地域の方々と、子ども達が共に活動することで、「子ども達が地域の中でしっかりと生活し、地域とのつながりを深める」という目標に近づいているという実感をさらに強く感じることが出来た一年となりました。

今年度のまとめ

過去数年の活動を踏まえ積み重ねることで、子ども達の取組はさらに発展・充実し、地域の方々の心も動かし、取組の深まりがさらに増しています。コロナ禍ではありましたが、感染対策にも留意しながら、ボランティアの方々の熱心な関わりと子ども達への温かい心配りがあり、子ども達は、それらによって、ますます成長し、ふるさと鶴舞を思う気持ちが強くなっています。学校・家庭・地域が、お互いの役割や機能を十分理解し、連携・協働することで、これからも「確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども」の育成をめざしていきたいと考えています。

来年度に向けて

これまでの活動の蓄積を財産としながら、学校の年間教育カリキュラムとの関わりをさらに深め、地域の方々と共に協働して活動を継続することで、「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」鶴舞を創りあげていきたいと考えています。共に歩んで下っている保護者・地域・関係団体の皆様に、深く感謝しております。今後共、鶴舞の子ども達へのご支援ご協力、宜しくお願いいたします。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城西小学校運営委員会**

めざす子ども像　**こ小中・地域の確かなつながりの中で**
自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標　**～児童が学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～**

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウィルス感染症予防のため、地域の方の協力をほぼご遠慮いただいて、活動を自粛しました。

その中でも感染者が比較的少ない時期に地域の方と児童と共に環境整備として、校舎内にある雑草の借り入れを行ったり、例年行っているブッカーかけを感染症対策として、ボランティアの方に分散して２回協力していただきました。

そんな中、１年生の「命の学習」は、講師の先生（医師）たちと連絡を密に取り合いながら、授業を行いました。
まず、例年体育館で行っていましたが、密にならない事を考えて各教室で行うことにしました。



また、動物を学校に入れずに児童に命の大切さを学ぶ方法として、パワーポイントなどの視聴覚教材を使用しました。また講師の人数を最小限にし、ボランティアさんの参加は遠慮していただきました。

【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウィルス感染症予防を最優先にし、活動は自粛しました。

【来年度に向けて】

来年度は情勢を鑑み、実施時期を考えながら、少しずつ以前の活動に戻したいと考えております。

令和２年度　取組報告　　**鶴舞やまとこども園運営委員会**

めざす子ども像　**こ小中・地域のつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標　**子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施**
子どもが主体的に活動できる環境構成

【地域とのつながり】



ゲストティーチャーを招いて、野菜やお花の栽培を体験することができました。特に、コロナ禍での休園期間を利用して、親子で玉ねぎの収穫を体験することができ、子どもたちは久しぶりにみんなと会えて大喜びでした。また、地域の方の協力を得て、こども園で玉ねぎや花の苗のお店屋さんごっこを経験しました。おすすめのお花を説明したり、お客さんを案内して品物を選んでもらえて、自信をつけることができました。

【絞染めに挑戦】

地域の方の指導をいただき、自分たちで蒔いて育てた花を収穫し、花びら染めに挑戦しました。きれいなピンク色におお喜びでした。また、運動参観で着るシャツを玉ねぎで絞り染めに挑戦しました。ビー玉や輪ゴムを使って、絞り、出てきた模様に、歓声が上がっていました。運動参観では染め上がったシャツを着て、元気よくフラッグを振る姿から、子どもたち一人ひとりが自信に満ちた様子がうかがえました。

【今年度のまとめ】

取組紹介のほかにも、地域の方々の支援を受け、子どもたちが初めて挑戦した栽培活動や染め物活動を経験することによって、自然の物に興味を持ち、探求する心が育ってきました。また、サッカーや英語で遊ぼう、わらべ歌、また、木工教室体験をさせていただきました。これまで積み上げてきた取組をさらに充実させたことにより、子どもたちの興味・関心が引き出され、自ら学ぼうとする意欲や心情、態度がさらに育ってきました。

【来年度に向けて】

今年はコロナ禍で幼小連携ができなかったため、地域の方のご協力を得て、幼小連携の取組の強化とともに、地域の方々と交流していきます。また、広い園庭で体力づくりにも取り組み、園庭で遊びの中で、子どもたちが自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成をめざします。

令和２年度　取組報告　　**平城西中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標　**「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携をより一層促し、子どもたちの「人,事,物」の様々な体験の取組を充実する。**

【今年度の取組紹介】

広報紙掲載の「校区安心安全マップ」を作成。

学校支援ボランティアの協力により、平城西中学校区学校園の教育環境は継続的に充実しています。また、地域、学校園、公共機関の協力を得て、こども園（保育園）から中学校の 11 年間を通し防災学習に取組み,「地域を支える子どもたち」を育んでいます。
今年度は中学生から地域の情報を集め「校区安心安全マップ」を地域と共働して作成しました。
生徒会メンバーと協議会コーディネーター・教員で編集会議を持ち、記事について話し合いました。





【今年度のまとめ】

学校支援ボランティア活動は関わる人々の継続的な努力により、定着しています。「防災」を共通のテーマにした防災体験学習プログラムはコロナ禍の影響を受けながらも、今年度も消防署、消防団の協力を得て継続できました。毎年開催の防災フェス事業のイベントは中止となりましたが、子どもたちとの共働で広報紙に校区安心安全マップを作成、掲載する機会を持つことができました。

４校園長とコーディネーターの連絡調整は月１回の会議で図り、スムーズに運営でき、また課題についても率直に話し合うことができました。

【来年度に向けて】

① 地域の様々な世代に適応した広報活動を細やかに行い、ボランティアの募集に繋げます。
② コーディネーターの役割や作業分担を明確にし、活動能力を上げます。
③ 子どもたちが発するメッセージを引き出し、子どもたち各々の力が発揮できるステージを企画するために教員、生徒会、児童会と話す機会を持っていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城西中学校運営委員会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標　**防災体験学習やゲストティーチャー招聘などの事業を通し、地域の多くの方々との出会いやつながりをもつことによって、学校が地域の課題（防災）への取組の場となり、子どもたちの心や夢を育む豊かな学びの場となるようにする。**

今年度の取組紹介




○平城西中校区安心・安全マップ作成

中学生から神功・右京地区の危険箇所の情報を集め、生徒会メンバーと地域とが協働して安心・安全マップを作成しました。自分たちが暮らす町を見つめ直し、もっと地域に愛着をもつきっかけとなりました。また、このマップは来年度、校区の右京小・神功小で地域学習に活用されることになっています。

○運動場草引き

２学期が始まったばかりの８月２７日（木）に、地域のご協力を得ながら本校運動場の整備を行いました。平日で、また、コロナウイルス感染症と熱中症のダブル予防に注意しながらという過酷な状況にもかかわらず、地域より１２名、生徒９６名、教職員を含め総勢１２０名もの参加があり、みな熱心に活動していました。当日は作業に夢中になるあまり、誰も写真を撮っていませんでしたので残念ながら画像はありませんが、暑い中グラウンドをきれいにしていただき、スムーズに２学期が開始できました。

今年度のまとめ

本校区ではこれまで「防災フェス」を軸とした地域防災を柱として学校と地域とが一緒になり、子どもたちが地域の一員としての自覚をもてるような場を提供することを重点的に行ってきました。しかし、今年度は大人数が集まる行事は開催できませんでしたが、地域から代替案を提案いただき、地域の皆さんのお力と奈良市から提供された生徒用タブレットを駆使して、地域マップ作成という形で防災の取組を実行できました。子どもたちだけでなく新しく地域に移り住んでこられた方にも地域に関心をもっていただけるよう、今後もさまざまな地域マップをシリーズ化して作成していけるか検討しています。

来年度に向けて

完成したマップが小学生の学習に使われ、どんな展開となるのか楽しみです。中学生と小学生の学びが交流できるような機会を設けたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立右京小学校運営委員会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取　組　目　標　**地域への意識を高め、地域活動に積極的に参加する児童を育てる**

今年度の取組紹介

○草引きウイーク（１０月１２日～１６日）

保護者・地域の方・本校教職員など、５日間で９０名ほどが右京小学校の運動場に集まってくださいました。年々児童数が減少し、夏が過ぎると運動場が草一面になります。今回も集まっていただいた方で草引きを中心に清掃活動を行っていただきました。

おかげさまで運動場の草はなくなり、安全に安心して体育等の学習に取り組むことができました。



○防災体験学習



北消防署の協力を得ながら、平城西中学校区として、各学年の発達段階に応じた系統的な学習を進めています。また、教職員についても校内研修として放水訓練を実施し防災意識を高めています。

毎年行うことによって、児童の防災や地域の一員であることの意識が高まり、地域で行われる防災訓練への参加にもつながっています。

今年度のまとめ

○新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、予定していた事業をすべて実施することができませんでしたが、事業によっては内容や方法を変更し実施したところ多くの地域ボランティアの方や保護者の協力を得ることができました。

○消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。

○環境ボランティアさんの活動や図書ボランティアをはじめとする地域の方々の学習支援等は、学校力を高める大きな一助となっています。

来年度に向けて

○今年度のテーマ・目標・事業を継承し、さらに地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進め、自分の住んでいる町の魅力についてより知ってもらいたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立神功小学校運営委員会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、**

自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標　**地域と共に心を耕し、夢を育む神功の子　～学びの場をともに豊かに！～**

【今年度の取組紹介】

●クリーンタイム

本校は敷地が広く、例年５月から１０月頃にかけて敷地内に雑草が生い茂ります。環境ボランティアの方々や用務員さんが定期的に草刈りをしていますが、少人数では刈り取った草を集めるのは困難です。そこで、コロナ禍となる今年度は、例年以上に分散した形でクリーンタイム（草集め）を実施しました。本校の低・中・高学年の児童、学校施設開放利用団体などが、それぞれ日時を分散して草集めを行うことで協働することができました。

●福祉体験（車いす体験）学習

２月５日（金）に、４年生の福祉体験学習を行いました。神功地区社会福祉協議会と奈良市社会福祉協議会にご協力いただき、9名のゲストティーチャーに教えていただきました。今回は共用する器具の消毒を徹底するため、体験を車いすに限定して行いました。





体育館からピロティ・職員室前の廊下を通って正面玄関までのルートを、車いすに「乗る」「押す」を交代して往復する体験をしました。今回は新しいスロープができた中での体験でしたが、子どもたちは「小さな段差でも、車いすでの移動では大きなものになる」ことを実感した様子でした。

【今年度のまとめ】

新型コロナ感染症の流行により活動の開始が遅れ、活動回数が少なくなりました。それによって、地域の方々やゲストティーチャーと子どもたちの関わりの中から生まれる「豊かな体験・学びの場」の尊さに、改めて気づかされました。また、コロナ禍ではありながらも、感染防止対策を徹底し実施方法を工夫することで実施を継続できることがわかりました。

今年度当初は分散登校から始まり、登下校の見守り機会が非常に多くなりました。その中で、例年よりも多くの地域の方々に子どもたちの登下校見守りのご協力をいただくことができました。

【来年度に向けて】

新型コロナ感染症が終息しない中ですが、来年度も感染防止対策を徹底し実施方法を十分に工夫し、日々成長する子どもたちにとって「豊かな体験・学びの場」を途切れさせないよう、取組を継続させていきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立神功こども園運営委員会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標　**地域の方とのつながりを感じながら、子ども達の遊びや生活の刺激となるような事業の充実**

【今年度の取組紹介】

秋の遠足

新型コロナウイルス感染が拡大するなか、今年の遠足は、園近隣に出かけることになりました。５歳児は、地域にある神功小学校、右京小学校などをグループごとにスタンプラリー形式で周ることになり、保育者の他に地域の方にも各グループに付き添っていただきました。



子どもたちは、地域の方の名前を覚え、手をつないでもらったり話をしたりしてうれしそうにしていました。右京小学校や神功小学校では、１年生の授業の様子を少し見せていただき、広い小学校の運動場ではお弁当を食べました。



今年は、小学校の体験入学もなく、このような機会に地域を周りながら小学校の様子を見ることができ、就学への期待もより膨らみました。

また、参加してくださった地域の方がその後も園の環境整備に来てくださる機会があり、自分から「おはよう」と声をかけ、一緒に溝掃除をするなど、親しみを持って関わることができました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、計画通りにいかないことも多くありましたが、園の行事の見直しをする中で、地域の方と関わる新たな活動を見出すことができました。また、環境整備事業では、地域の方に声をかけてもらったり、認めてもらったりすることができ、より意欲的に活動する子どもに育ってきています。

【来年度に向けて】

継続してきた取組の見直しを行いながら、園の現状に応じた保育内容を実施できるようにしていきたいと思います。また、ボランティアの方の参加が広がりつつあるため、活動内容をホームページ等で知らせ、より多くの方への理解につなげたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**右京こだま保育園運営委員会**

めざす子ども像　**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標　地域の方との関りを通して、自然のおもしろさや美しさを感じたり、身近な人に親しみ、「やりたい！やってみよう！」とする意欲を育んでいく。

【今年度の取組紹介】

☆おはなしの会



子どもたちに様々なおはなしの世界を楽しんでほしいと今年度は“右京おはなしの会”を７回開催しました。
コロナウイルス感染対策の為、例年よりも開催時間を短くして消毒を行いながら歳児級ごとに会を進めました。
また、距離や間隔をあけての開催で、素話時もマスクを着用していたので声が通りにくくマイクを使用することで声の強弱が伝わるように工夫していただきました。



☆運動あそび



社会環境や生活様式の変化から現代の幼児は身体を動かして遊ぶ機会が減少しているということを踏まえ、今年度より体操講師による運動あそびを開始しました。サーキット遊びやのドッチボールなど楽しく体を動かす遊びを通して基礎的な体力や身体能力を発達させ、様々な活動への意欲につなげる機会となりました。

☆玉ねぎの苗植え

地域ボランティアの方に来ていただき、３、４、５歳児の園児と玉ねぎの苗植えを行いました。実際に玉ねぎの育ち方のお話を聞いたり、植え方の説明を聞いたりする中で地域の方々との交流を深める機会となりました。

【今年度のまとめ】

今年度から民間移管を受けて初めて“地域で決める学校予算事業”に参加させていただきました。地域の方との関りの中で、園の教育保育活動では経験できない体験や交流をさせていただくことが出来ました。コロナ禍の為、制限されることが多々ありましたが、地域の方々が何かできることはないかと模索し提案してくださったおかげで当初計画していた活動全ては行えませんでしたが、出来る限りのことを楽しんで取り組むことが出来ました。地域の方々の温かいまなざしとご理解・ご協力により実現できたことに深く感謝しております。

【来年度に向けて】

コロナ禍の為行えなかった菜園づくりや外遊び棚作り等を地域の方々と取り組みたいと思います。そしてその場所が子どもたちと地域の方にとって集いの場となり、より一層交流が深められたらと考えています。その他にも、子どもたちの心を豊かに育むために、保護者会や地域の方々と共に話し合う中で子どもたちが楽しめるイベント等も開催し、より一層地域に根ざしたこども園にしていきたい思います。

令和２年度　取組報告　　**二名中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標　**「子どもの元気は校区の力、地域の力。育てよう地域の輪・話・和」**
子どもたちと活動を進めながら地域、学校が協働する事で、多様な世代の地域住民との絆がつながっていくようにする。安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。顔が見える地域・声が掛け合える地域をめざし、それぞれの防犯防災の意識を高める。

10 月 24 日「つるし柿を作ろう！」ワークショップを二名中学校で開催しました。

二名小学校・青和小学校の児童や親子が、天候に恵まれ屋内・外でコロナ感染対策をとりながら作業ができました。

柿の実採取　中学校内の「法蓮坊」のしぶ柿が成長しました。
柿の実を高枝切りばさみ等を使って採りました。

体験　ピーラーを使い実の皮を剝いたり、つるしたり、地域のしぶ柿をつるし柿体験を通して五感で感じることができました。





また、地域の活動を知ってもらい、手作りの紙芝居を使って昔から生活の中に取り入れられてきた柿渋の働きについて　楽しく参加者と学ぶ機会になりました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウィルス感染対策のため緊急事態宣言が出されたり、活動は例年とは全く違う年でした。その中で三密（密閉・密集・密接）を避け感染対策をしての活動となりました。人との関わりや交流を目的とした事業を感染対策と共にいかに開催する事ができるかと検討に時間をかけ、活動内容を精査し、ひとつひとつ確認しながらすすめてきました。「つるし柿のワークショップ」も屋内・外で人数制限し、換気・消毒等しながらの開催となりました。

また、学習・授業・行事支援等でも学校園と話し合いをし、支援する側、される側も感染対策に留意する一年間でした。

【来年度に向けて】

未だ新型コロナ感染が終息しない状況では今年度同様に感染対策をしながら事業をすすめることになります。今年度検討してきた事が来年度活かせるように活動を協議会で考えていきたいです。
新しい生活様式で、今までは使ってなかったタブレットやオンライン等新しい道具も活動に取り入れることも考慮し、できることを考えていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立二名中学校運営委員会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、地域に学んだことを誇れる子ども**

取組目標　**多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。**

【今年度の取組紹介】

令和２年７月に２年生、１２月に１年生が、地域やPTAの方々と共に、花植えを行いました。７月の２年生は、主にマリーゴールドを、１２月の１年生は、主にパンジーを植えました。これは、毎年、行っている地域行事ですが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のことがあったため、事前に、地域コーディネーターの方々と何度も、電話等で打合せをさせていただきました。



最優先で考えたのは、現在の生徒にとっては、人生でたった１度の中学校生活ですから、一律に全てを停止するのではなく、大人が知恵を出し合い、工夫する中で、できることを行っていこうということでした。そのため、例年の倍の人数の地域方々やPTAの方々に、ご協力いただきました。屋外で、花植えなどの作業するスペースを広くとり、作業前後の手洗いや消毒を徹底しました。他にも、使用する道具の消毒も、こまめに行い、一番経験させてあげたい花を実際に植えること以外は、当日の作業が短時間で終わるように、前もって準備を行い、生徒の動きが一方向になるようにシミュレーションも行いました。



ピンチはチャンスという言葉がありますが、生徒を思う多くの地域の方々の思いが伝わり、生徒にとって心に残る１日になりました。毎日の登下校時、今年もきれいな花が咲いている環境を整えられました。

【今年度のまとめ】

上述のように、厳しい環境だからこそ、私たち大人が試されている１年であることを痛感した１年でした。命に関わる内容ですから、当然、感染は防がなくていけません。しかし、そのことばかりに、とらわれていては、何もできません。生徒にとっては、たった１度の中学校生活、与えられた環境で何ができるかを全力で考え、知恵を出し合う、そんな１年でした。

地域の方と共に行った花植え、生徒との接触を防ぎながらの図書室の整理、事業の前の消毒・手洗いの徹底、活動場所の清掃やカーテンのクリーニング、短時間・少人数での会議、接触を減らすための郵送の活用など、想定できる全ての手を打ちました。お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

【来年度に向けて】

現在の新型コロナウイルス感染拡大防止の取組と並行して、いかに行事を行っていくか。これまでの本校の地域の方々と共につくりあげた良き伝統を、どのように継承していくか。奈良市からの予算に頼らずに、どのように事業を継続していくか、課題は山積していると思います。しかし、これからも、今年のような地域の方との協力タッグで、乗り越えていくことができればと思っています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立青和小学校運営委員会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標
- **地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。**
- **読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。**
- **校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々と元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。**

【今年度の取組紹介】



社会全体に新型コロナウイルス感染症の影響があり続ける中、どのように活動を実施すればよいか、どのような活動が実施可能かを、学校が再開される前から地域コーディネーターとともに思案しました。そして、学校再開以降、感染の危険性や参加者の不安等を少しでも拭える工夫をコーディネーターと確認し合いながら、出来ることから、出来る範囲で活動を進めました。

ほとんどの体験学習事業を中止せざるをえなかった中、学校再開して間もない時期に、ゲストティーチャーによる「3 年生の理科体験学習（オオムラサキ)」をリモートで実施できたことは非常にうれしいことでした。オオムラサキの生態や飼育について学び、実際に幼虫を育てて羽化させる体験をします。産卵の時期があるので延期することはできません。子ども達の体験してみたいという思いとゲストティーチャーの伝えたいという思い、そしてその思いを実現させようとするコーディネーターさんや先生方の努力があって実現しました。それを実現させる手立てとして、ゲストティーチャーは理科室から G Suite for Education の Meet を利用し、子ども達は各教室の大型モニターで授業を受けるというリモートで行いました。「学びを止めない」すばらしい事業となりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、地域安心安全事業の見守り活動も、出来る範囲でと言いながら地域の交通ボランティアの方々の熱い想いで例年通り活動できました。また、家庭科等における学習支援や、図書ボランティアとの図書環境整備事業なども、コーディネーターさんやボランティアさんの熱い想いと努力により活動することが出来ました。学校・保護者・地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。」という理念を大切にしながら、これまで築き上げてきたことを可能な限り継続させることができました。

【来年度に向けて】

目指すべき「地域としての学校像」をしっかりと共有し、学校と地域が協働して、本校の「目指す子ども像」「取組目標」をより高いレベルで具体化できるように努めたいと思います。コロナ禍であっても内容や取り組み方の改善を図って継続可能な事業にしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立二名小学校運営委員会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標　**感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する**
地域の人との関わりを通して、自分のできることに気付き、行動する

【今年度の取組紹介】

□コロナ禍における地域と共に行う活動

二名小学校では、地域ボランティアの方に教育活動を支えていただいたり、多くの学年で地域人材をお迎えしての授業を行ったりしています。しかし今年度は、コロナ禍でほとんどの活動が例年通りにはできませんでした。その中でも、「子どもたちのために」という思いで、「できることを、できるかたちで」実施してきました。

□地域の方と共に行う活動

環境整備事業の一環として、花壇に花苗を植えました。下校の見守り活動をしてくださるみなさんと植え付け作業を行いました。また、花いっぱい運動で、地域の方と共に花苗とチューリップの球根を植えました。地域の方とのつながりをスタートとして、児童が継続的に世話をするといった形で地域とのつながりを感じる活動となっています。

□図書ボランティア「としょぼ」の活動の工夫

「としょぼ」は、年間を通じて図書館の環境を整えたり読み聞かせをしたりしてくださっています。児童と共に活動したかったのですが、新型コロナウイルス感染症に配慮し、環境整備については、児童のいない放課後や長期休業中に行い、毎日の活動は図書委員が引き継ぎ図書室をきれいに保っています。読み聞かせについては、全校での視聴や国語の指導での活用が可能になるようにと、音響効果も入れて読み聞かせ動画を作成してくださいました。





左：花苗の植え付け作業
右：読み聞かせ動画の視聴

【今年度のまとめ】

これまで、地域の方と共に活動することを大切にしてきましたが、今年度はコロナ禍で、多くができなくなってしまいました。その中でも学校の感染症対策の取組に御理解くださり、様々に御協力・御支援いただきました。中止という選択をする場面が多くなってしまいましたが、みんなで知恵を出し合い、地域と児童がつながる活動を形にしていきたいと思います。

【来年度に向けて】

今年度は、例年通りに実施することができず、多くの活動が中止となりました。学年単位等で地域の方と活動する場面が多かったので、実施方法を検討していきたいと思います。また、学校の様子を地域に発信するとともに、地域の方との活動を児童や保護者に発信するツールとして、正門前に掲示板を設置し、活用していくことを予定しています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立二名幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標　**地域の方々との関わりを通して、子どもたちの興味・関心を湧きたてるような体験活動の実施**

【今年度の取組紹介】

（サッカーで遊ぼう）



ゲストティーチャーの指導の下、4 歳児・5 歳児に分かれて、前半はボールを使った簡単なゲームや投げたり転がしたりボールに触れることからはじまりました。後半はチームに分かれゲームをしました。必死でボールを追いかけゴールした時の嬉しそうな笑顔。徐々にボールの扱い方が上手くなり、遊びの中でも「今日、サッカーしよう。」と友達と誘い合って遊ぶ姿が見られるようになりました。『サッカーで遊ぼう』を通して、最後まであきらめず、継続して取り組む大切さや、意欲的に体を動かして遊ぶ楽しさを知ることができました。

（英語で遊ぼう）

日常の挨拶や色、動物などを英語ではどのように表現するのかを、リズムに合わせて体を動かしたり、絵カードを使ったりして分かりやすく教えていただきました。回を重ねるにつれ「〇〇はなんていうの。」と聞くなど意欲的に参加する姿が多くみられるようになりました。英語に触れたことで、普段使っている言葉とは違う言葉があることを知り、日本以外の国に関心を持つきっかけになりました。



【今年度のまとめ】

今年度は例年通りに事業に取り組むことは難しい状態でした。コロナ禍での事業の見直しをし、密を避けるなどの感染対策を行い進めてきました。そのような中でも地域の方々や保護者に協力していただき、一緒に園内の環境整備を行うなど様々な体験をすることができました。お花を楽しもうでは、子どもたちが思い思いに生けた花を「きれいにできましたね。」「いいですね。」と一人一人認めていただきました。活動を継続することで楽しさが増し、「楽しかったね。」「もっとやってみたい。」と意欲や自信につながりました。地域の方々に温かい言葉をかけていただき思いやりや感謝の気持ちを持つことができました。

【来年度に向けて】

地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方や家庭との信頼関係がより一層深まるように継続して事業を進めていきたいと思います。

また、各取組で学んだことや感動体験を、日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立青和こども園運営委員会**

めざす子ども像　**人との出会いを通して、**

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標　**心豊かにたくましく地域とともに生きぬく子どもの育成**

【今年度の取組紹介】

<体験活動「お米をつくろう」>





昨年度から継続している活動ですが、コロナ禍の中、地域の方と触れ合うことができず、今年度は、子どもたちの降園後、‘お米の先生’が田んぼの土と苗を運んで来てくださり、その様子や苗の植え方のお話を、職員が動画に撮り、次の日、子どもたちが視聴しました。そして自分たちだけで田植えをし、水の管理をしながら生長を見守りました。お米の先生と園とのラインでのやり取りを手紙として子どもたちに知らせ、つながっている気持ちを大事に積み重ねました。お米の先生は、時々お米の生長を見に来てくださり、テニスボールで籾すりができることも教えていただきました。自分たちで、稲刈り、稲架掛け、脱穀、籾すりをして、やっとできたお米を今年度は全園児で給食時に食しました。「おいしい」「５歳さんありがとう」「プチプチしている」「お礼の手紙を書きたい」と声が出て、みんなでお米の先生に手紙を書いて送りました。お米の先生と直接かかわることはできませんでしたが、気持ちはつながり、収穫を喜び合うことができました。

【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを避けるために、地域のコーディネーターの方やボランティアの方と話し合い、工夫しながら例年とは異なる方法で取り組んできました。「お米をつくろう」「民生さんと遊ぼう」の活動のように録画したものを視聴したり、「柿渋染め」「お話広場」などでは、地域の方と少し距離をとりながら活動をしたりすることで、今年度も豊かな体験や学びにつなげることができました。また、地域の方の優しさを感じ、親しみ、感謝する気持ちをもつことができました。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中でも地域の教育力を活かした教育・保育内容を工夫し、園運営をすすめていきたいと考えます。また、子どもたちや保護者にも地域の方々に見守られていることを発信しながら、地域の方々の優しさを感じたり、地域を知り、好きになったりできるように、様々な体験活動の充実を図っていけるよう努めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**京西中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**『自らの街に誇りをもって、自らの街のことを語れる子ども』**

取 組 目 標　**～守ろう地域のたから　育てよう故郷を愛する子どもたち～**

今年度の取組紹介

【図書ボランティア活動】

限られた時間の中ではありましたが、本の読み聞かせや英語カードの作成など幅広い活動を展開しました。

【広報紙「京チュン通信」（２回 / 年 発行)】

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、２回の発行に縮小しました。

地域で決める学校予算事業や放課後子ども教室推進事業の内容を多くのひとに知ってもらい理解してもらうための「京チュン通信」は多くのコーディネーターが関わって写真や原稿を準備して作り上げています。









今年度のまとめ

・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。

・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。

・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取り組みの方法を模索しました。

来年度に向けて

・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進していきます。

・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいと思います。

・「史跡散策」「授業支援」「京チュン通信の発行」などの活動を地道に取り組んでいきます。そして、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援ができる組織をめざします。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立京西中学校運営委員会**

めざす子ども像　**自らのまちに誇りをもって、**

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標　**学校を美しく　こころを豊かに　挨拶が響き合い**
互いの思いを語り合える学校に

【今年度の取組紹介】

○今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方々と協働して行う活動は大幅に中止せざるを得ませんでした。

・例年実施しているが、今年度中止した活動等

「京中オープンスクール」、「国際交流事業」「ふれあい作業」「花いっぱい運動」

○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。
地域の皆さんが温かく見守り、時には一緒に活動してくださることで、生徒の心の中に学校愛や地域愛が生まれつつあるように思えます。挨拶がしっかりできる生徒が多くなり、朝から元気な声が響いています。

【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○今年度は限定的な取組が多かった中、各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫を行うとともに、地域の方々が参加してよかったと思っていただける活動方法をさらに模索していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立六条小学校運営委員会**

めざす子ども像　**自らのまちに誇りをもって、**
自らのまちのことを誇れる子ども

取組目標　**命こそ宝、地域が宝。コロナに負けない宝を活かそう！**

【今年度の取組紹介】

・未曾有の新型コロナウィルス感染対応で、年度当初から２か月も学校休校を余儀なくされた１年間でした。その中で、感染拡大予防措置を取りながら、ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動の「屋台骨」を担ってくださいました。

① 図書ボランティア（図書ボラ）さん方は、マスク着用の徹底に手の消毒、子ども達との距離を保ちつつ図書環境の整備に、司書の服部さんと本選び等に、ご尽力いただきました。

② 家庭科実習ボランティアさんも感染対策を施しながら「調理」「ミシン掛け」の実習をサポートしていただきました。

コロナ禍においても、自分達の勉強、学習のために感染対策を講じながら、献身的にボランティア活動をしてくださる姿に全教職員が、心温まりました。創立 50 周年の年度にふさわしく誇らしい地域の人材と確信しました。『地域が宝、地域の宝、わがふるさと六条小学校』そのままでした。





【今年度のまとめ】

・　前述の通り、このコロナ禍においても「何とか子ども達の安心安全な学習のために」という意気込みが強く感じられた一年でした。その気持ちが子ども達に伝わり、実習や調べ学習の中で無くてはならない存在を確立されました。例えば、ミシンを使った家庭科学習では、機械操作が分かりにくい時に、リアルタイムで聞くことができるありがたさを教員も子ども達も実感し、心底ありがたく思えました。

また、創立 50 周年記念事業とコラボした「第２図書室の整備」作業では、本物の木材加工の書架に移し替える大移動を、生き生きと朗らかに黙々と続けられた姿には、六条校区の皆さんのある種『凄さ』を感ぜずにはいられませんでした。

【来年度に向けて】

・ホームページで毎日のように活動の中身を紹介することで、学校に来れなくとも居ながらに学校でのボランティアさん方の子ども達へのかかわりが感じ取れたと思われます。来年度もコロナ禍で「できる事を　できる時に　できる形で」地域の方と共に前進していきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立伏見南小学校運営委員会**

めざす子ども像　**自らのまちに誇りをもって、**

自らのまちを語れる子ども

取組目標　**ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校**
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナの影響で、計画をしていた行事を大幅に見直すこととなりました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「ふれあいの日の餅つき」「とんどの集い」などの土曜日活動は中止となりました。例年、地域の方と昔からの伝統行事を体験するだけでなく、地域の方とのふれあいを楽しむ良い機会を失うこととなりました。また、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、平和学習や防災学習、薬物乱用防止教室、などもコロナの影響で開催を見合わせる形となりました。

そのような中で地域の方による見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動等の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作っていただき、読書をすることが楽しいと感じる子どもが増えました。







【今年度のまとめ】

コロナの影響により、交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域CN中心に見守り活動や学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。「豊かな心・人間関係力の育成」を目指し、地域の方をゲストティーチャーとして招き、キャリア教育の視点から様々な学習場面で体験的な活動を展開しました。こうした活動や登下校の見守り活動を通して、地域の方とのコミュニケーションをとる機会が多くなり、地域・学校・家庭が三位一体となって子どもの成長を見守っています。

【来年度に向けて】

新しい学校様式の一つとして、コロナ禍での地域の方との交流の仕方を模索し、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備、子どもの見守り等を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに新たな人材発掘をしていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立六条幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**『自らまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども』**

取組目標　**「こころとからだで感じられるこども」**
～おもしろそう　やってみたい　できた喜び～

【今年度の取組紹介】

○　長年継続して活動している「菜の花プロジェクト」は、地域の方にお手伝いをしてもらいながら６月の「種落とし」からスタートしました。春の臨時休園の影響で、４歳児は入園式で満開の菜の花畑を１度見ただけ、５歳児については去年の事を思い出したり写真で見たりしただけの「菜の花」でしたが、乾燥させたサヤを踏んだり叩いたりして種おとしをしました。10 月には「唐箕（とうみ）」を使ってゴミを飛ばし、搾油器（さくゆき）で菜種油と油かす搾りを体験しました。ニョロニョロ出てくる油かすにびっくりしていた子ども達。温かくて青のりみたいな香りがしていた搾りたての油かすは、来年の菜の花畑の準備として畑に蒔きました。





11 月に薬師寺と唐招提寺に絞った油を灯明として奉納し、僧侶の方々に「大切に使います」と言っていただいたことは、子ども達の自信につながる心に残る経験になったと思っています。

○ 親子で和太鼓の演奏を聞かせていただきました。子ども達が知っている曲も和太鼓の迫力満点の音色とからだに感じる振動で全然違ったものに感じたようです。
「自分たちもしてみたい」という熱い思いから発表会では何度も練習し、かっこいい和太鼓の演奏を披露してくれました。地域の方から、「感動で涙が出そうになった」とお言葉をいただきました。



【今年度のまとめ】

「菜の花プロジェクト」は新型コロナウィルス拡大防止の観点から縮小などの影響が出ましたが、六条幼稚園らしい学びとして地域の方と一緒に継続的に取り組むことができました。地域の方や、NPO 法人宙塾、ナルクの方々にゴミを出さない自然の循環の仕組みを教えてくださったので子ども達は「自然環境」のことや「つながる」ことを知り、好奇心や達成感を味わうことができました。地域にある薬師寺や唐招提寺を身近に感じ、守っていこうという気持ちの礎になったように思います。また、子どもの心が揺さぶられた経験が、意欲や思考力へ繋がっていきました。

【来年度に向けて】

新しい生活様式を取り入れての活動の中ではありますが、感動することや友だちと一緒に考え表現する楽しさを存分に味わってほしいと考えます。園の行事や子どもの様子をホームページやブログ等で発信して地域の中の幼稚園として地域の方々に見守っていただきながら活動していきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　奈良市立伏見南幼稚園運営委員会

めざす子ども像　**自らのまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども**

取組目標　**いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。**

【今年度の取組紹介】

『お話ひろば事業より』

「お話ひろば」では、感染防止の観点より絵本の読み聞かせの実施回数は減らすことになりましたが、子どもたちの絵本への興味や関心が広がっていくことができるように、小学校の図書ボランティアをされている地域コーディネーターの方に協力をしていただき、絵本コーナーの環境整備を実施しました。園保護者にも協力していただいて一緒に面展台を作成し、表紙が見える状態で絵本を展示することで、子どもたちはいろいろな絵本を手に取り、今まで知らなかった絵本に出会う機会が増えました。また、絵本の補修方法やブッカーの使い方等を教えていただいていることで、絵本の管理もいきわたり、絵本コーナーの充実へと繋がっています。



『日本の食・文化に触れる会事業より』

バス等の公共交通機関を使っての遠出が難しい中、園外保育で小学校や中学校、唐招提寺等へ出かけ、自分が住んでいる地域を知り、関心をもつ機会を取り入れました。地域コーディネーターの方が安全面に配慮し、子どもたちに声をかけながら引率していただいていることで、安心して出かけることができました。唐招提寺では、仏様についての話を聞いたり、子ども達が不思議と感じたことに答えていただいたりすることで、自分たちの住んでいる地域に世界遺産があることを知り、大切にしていきたいという思いへと繋がりました。また、小学校や中学校の施設で過ごす時間をいただいたり、出迎えて下さる校長先生や教頭先生と挨拶をしたり話を聞いたりできたことは、子どもたちにとって小学校、中学校への期待や憧れへの気持ちをもち、園生活をより充実していく姿へと繋がりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の中で、事業の取り組み方について様々な制限がありましたが、関係者の方々には理解をいただき、地域の方々やボランティアの方々の協力や繋がり、暖かな見守りなどを感じることができました。子どもたち保護者共に、自分たちの為に関わっていただいている存在を知り、感謝の気持ちや思いやりの気持ちへと繋がっています。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者も園児の成長を感じ、高い評価と継続、再開を望む声が届いています。感染防止の観点での取り組み方を考えながら地域の方との打ち合わせ等を丁寧に行い、安心安全に実施していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**富雄南中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像

・学びを大切にする園児・児童・生徒
・仲間を大切にする園児・児童・生徒
・命を大切にする園児・児童・生徒

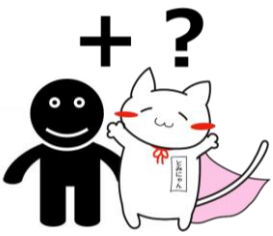
取組目標　**豊かな心を育み、地域を大切にし、たくましく生きる力を持った子どもの育成を目指す学校支援活動の促進と地域全体で展開する美しく、安全・安心な繋がる地域づくり。**

【今年度の取組紹介】

◆コロナ禍の中でも出来ることを模索し、漢字検定の実施、放課後学習支援に取り組みました。

◆地域キャラクターの「とみにゃん」が定着し、とみにゃんの歌も完成。授業や行事の中にも取り入れられるようになってきました。今度はキャラクターの第 2 弾として、単なるマスコットでなく、使命を持ったキャラクター誕生に向け、中学の美術授業の中で、地域見守りを行うキャラクターの募集を行い、生徒から様々な企画と提案がされました。

このことにより、次年度の新たな取組のベースを整えることができました。





【今年度のまとめ】

毎年実施してきたとみにゃんコンサート、防災フェスタがコロナの影響で実施できず、子どもたちが自主的に動ける機会を設けることが少なくなってしまいました。

その中でも、花いっぱい運動は継続し、ボランティア部の生徒を中心に校内が少しでも明るくなる取組が出来ました。

また、コロナ禍の中で密を避けて行えることとして、新キャラクターの誕生に向け、生徒たちの考える力を引き出すことができました。





【来年度に向けて】

漢字検定の継続、ボランティア活動を、中学校はもちろんのこと、各小学校にも広げていく取組を再開し、自ら考え、行動でき、リーダーシップの取れる子どもの育成に取り組みます。

また、地域の見守りキャラクターの誕生と見守り活動に必要なグッズの作成に向けた取組を行います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄南中学校運営委員会**

めざす子ども像　**学びを大切にする園児児童生徒**
仲間を大切にする園児児童生徒
命を大切にする園児児童生徒

取組目標　**子どもたちが地域とのつながりを意識できる**
学習環境整備･取組を充実する。

今年度の取組紹介

○ **環境整備・栽培事業**では、人的・物的支援をいただき地域の「花いっぱい運動」と生徒会活動、「とみにゃんクラブ」の活動により、温もりのある美しい学習環境づくりを進めることができています。昨年度まで大きな規模で実施していた協議会主催行事『防災フェスタ in 富南』がコロナ禍等を受けて中止となりましたが、地域防災への取組を何か継続させていくという面から、災害時にも使用できると考えられる、外トイレ環境整備を実施することができました。
　今年度、本校にある地域教育協議会コミュニティルームの一時設置場所ともなった建物も、地域の支援を得ることで、子どもたちが地域キャラクター「とみにゃん」カラーにペンキ作業し、明るい雰囲気に整備をすることができました。




○ 昨年度から**放課後等学習支援事業**として、夏期休業期間や定期テスト前に、地域コーディネーターをはじめ、ボランティア支援をいただき実施している『とみにゃん学習会』は、自主的に学習参加する子どもたちが定着してきています。コロナ禍で年度始めの学校休業を受けて、スタートが遅くなりましたが、**教育活動支援事業**(情報教育支援・特別支援教育支援等)も継続支援いただいています。いずれも、ボランティア人材の確保は、難しい面もありますが、来年度以降も推進していきたい事業です。

○ 中学校区地域教育協議会の**自主的行動促進事業**としての『とみにゃんコンサート』は中止となりましたが、**学校行事支援事業**のもと、地域や保護者に観覧いただく中で吹奏楽部、ギター・マンドリン部演奏会を感染症対策をしながら実施することができました。



○ **保健衛生事業**では、地域の支援のもと、感染症対策用として、パーテーション製作を実施することができました。

○ **キャリア教育事業**は、本校の子どもたちが、将来について考える指針となっています。今年度はコロナ禍で、地域人材や事業所にご協力いただくことができませんでしたが、地域の方々の物的支援により、子どもたちに必要な表現力とコミュニケーション力を高める時間をもつことができました。




今年度のまとめ

本中学校区では、地域行事や地域教育協議会主催の行事への協働体制が定着してきておりました。しかし、今年度はコロナ禍により、諸行事が中止となり、学校活動に積極的に関わりを持ち、定期的に来校いただいている地域の方々以外との協働の場がなくなってしまったことが残念です。

コロナ禍の中、今年度は本事業の地域の支えによる環境整備に重きをおいた活動を展開し、地域、保護者からも気にしていただいていた箇所の整備ができ、好評価をいただくことになりました。

本事業による人的・物的支援により、本校のめざす「美しい学校」づくりを充実推進できました。

来年度に向けて

地域とともに子どもたちを育成する視点を大切に、諸協働活動や本校生徒考案の現キャラクターと今年度地域からの依頼で生徒にデザイン募集し来年度登場する予定の新キャラクターを活かした広報活動等の取組等を実施し、子ども達の「自尊」「他尊」「地尊」の心と主体的に行動できる力を育てていきたいと思います。ホームページ等の情報発信も、さらに充実していきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄南小学校運営委員会**

めざす子ども像　**学びを大切にする園児児童生徒**
仲間を大切にする園児児童生徒
命を大切にする園児児童生徒

取組目標　**・読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。**
・地域の方々とのふれあいを通して、コミュニケーション能力を高める

今年度の取組紹介

本校はこれまで、地域の特性を生かした体験活動を実施することにより、地域の方とのふれあいを通して豊かな人間性の育成を図ってきました。コロナ禍においても、自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わうことが、地域を愛する心やより良い生き方・考え方を身につけることができると考えています。

地域の方の人材を生かした野の花ぶんこ読み聞かせ事業として、絵本読み聞かせ体験を設定

全学年全学級および特別支援学級（かがやきルーム）で、地域の方を迎え、情操力の向上を目指して、野の花ぶんこ絵本読み聞かせ事業を行いました。今年はコロナ感染予防に留意しながら、２，３学期３０分ずつ全ての学級で、地域の野の花ぶんこの方々が、それぞれの学年の実態に即した絵本を読んできかせてくださり、児童は、とても楽しんでいました。コロナ感染予防に留意しながら、地域の方には、フェイスシールドをつけていただき、児童は自席で前向きに読み聞かせをきく形となりましたが、子ども達は「絵本が好きになった。」「次のお話は、どんな話かな。早く聞きたい。」など、本に対する親しみがわき、表現能力の向上につながっています。今年度は、保護者の方に来ていただきファンタジータイムを行えませんでしたが、学校司書と連携を取り図書室の整備は行うことができました。



今年度のまとめ

「地域の環境を生かした体験活動」「読書環境の充実」「校内および地域の環境整備事業」「楽器演奏体験やお茶の体験など地域の人材を生かした学習」「放課後学習の充実」を柱に、学校・保護者・学生・地域が協働して様々な取組を推進しようとしました。しかし、コロナ感染予防に留意する中で、楽器演奏体験やお茶体験や学生ボランティアが来ていただく放課後学習はできませんでした。コロナ禍でできたどの取組でも、ボランティアの方々に多大のご苦労をいただきましたが、事後、どの方も「学校に来て、子どもに元気をもらった。」等の肯定的なご意見を多数いただいています。また、児童からも「福祉体験でお世話になった近所のおじさんに挨拶したら、声をかけてもらいました。」等の話を聞くことができました。児童に自分が住む地域への関心を深め、地域の中で生きているという意識を持たせることができました。地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことができました。

来年度に向けて

あたえられた環境の中とコロナ感染予防に留意しながら、活動内容を深化発展させるとともに、地域の方々との絆をさらに深め、ボランティアおよびコーディネーターの人材発掘も今年度以上に積極的に進めていく必要があると思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立三碓小学校運営委員会**

めざす子ども像

・学びを大切にする園児・児童・生徒
・仲間を大切にする園児・児童・生徒
・命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

体験　発見　創造ひろがる「三碓学習」

歴史ある「みつがらす」地域とのつながりを大切にした学習環境の整備に取り組み、子どもたちが「みつがらす」に愛着と誇りを感じることのできる取組にする。

今年度の取組紹介

今年度も「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓（なら）の祭り」「むかしあそび」「伝統文化～書道」「人権と平和」「米作り」など各学年で、テーマに基づき、様々な本物に触れる活動を行う予定でした。しかし、コロナ禍で学年当初からの休校が続き、地域との交流を含む学習活動が大きく制限されました。なかでも、田植えや稲刈りで密になってしまう 5 年生の「米づくり」と休校中の近畿大学との共同で進める「環境学習」が行えなくなりました。





そこで、地域の田んぼではなく、「三碓の里山」事業に田んぼづくりを加えて、校内の中庭に田んぼを造成しました。地域の方や JA の方にご協力をいただきながら、土づくりから田んぼの水の管理を子どもたちとともに行い、間近で稲の成長を見ることができました。思ったよりもたくさんの米がとれ、脱穀・精米を行い、家庭科の学習で食すことができました。

また、豊かな感性や情操を育む事業として、1 年を通しての「図書ボランティア」によるより使いやすい図書室への改装と「校内緑化」及び「校内環境整備」事業を進めました。

今年度のまとめ

「学び」「仲間」「いのち」を大切にする感性豊かな子どもを育成することは、本校保護者をはじめ地域の方々の強い願いです。今年度は、コロナ禍で例年通りに行えなかった分、どうすればよいか改めて考える良いきっかけにもなりました。地域を愛する方々とともに実体験をした児童は、「みつがらす」という郷土とともにそこに暮らす人々を愛し、誇りをもつことができました。

ボランティアの方々と進めてきた「校内緑化・環境整備事業」が根付き、今年度は地域の力をお借りすることがあまりできませんでしたが、子どもたちが自ら企画・作業を行い、新しく田畑や花壇・寄せ植えを作り、育てました。子どもたちが「主体的に考える」取組を行うことができました。

来年度に向けて

実体験ができる「環境」と「人」の提供を目指して取り組んでいますが、来年度も今年のように人との接触が制限されるようであれば、ICT の活用も視野に入れて検討していこうと考えています。また、校内緑化・整備事業や地域と学ぶ三碓学習などは継続的に推進し、「学び」「仲間」「いのち」を大切にできる児童の育成に努めていきます。地域の方々と連携し進めていきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立三碓幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**学びを大切にする園児児童生徒**
仲間を大切にする園児児童生徒
命を大切にする　園児児童生徒

取組目標　**地域の方との交流を通して、さまざまな経験、体験を積むことにより「豊かな心」「やる気」を育み「しなやかな身体」の育成を行うことにより、「生きぬく力」を身につけさせる。**

【今年度の取組紹介】

お話しの会では、『野の花文庫』さんに来ていただき、素話や指人形、絵本などの読み聞かせをしてもらっています。年齢や興味に応じて話し方や内容を工夫してもらう事で毎回子ども達はわくわくしながら「今日の話はなにかな？」と、この日を楽しみにしています。テレビやメディアから聞く声とは違い、人から読んでもらう声にはぬくもりを感じると共に想像力を膨らませお話しの世界へと導いてくれます。その積み重ねが、聞く耳を育て、情緒豊かな子ども達へと育ってきています。





サッカー教室は年に５回あります。しっぽ取りゲームや、色鬼などの簡単なゲーム遊びから始まり体をウオーミングアップさせます。その後は、チームに分かれ対戦をします。負けて悔し涙をする時もありますが、サッカーを通じて「自分一人が頑張ってもだめ。」チームみんなが、一緒になって頑張る事の大切さを教えていただきました。今では、自分達でサッカーゴールを出してゲームを楽しんでいます。

【今年度のまとめ】

園に来ていただくボランティアの方々や講師の先生には、「ひと」と関わる楽しさを教えていただきました。また、少人数の利点でもあり、一人一人に応じた声掛けや、丁寧にかかわっていただく事で、様々な経験や体験を積み重ね、豊かな心を育みそれぞれの得意分野をのばすきっかけとなりました。この事は、この先、色々な人と関わり自分らしく生きていく力の基礎となるはずです。

【来年度に向けて】

来年度も人とのふれあいを大切にしながら、「しなやかな身体」の育成を目指し、「生き抜く力」を身につけていけるように計画をたてて取り組んでいきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄南こども園運営委員会**

めざす子ども像　**・学びを大切にする園児児童生徒**
・仲間を大切にする園児児童生徒
・命を大切にする園児児童生徒

取組目標　**ぐんぐん　伸びよう　笑顔　いっぱいタイム**

【今年度の取組紹介】

・今年度は新型コロナウィルス感染症の影響で、計画していた絵本タイム（絵本の読み聞かせ）は中止となりましたが、野の花ぶんこさんの『おはなしの広場』や絵本貸し出しの『とみなん文庫』は実施することができ、絵本や紙芝居、お話に親しみました。子どもの興味や年齢に応じた絵本を選んだり、子どもがより興味がもてるような読み聞かせの工夫をしたりして取り組んでくださいました。お話のストーリーや言葉に興味や関心をもち、驚いたり笑顔を見せたり等、様々な姿を見せながら楽しんで聞いている様子が見られました。回を重ねるごとに、集中力や話を聞く力が身につき、心や感性も豊かになってきています。



・栽培活動では、作物を育て収穫することはできましたが、園で調理をして食することはできませんでした。コロナ禍ではありましたが、地域の方が気にかけてくださり、定期的に園庭の畑の様子を見に来てくだいました。肥料を撒いたり、マルチを敷いたり等の作業をしているところに「何しているの？」と子どもが声を掛けかかわろうとする姿が見られました。やり方を教えてもらって一緒にしてみたり、挨拶をしたり等、人とのふれあいを通して、人とかかわる力やコミュニケーション力へと繋げていきました。

・今年度よりサッカー教室の講師の方々が変わりました。体を動かしながらサッカーを楽しむことが一番の目的ではありますが、それだけではなく、人の話を聞くことの大切さを教えてもらい繰り返し声かけをして積み重ねることで、聞く姿勢や集中力が高まってきています。



【今年度のまとめ】

・様々な制限の中での活動ではありましたが、活動の方法を工夫することで、これまでの事業を続ける事ができました。クラス単位での取り組みは、少人数で落ち着いた環境の中での活動となり、人とかかわる楽しさを十分に感じたり、自分の思いを出しながら主体的に活動に取り組もうとしたりする等、子どもたちの笑顔があふれる意欲的な姿が見られました。

【来年度に向けて】

・活動の方法の見直しと工夫を行い、次年度も定期的に指導講師を招聘したり、地域ボランティアの協力を得たりしながら、いろいろな体験を通して、豊かな感性や健やかな体づくりに取り組んでいきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立学園南こども園運営委員会**

めざす子ども像　**学びを大切にする園児児童生徒**

仲間を大切にする園児児童生徒

命を大切にする園児児童生徒

取組目標　**人や自然との豊かなふれあいができる環境を整え､地域とのつながりを感じられる取組を行っていく。**

【今年度の取組紹介】

・わんぱくキッズの講師の先生に来て頂き、運動あそびを楽しみました。
鉄棒では、前回りや逆上がりにつながっていく、まずは「ハンドパワー」を十分楽しんで挑戦しています。「四つ這い」は大切!!自分の腕で、自分を支える力。左右のバランスを取りながら移動をしていました。力加減や距離感を考えながら楽しめるボール遊びもしました。
成功することを繰り返ししていく中で、次は努力してでも「やってみたい」「もっとやりたい」気持ちがもてるように進めてくださっていました。初めから終わりまでほとんど動きっぱなしなのに、子ども達は最後まで夢中で楽しんでいました。





・今年もJAの方にご指導いただきながら、１年間通してお米作りをしました。田んぼの土を整える“しろかき”から始まり、“田植え”“稲刈り”“脱穀・精米”と活動を続けました。米作りへの関心やごはんをいただくありがたさを感じていたようです。

【今年度のまとめ】

・身近に畑がある環境のなかで、地域の方に教えてもらいながら、苗や種を植え、水やりや草引きなどの世話をしながら成長を観察してきました。その中で、土の感触を知ったり、成長の中で驚きや不思議を感じたり、収穫への期待や収穫の喜びを感じることができました。
・運動あそびやおはなしの会の方に来ていただくことで、今まで以上に体を動かすことが好きになったり、いろいろな絵本に興味を持ったりすることにつながりました。

【来年度に向けて】

・コロナウイルス感染症対策を徹底したうえでの取り組み方の工夫をして、地域の方とのつながりをもつ機会を増やしていきたいと思っています。
・学園南こども園での取組を地域の方々に知っていただける広報活動を計画していきたいです。

令和２年度　取組報告　　**平城中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像 **「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう～**

取組目標　**～“　食と農”を通して地域の絆を深めよう～**

【今年度の取組紹介】

地域教育協議会会長の田んぼをお借りし、小学５年生が米つくりの体験学習をしました。地域の方の指導のもと、子どもたちは田んぼの泥の感触にキャーキャー言いながらも熱心に苗を植えていました。　稲刈りではカエルやバッタに驚きながらもはじめは鎌をうまく持てなかった子も地域の方に教えてもらいながら上手にいねを刈ることができました。



・・・

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城中学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域の絆を深めよう　～平城の地でいのちを育もう～**

取組目標　**今まで取り組んできた食と農に加え、防災、労働、環境、生と性等、人が人として生きていく上で必要なテーマについての学習を深め、豊かな心を育むとともに地域の一員として地域に貢献できる人材の育成に努める**

今年度の取組紹介

① 恒例のイモ栽培は「シルクスイート」に決定!!



秋に予定されていた平城“食と農”ふれあいフェスタ 2020 に出品するイモは、甘くて美味しいと評判の「シルクスイート」に変更し、4 月の臨時休業中に地域の方々と教員で協力しながらイモの苗を植えました。暑い夏を越え、雨の多い 9 月…。収穫の心配をしつつ 10 月末に生徒約 40 人ほどの手で、「シルクスイート」が収穫されました。昨年ほどの豊作とはなりませんでしたが、生徒たちは雨上がりの重い土を掘り起こす度に一喜一憂しながら、次々に大きな収穫物!?をゲットしていました。残念ながら、フェスタ 2020 の開催は中止となってしまい、収穫したイモで焼きイモ大会も計画しましたが、生徒への食品提供は見送らざるを得ない残念な結果となりました。

② 炎天下、夏のクリーングリーン大作戦を決行!!



８月２９日（土)、中学校の敷地周辺の「クリーングリーン大作戦」を決行しました。当日は、早朝より地域教育協議会、地域自治会の協力を得て、各クラブ活動単位で作業場所を決め､草刈りを中心とする清掃作業が行われました。約 2 時間の作業中、地域の方々の手際の良さに感心しながら、刈った草を集める中学生と地域の方との何気ない会話の花が咲く様子は、微笑ましい光景でした。中学校の敷地周辺の草はあっという間に片付き、東門付近には草が詰め込まれたビニール袋の山が出現。炎天下、ご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年度のまとめ

○　新型コロナ感染症の影響で「平城“食と農”ふれあいフェスタ 2020」の開催は中止となり、「当たり前に出来ていた生活が当たり前ではないこと」を感じた 1 年でした。恒例となった盛大な取組でしたが、コロナ禍の今年、平城中学校区の園児・小学生・中学生・地域の方が一堂に集まることはできませんでした。その中で、感じたことは「地域の中で子どもは育っている」という思いでした。形を変えても地域の方と関わりを持ちながら成長を支える取組を画策する必要性を感じました。

○　環境整美事業については、地域のお力を借りながら職員が中心となり、生徒の学習環境をたもつことが出来ました。

来年度に向けて

○　来年度は今年出来なかった「平城“食と農”ふれあいフェスタ」の取組を通じて、生徒たちが主体的に取り組む視点をさらに取り入れて、新たな取組を模索しながら取り組みたいと考えています。

○　放課後学習などコーディネーターの協力を得て、学習支援の取組を進めたいと考えています。

○　生徒一人一人が平城地域の諸活動に対して主体的に取り組み、継続的な取組にしていくとともに、地域の方の協力を得て、環境美化活動への支援の輪をさらに広げていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城小学校運営委員会**

めざす子ども像　地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう

取　組　目　標　**地域･家庭･学校が、栽培･生産･命を育む取組を中心に、協力して学んでいく**

〇活動の中で、様々な人々・物・出来事とかかわり、感動を味わい、心を動かす体験をさせる。

〇活動の中で、豊かな心や規範意識、達成感、成就感を養い、コミュニケーション力を伸ばしていく。

【今年度の取組紹介】

◆米作り体験・サツマイモ栽培体験



地域の方から学校の南に隣接した田圃をお借りして、５年生が田植え・稲刈り体験を行いました。今年で１１年目になります。田植えや稲刈りには、地域の方々や農協の方々が多数応援に駆け付けてくださいました。

また、１年生と６年生が協力して、地域の方々の指導のもと、サツマイモを植えたり、水やりをしたり、収穫したりしました。

◆焼きいも大会



１年生と６年生が育てたサツマイモを、学校の南に隣接した田圃で焼き、地域の人や児童、家族で食する「焼きいも大会」を１０月２４日（土）に行いました。

一人一つサツマイモをアルミホイルで包み、もみ殻で１時間あまり焼きました。焼きあがるまでの間は、運動場で、竹馬やコマ回し、ボール遊びなどをして楽しみました。

焼きあがった焼きいもは、どれもおいしく、地域・家庭・学校が三位一体となり、地域の絆をより深めることができました。

【今年度のまとめ】

地域の方々との協働による様々な栽培体験活動で、達成感や成就感を味わい、また、顔を合わす機会や、自然に挨拶を交わし話すことも増え、コミュニケーション力の育成につながっています。

家庭科学習・図工科学習の支援、図書室や中庭の環境整備への支援など、様々な面で地域の方々のお世話になり、教育活動を進める上でもなくてはならない存在でした。

【来年度に向けて】

各学年の児童により効果的な栽培体験学習を年度当初に計画し、地域の協力を得て実行していきたいです。教職員と地域の方々とのつながりをより深めるためにも、顔合わせや意見交換の場を設定し、密接な関係づくりを図っていきたいです。コロナ禍で今年度は実施できませんでしたが、例年行われている「ふれあいフェスタ」や「クリーン活動」などを通して、小中一貫教育の立場から子どもや教師の交流をより一層深めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城こども園運営委員会**

めざす子ども像　**「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう～**

取組目標　**食と農の活動を通して、地域の絆を深めよう**
～園・家庭・地域が連携し、様々な体験を通して豊かな心と健康な体を育む～

【今年度の取組紹介】　－焼き芋パーティー－

新型コロナウィルス感染拡大防止の為、4～5 月は臨時休園、6 月は分散登園となり、例年地域の方の指導のもと行っていたさつま芋の苗植えと田植えは経験できませんでしたが、園が再開してから子ども達が収穫の喜びを味わえるように、地域の方が準備し苗植えや世話をしてくださったおかげで、秋には 4 歳児がさつま芋の収穫を、5 歳児が稲刈りを楽しむことができました。さつま芋の収穫では最後の仕上げに地域の方のシャベルで掘りおこしてもらい、出てきた芋の大きさに驚きを隠せない様子でした。また稲刈りでは優しく手を添えてもらい、初めて握った鎌でザクザクと刈る感触を楽しんでいました。

収穫したさつま芋を使っての焼き芋パーティーをとても楽しみにしていた子ども達。昨年の経験を思い出し、「葉っぱ集めよう！」「この枝はどう？」と自ら焼き芋の準備を進めていました。今年は家庭の協力もいただき、たくさんの枝や落ち葉が集まりました。当日は、地域の方が手際よく火をおこしてくださり、その中にアルミホイルに包んだ芋を火に入れました。「おいしくなぁれ」と何度もおまじないをしながら焼き上がりを楽しみにする子ども達の姿がみられました。今年はクラス毎に時間差をつけ、広い園庭に間隔をあけて一人分ずつのシートを敷きソーシャルディスタンスをとったり、手洗いや手指消毒を徹底したりして感染症対策を十分行いながら地域の方と焼き芋パーティーを楽しみました。「美味しい！」「甘いね！」「おかわりほしいよ！」と皆で食べる嬉しさや喜びを味わっていました。保護者や地域の方の協力で、今年も収穫の喜びを感じ、家庭ではできない体験をすることができました。





【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウィルス感染防止措置をとりながら、手探りでの園生活でした。地域の方との活動も縮小となり一緒に行う活動が少なくなってしまいましたが、皆の協力のおかげで、子ども達が楽しみにしていた焼き芋パーティーを行うことができました。一緒に栽培活動をしたり、焼き芋パーティーをしたりしたことで、食への興味関心が高まるとともに、地域の方を身近に感じ、感謝の気持ちをもつことができました。

【来年度に向けて】

感染症対策を行いながら取り組める事業は何なのか活動を精査し、園児、保護者、地域の相互が心豊かな体験になるように、今後も活動計画や活動後の振り返りを大切にしていきたいです。その際、職員と地域の方がつながりをもてるように保育後にも時間を確保していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**飛鳥中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども**

取組目標　**飛鳥の地域で生きる喜びを感じる子どもが育つこと。そのために、地域と学校がより密につながる場と機会を作り、これまで以上に地域で子どもを育む環境を整えること。また、地域の土台となる家庭を支え、地域の中で教師が育ち、学校園と関わる地域人材が育つこと。**

【今年度の取組紹介】

飛鳥中学校区では、「飛鳥ブランドの子ども」として、一幼・一小・一中の強みを生かして、幼小中をひと続きとして、子どもたちの価値観を多様に育て、子どもたちの豊かな育ちを支援しています。家庭任せ、学校任せではなく、地域のみんなで地域の子どもたちを育てるために、常に地域の協働を軸とした取組をしています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域の大きなイベントである飛鳥フェスティバルをはじめとする様々な取り組みを行うことができませんでしたが、『できないことよりできることを考える方が楽しい』との思いを胸に、地域の方々と中学校生徒会が連携して、「愛（I）を叫ぼう」と題した、生徒の思いを主張するイベントを企画したりと、幼小中において様々な制限の中でも何かできることをしていこうという、地域・学校園の強い絆を再確認できた１年でした。また、「飛鳥 CS だより」の発行も継続して行い、校区の取組を広く地域全体に知ってもらうことができました。





【今年度のまとめ】

様々な制限下で例年の取り組みができないからこそ、今一度、協議会として、これまでの活動を振り返り、これからの方向性を吟味する機会になったと思います。中学校のアートパフォーマンス部と連携をした「地域教育協議会 T シャツ」の作成など、これまでにない活動も生まれました。自分もこの地域の一員であることを自覚し、自分はどのように頑張りたいかを言えるようになったり、取組の準備から片付けまでを主体的に行動できる活動を続けていきたいと思います。

【来年度に向けて】

今年度の取組紹介の中にも挙げたように、今後も継続して「飛鳥 CS だより」の発行を行い、より広く地域に協議会の取組を知ってもらい、ボランティアなどの形で活動に参加してもらえる裾野を広げていきたいとおもいます。

令和２年度　取組報告　　奈良市立飛鳥中学校運営委員会

めざす子ども像　**地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども**

取組目標　**自分を知り、自己の考えを育て、それを皆の前で表現し、行動できる力を育てる**

【今年度の取組紹介】

平成 29 年度から、本校区では地域コーディネーターが中心となって、飛鳥小、中学校それぞれで学習支援を行ってもらっています。中学校では、地域の学習支援ボランティアや校区内にある大学の学生による学習支援ボランティアなどをコーディネートしてもらい、毎週あすかスタサポ（放課後学習教室）を開室（定期テスト前には毎日開室）していただいています。この取組も４年目を迎え、必ずこの教室に来る生徒も増え、定着してきています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テスト前に図書室に集まっての学習はできませんでしたが、各学年ごとに別れての学習には、たくさんの生徒が取り組んでいました。学習の成果も出始めた生徒は「やればできる」という自尊感情を少しずつではあるが高めることができています。

また、飛鳥中学校区では、子どもと大人、保護者と地域と学校（教職員、生徒）が協働することを目標にして、例年ならば、校内環境整備事業による花いっぱい運動の推進、夕べのコンサートやあすかフェスティバル、校内クリーンキャンペーンなどによる地域行事・育友会行事の活用など、様々な場面で生徒と地域とが関わり合える取組を推進してきており、今年も、地域の方々による３年生の面接練習などを継続して行ったり、アートパフォーマンス部との連携をした「地域教育協議会 T シャツ」の作成などの新たな取組も行うことができました。



【今年度のまとめ】

「未来を切り拓く力」の育成に向けて地域行事、学校行事、そしてキャリア教育においても、常に地域との協働を基本にすえて活動に取り組んできたこれまでの実績を基に、新型コロナウイルス感染拡大の影響の中でも「できることを工夫していこう」という、地域と学校の柔軟性が試される１年でした。地域の方からの提案で、プロ野球の元読売ジャイアンツ選手「鈴木康友さん」のオンライン講演会が実現するなど、様々な工夫した取り組みを通して、子どもたち自身が地域の方々から自分たちに期待されていることと、常に支援されていることをしっかりと理解し、様々な面で積極的に安心して取り組むことにつなげることができました。

【来年度に向けて】

毎年、「（地域の中で、地域の方と共に）自ら考え主体的に取り組む」ことをテーマに取り組んでいますが、来年も『キャリア教育』の基盤となる「人と関わる力」「自分に誇りを持つ力」「確かな学力」の育成に向けて、これからもコーディネーターと教職員がしっかりと連携し、地域行事・学校行事での地域との協働を深化しつつ、生徒の学力支援などに取り組んでいきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立飛鳥小学校運営委員会**

めざす子ども像　**地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども**

取組目標　**地域に根差した学習活動等において、地域の方々がより活躍できる出会いの場を計画し、児童が様々な地域の方々と出会うことで、地域のよさに気付き地域を大切にしようとする意識を育てる。**

今年度の取組紹介





今年度はコロナ禍の中、例年通りの活動はできませんでしたが、地域の方々をゲストティーチャーにお迎えして授業を行ったり、校外学習の引率補助を地域の方に協力願ったりするなどして、子どもたちが地域の方と出会い触れ合う機会を可能な限り持つことができました。また１年生の奈良公園散策では、地域の方が子どもたちの教育活動を支える様子が見られました。学校を拠点として地域の人々がつながり、地域の教育力を高めることができました。また今年度も２学期末に、地域の方と環境委員会の児童たちが「葉牡丹とお花の寄せ植え」を作成しました。地域の見守り活動に協力をいただいている方々や校区の公共施設などに、感謝の気持ちを込めたメッセージカードと共に配り回りました。多くの方から感謝の言葉をいただいたことで、子どもたちは地域の方々との良い出会いを経験し、地域を大切にしようとする意識につながる良い取組となりました。

今年度のまとめ

今年度はコロナ禍の中、様々な活動の制限もあり、例年通りとはいきませんでしたが、地域の方々や保護者ボランティアの方々に協力を得ながら、町探検などの地域学習や学校図書室の整備などといった取組に対して、地域の方々の参加できる体制をできる限り整えました。このことにより、地域の方々の学校への関わりや思いが、子どもたちにも確実に伝わっており、いろいろな機会で学校や地域を良くしていこうという気持ちが子どもたちにも広がりました。

来年度に向けて

来年度は一層、小学校も中学校と同様に、地域の教育力を支え高める拠点として機能できるように連携の強化を更に図り、しっかりと見通しと計画をもって様々な事業を実施していきます。また活動に対する評価をしっかりと行い、見直しや改善等が必要な場合は、話し合いを密接に行い、子どもたちと地域がしっかり繋がることができる充実した取組となるようにしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立飛鳥幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**地域に対する誇りと、地域を大切にする心をもち、自ら考え主体的に行動する子ども**

取組目標　**友だちや地域の方々や文化財にかかわり、親しみや感謝の気持ちをもち、大切にしようとする心を育むため、地域との連携を密にする。**

【今年度の取組紹介】



◇お米作り

6 月の田んぼの土づくりから始まり、田植え、稲刈り、11 月末の脱穀、もみすりと、お米になるまでを体験。すり鉢と野球のボールを使ってもみすりをすると玄米になり、「わー！おこめがでてきた!!」と大喜びのこどもたちでした。できたお米を使ってご飯を炊き自分たちでおにぎりを握って食べたのですが、白米との違いを比べたり、できたお米の量をみて「ちょっとしかできないなあ」とびっくりしたりしていました。自分たちが普段口にしているものがどうやってできているのか、そしてできるまでどれだけ大変かを感じることができた経験でした。



◇お話の会

年間を通して『飛鳥おはなしの会』の方々に来ていただき、いろいろな絵本や紙芝居などを読み聞かせていただきました。今年度は 9 月からのスタートとなりましたが、「きょうはなんのおはなしかなあ…」と毎回楽しみにしている子どもたち。3 つから 4 つのお話を集中して聞けるようになり、おはなしの大好きな子に育ってきています。

【今年度のまとめ】

新しい生活様式のもと、例年通りの活動はできなかったものの、地域の方々がいつも子どもたちのことを気にかけてくださり、いろいろな経験をさせてあげようと声をかけてくださいました。その中で子どもたちは周りの人たちに感謝の気持ちをもち、人とかかわる心地よさを感じ、親しみを持って接するようになっています。そして、五感を通して様々な体験をすることで、創造性や自発性が育ってきています。

【来年度に向けて】

飛鳥幼稚園は今年度で閉園となりますが、これまでの活動の中で、地域のいろいろな人たちとのかかわりや経験が、子どもたちの成長には欠かせないものだということを実感してきました。今後も地域力を生かして、飛鳥の子どもたちのために様々な活動を展開していただきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**気づく、学び、考える子どもを育てる**

取　組　目　標　**子どもにとって今何が必要なのかを常に考え、**
また、地域にとって何が出来るのかを考えながら活動を実践していきたい

【今年度の取組紹介】

〝 わんわんパトロール 〟



新型コロナにより不確定な社会の中で、地域の人が子どもの安全を守る活動を新しく始めました。朝夕のペットの散歩時に「バッジの付いたバッグ」を持って散歩する事で、自然と見守り活動をする事が出来ました。それだけではなく、散歩する人々とのつながりも生まれ、地域コミュニティの構築にも役立ちました。新聞やテレビにも取り上げられ、大きな反響がありました。



〝 とみきたダンスクラブ 〟



幼稚園から小学生のダンスクラブ３０人が発表会を開催。
発表会では、生徒は学年・学校を越えて楽しく自分を表現する事ができました。
来年度は、歌も取り入れて活動する予定です。

【今年度のまとめ】

今年はコロナで活動がやり難い環境ですが、子どもは学び育つ為の環境が必要です。

このなかで「わんわんパトロール」を開始し、地域の人の共感を呼び、子どもの安全活動につながった事は成功でした。

この事業で気を付けている事は「ビジョンをいつも明確に持ち、やらされ感が無い」事が必要です。次に「この活動はニーズがあるのか」が重要です。この事により、地域のコミュニティが構築されました。

【来年度に向けて】

来年度は、会長・総合コーディネーターが交代し、今までの事業を見直し新しい視点で活動を展開していきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立登美ヶ丘北中学校運営委員会**

めざす子ども像　**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取組目標　**様々な活動を地域に発信する意識を持ち、できる限り子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実**

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍の中で活動が大きく制限される１年となりました。これまで、学校と地域とより深く連携していくために、生徒会が目指す取組を地域の方に理解していただきながら具体的な活動と支援をお願いしましたが、「学校力向上事業」として実施してきた東登美ヶ丘小学校や登美ヶ丘高校との朝のあいさつ運動や「防災教育推進事業」として実施してきた炊き出し訓練など、学校と地域の方、保護者の方と協力して実施してきた各事業が一旦途絶えました。しかし、感染予防に注意しながら「キャリア教育推進事業」として、講師の方に来校していただき、性教育、面接指導や労働に学ぶなどの講座は実施することができ、人間関係形成能力や課題対応能力を培いました。





【今年度のまとめ】

地域のつながりを深めるため、防災教育推進事業に力を入れていましたが今年度は実施できませんでした。しかしながら、今年度継続して実施できた事業を通して、地域と連携して、自分たちも地域の一員として貢献しなければならいことを理解し、災害時等においての心構えにもつなげられたと考えています。地域の大人から学ぶことの大切さも理解し、地域の大人と関わることでつながりを活性させ、その中で果たすべき自分たちの役割と責任を理解してくれているようです。

【来年度に向けて】

小中連携と中高のつながりを深めつつ、地域の方と協働する活動の内容を充実させ、本校区の学校ブランド力を高めていくとともに、学校活動に幅広い年齢層の方々に参加を求め、学校を起点とした新たな交流と地域の活性化につなげていきたいと考えております。また、地域に誇りを感じることができ、激変する未来においても活躍できる人材の育成に努めてまいります。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立登美ヶ丘小学校運営委員会**

めざす子ども像　**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取　組　目　標　**地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実**

【今年度の取組紹介】

《学習支援事業》地域の方による学習の支援

◆家庭科実習支援

家庭科の裁縫実習において支援をしていただきました。複数の大人による支援が得られ、実習をスムーズに進めることができました。



《体験学習事業》ゲストティーチャーによる授業

◆平和の話　/　昆虫の話　/　信楽焼体験　等

例年よりかなり数が減ったものの実施可能な体験授業は実施しました。どの体験も多くの児童たちにとっては初めての体験であり、活動を通してその楽しさや難しさを知りました。また、本年度の社会状況においても、児童に大切なことを伝えようと来校してくださる地域の方たちの思いなどを知ることができ、今後の生活などに生かしていくことができる取組となりました。



《環境整備活動事業》地域の方と共に行う環境整備

◆通学路清掃、図書整備、

保護者の方や学校近隣の方に学校環境の整備を進めていただいています。本年度は本のブッカーかけを中心とした図書室の整備もしていただきました。児童は一緒に活動することができませんでしたが、きれいになった図書室を利用することで、環境整備の大切さを知りました。

【今年度のまとめ】

子どもたちは信楽焼体験等、日頃体験することのできない体験を通し、多くの事を学びましたが、新型コロナウイルス感染症のため､ふれあい学習や体験学習等の多くの事業が中止となったのはとても残念でした。

学習の中で招聘した地域の方とお話しをする児童が増えてきています。「地域で育っている心豊かな登美っ子」を意識させることができる貴重な学習であったと思いました。

通学路清掃や図書整備は地域の方と行いませんでしたが、きれいにしていただき、とても喜んでいました。見守りで立哨されていた地域の方にお礼を言う児童もいました。感謝の気持ちを抱く姿勢を大切にしてほしいと思います。

【来年度に向けて】

来年度は学年に応じた様々な体験学習や行事を行えるよう、実施の形態を考える必要があります。今後ももっと保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活をするこの地域に誇りを持てる登美っ子の育成を目指していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立東登美ヶ丘小学校運営委員会**

めざす子ども像　**「気づく、学ぶ、考える子どもを育てる」**

取組目標　**〇地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進。**
〇恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進。

【今年度の取組紹介】

〇昔遊び体験（１年）

例年実施している体験学習の１つですが、今年度は外部から講師等に来校いただいて活動するのが非常に困難な状況でした。新型コロナウイルス感染防止に努めるため、それに必要な道具をそろえたり、地域のみなさんに安心して来校いただくために活動の形態を工夫したりすることで実施することができました。





「たけとんぼ」や「めんこ」、「おはじき」など９種類の遊びを体験し、子どもたちは、活き活きとした表情で楽しんで活動できていました。併せて、地域の方々に、子どもたちの様子と今年度の教育活動の様子を知っていただけたことは、今後の学校教育への支援の在り方を考えていただける貴重な場となりました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染防止に努めながら実施できたこともあれば、やむなく実施を中止した活動もありました。このような状況下で子どもたちが人と接することが少なくなり、コミュニケーション能力の育成の場が減少したことを実感しています。実施できた活動の様子や「地域の人と仲良くなれて、うれしかった」といった感動からも、子どもたちは活動だけでなく、人と話すこと、人と関わることを楽しんでいたことがうかがえます。人と人の関わりが、豊かな情操やコミュニケーション能力を育むことを再認識した一年となりました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染防止に取り組みながら、様々な活動をするために必要な物品は整ってきました。それをふまえて、今後の活動形態や人数、活動そのものを精査するとともに、ICT 機器を用いた活動や ICT 機器を活かして遠隔地に住む人との関わりによって、一層効果的な活動ができるように取り組んでいきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立登美ヶ丘幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取　組　目　標　**豊かな心をもち、いきいきと活動する幼児をめざして**
―遊びや人との関わりを通して―

【今年度の取組紹介】

◆「感動体験事業」体操で遊ぼう

今年度より始めた「体操で遊ぼう」では、ゲストティーチャーの指導によるストレッチやコアトレーニング、楽しい曲に合わせてリズム運動など、子どもが意欲的に体を動かして遊び、保護者参加の日は、親子で触れ合いながら体を動かし笑顔が溢れ楽しい時間を過ごしました。一緒に遊んだ体操や、手話ダンスは運動遊び参観や生活発表会などでも取り入れ、保護者や地域の方に参観していただき、子ども達がいきいきと活動し、力を発揮でき自信につながりました。



◆「環境整備事業」栽培活動やアイの生葉染め体験

保護者や地域の方の協力を得て子ども達と一緒に花壇やプランター、畑などで様々な栽培物を育てました。「かわいい芽が出てきたよ」と意欲的に友達と水やりをしたり「綺麗な花が咲いてきたね」と生長を喜んだり、自分達で育てた花や葉で色水遊びやごちそうづくりを楽しんだりしました。

アイの生葉染めでは、育てたアイの葉を刈り取り、お家の方と一緒に葉をもみ、T シャツを染めました。「色が出てきたよ」と葉の色の変化や濃度に驚き、栽培から収穫、染物をした T シャツは世界で一つだけの作品になりました。染めた T シャツを着て運動遊び参観で踊ったり、園内作品展に掲示したりして、家族や地域の方など多くの方に見ていただき園での豊かな体験を伝える良い機会となり、親子共に達成感を味わうことができました。



【今年度のまとめ】

○コロナ対策として今年度は 2 学期からの活動となりましたが、様々な方の協力を得て多くの感動体験ができ、自分の気持ちを素直に表現し、人と関わる楽しさを感じ、豊かな心が育ちました。

○地域、保護者の方と一緒に活動することで子ども達は楽しみながら、ルールやマナーを知り、守ろうとする気持ちが育ってきています。

○活動の様子をホームページや園内に写真を掲示したりすることで、保護者、地域の方が園の教育に関心をもち、理解と協力をしていただくことができました。

【来年度に向けて】

○コロナ禍での人々との触れ合いの仕方や活動方法などを工夫しながら、地域や保護者の方と情報交換し協力を得て、事業を進めていきたいと思います。

○子どもの好奇心や創造性を刺激し、遊びや生活の経験が豊かになる活動を継続して行い、積極的に活動の様子を発信して、地域の中での幼稚園教育の役割を果たしていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立東登美ヶ丘こども園運営委員会**

めざす子ども像　**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取組目標　**地域とのつながりを大切にし、子ども達が、楽しさ・温かさ・思いやりを感じられる充実した取組を行う。**

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、４月５月と休園になりました。６月から再開された園を、地域の方が草刈りやプランターに花を植えてくださり、子ども達の為に環境をきれいに整えていただきました。



子ども達は、園庭で思いっきり走って鬼ごっこをしたり、サッカーをしたり、花で色水遊びをして、本来の園での生活に少しずつ戻っていくことができました。

色水あそびでは、花をすり鉢でこすり、色を出すことを楽しみました。また、できた色水を混ぜ合わすことで違う色になることを知り、予想を立てながら繰り返し遊びました。５歳児になると、置いていた色水の色が薄くなっていることに気付き「お日さんにあたったからや。影に置いていたら薄くならないと思う。」と仮説を立てて、実験してみようとする姿がみられました。環境を通して『気づく・学ぶ・考える』を体験し、感動体験につながることができました。



サッカー教室では、『NPO 法人ソレステレージャ奈良２００２』のコーチに来ていただき、４歳児５歳児がサッカーを通して、体を動かす楽しさを味わうことができました。特に４歳児は、３歳児の頃からあこがれをもって見学していたこともあり、意欲的に参加し試合形式も楽しむ姿がみられました。

【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、地域の方とのふれあいが少なくなりましたが、環境を整えていただき、この状況下でも子ども達はのびのびと成長することにつながりました。また、新型コロナウイルス感染症対策を地域の方にもご理解いただいたことで、２学期後半から少しずつ地域の方との温かなふれあいを行うことができ、来年度へつなげることができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症対策を十分に取ると共に、地域・学校・園との連携を取りながら、子ども達にとって温かなふれあい体験や感動体験ができるよう、園活動の充実に取り組んでいきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**都跡中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　やさしさとたくましさをもち、
未来をきりひらく子どもの育成
「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす

取組目標　**学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる。**

今年度の取組紹介



・今年度も読書大好きな子どもたちを育てる工夫をしました。
読み聞かせはこども園のみの実施でしたが、図書ボランティア用のピンク色のエプロンを作成し様々な作業を行いました。司書の方と一緒に小・中学校では引き続き蔵書整備に取り組み、本を選びやすく、誰もが来ようと思う図書室になるようにしました。壁面装飾の他、図書室企画として中学校では短歌作品の募集や文芸委員の生徒たちとの牛乳パックでのブックスタンドを作りました。



・地域で子どもたちを見守る取組としては、コロナ禍で校区の唐招提寺への園外保育や平城宮跡への遠足となった園児児童の行程に付き添いました。
恒例の小学４年生平城宮跡オリエンテーリングは無事に実施され、学習サポートをすることが出来ました。
・毎回コーディネーター会議に参加する公民館館長と共に公民館主催の「みあときっずチャレンジ隊」等の子育て活動に協力しました。この活動には、現在、地域の中学校を卒業した大学生たちがボランティアとして子どもたちの活動をサポートしてくれています。

今年度のまとめ

・各事業に多くのボランティアが参加していただいているが、図書ボランティアの増加が今年度みられました。ボランティアがお揃いのピンクのエプロンを着用することで，子どもたちもすぐに気付いて、気軽に話しかけてくれるようになりました。
・地域との共同開催の事業はできませんでしたが、園児・児童・生徒との交流は例年よりも多く持つことが出来ました。

来年度に向けて

・現在行っている広報活動を継続して行います。年に１度の広報紙のほかに、学期ごとに発行するボランティアの募集案内には、実施した活動報告を掲載します。ボランティア募集ポスターを現役世代の保護者の方の目につきやすい場所に掲示します。
・今年度出来なかった、各校園教職員との交流会を開催し、都跡中学校区の協議会への理解を深めてもらいます。
・地域教育協議会で作成した四神をデザインした赤の T シャツを様々な活動で着用し、他団体にも働き掛け、色違いＴシャツという目に見える形でも子どもたちを見守っていきます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都跡中学校運営委員会**

めざす子ども像　**やさしさとたくましさをもち，未来をきりひらく子どもの育成**

「確かな学力」と「豊かな心」を育むことをめざす

取組目標　**人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる**
地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割をになえる
子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○　毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」はコロナウイルス感染症の影響により実施を見送ることになってしまいましたが、『みあと農園』には地域の方々のご協力やご指導の下、「サツマイモ」や「タマネギ」を栽培し、また、花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てることができました。日々の世話は「いきものがかり」が中心になって水の世話などを行いました。



○　読書推進事業では、地域コーディネーター・ボランティアの方々と市の図書館司書の方がほぼ週１回のペースで来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。文芸委員が図書室開放を運営する際に役立つバーコード操作や分類ラベルの意味と整理の仕方などについての生徒向け勉強会をしていただいたり、生徒たちが多くの本との出会いが持てるよう階段踊り場への掲示物にたくさんの工夫をしていただいたりしました。



【今年度のまとめ】

コロナウイルス感染症の影響により、今年は様々な制限がある中でも無理なく活動できそうな取組を模索しての実施が多くなりました。生徒と地域の方々が協働して行う「みあと農園」「みあと花壇」はじめとする栽培体験活動が取組の中心になりましたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち共に活動ができました。昨年度から活動をスタートさせた「いきものがかり」を中心にボランティア参加の輪も広まり、地域活動に積極的に参加する姿が増えてきました。多くの生徒の地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

【来年度に向けて】

○　協議会で行っているコーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校 HP 等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも周知していきたいと思います。

○　コロナ感染状況の情勢に左右される心配はありますが、今年度できなかった小中合同でのコーディネーターとの交流会を実現し、小学校で行われている支援事業も参考にしながら中学校での新たな支援事業を考えていきたいと思います。

令和２年度　　取組報告　　**奈良市立都跡小学校運営委員会**

めざす子ども像　**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**
「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す

取組目標　**世界遺産のあるまち**
都跡で暮らし、都跡を学び、都跡を誇れる児童の育成

【今年度の取組紹介】

○　平城宮跡オリエンテーリング

毎年４年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は例年より活動時間を延ばし、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回りました。チェックポイントでのクイズ問題を子どもたちは自分で考え、ボランティアの方々に渡し、出題者になっていただきました。自分たちの校区にある世界遺産をより感じることができた１日になりました。


平城宮跡オリエンテーリング

○　学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動ができませんでしたが、日本地図のパズルや手作りの福笑いなど、本の紹介だけでなく、選書から関わっていただいた本に関連した様々なものをつくって学校図書館へ子どもたちが足を運びやすいように工夫してくださいました。


図書ボランティアの様子

【今年度のまとめ】

○　コロナ禍の影響により、多くの活動が中止または形態を変えての実施となりました。そのなかでも地域の方々は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。そしてこのような情勢の中でも図書ボランティアや家庭科学習支援など、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思います。

【来年度に向けて】

○　今年度はコロナ禍の中での臨時休校や行事の中止があり、「今まで通り」が通用しない１年でした。そのような中でも今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都跡こども園運営委員会**

めざす子ども像　**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**

取組目標　**「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす**
地域とのつながりの中で
みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園をめざす

今年度の取組紹介

○　本物に触れる体験事業



今年度の遠足は交通機関を利用することが出来なかったため、より地域を知る機会に出来ればと考え、遠足の行き先を平城宮跡としました。

例年園外保育として出掛けている場所ですが、遠足として十分な時間を確保し、多くの地域の方に付き添って安全を見守っていただき、より地域の方と触れあい親しみを感じる機会となりました。そして秋の自然を肌で感じながら、奈良の鹿に届けるためのドングリを地域の方と集めることが出来ました。また唐招提寺での園外保育においても地域の方に付き添っていただき、一緒に絵本に登場する『隅鬼』を境内で探したりお寺の方から仏様の話を聞かせていただいたりしました。子どもたちがお寺の方に積極的に質問する姿がみられ、5 歳児はそれらの経験から、友達と想像力を働かせ、イメージを共有して『みあとのだいぼうけん』の話を創りあげていきました。その作品を「作品展」を通して保護者や地域の方に見ていただき、取り組む過程を伝えていくことで共感してくださり子どもたちの達成感や満足感につながりました。

○　読み聞かせ事業



地域の方による絵本の読み聞かせ『わくわく絵本タイム』は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ 10 月より在園児と未就園児に、実施しました。地域の方は距離を取っても見やすいように大型絵本を使用したり、読み手の表情が良く見えるようフェイスシールドを利用したりする等、感染対策を講じながらも子どもたちが読み聞かせの楽しさをより感じられるように工夫してくださいました。子どもたちは、この時間を期待し、よりお話しに興味をもつと共にいろいろな方と関わりをもつことができました。

今年度のまとめ

○　コロナ禍で例年通りの交流の形ではなかったですが、内容を吟味し、地域の方と相談しながら本物に触れる体験・読み聞かせ・栽培活動等に取り組みました。様々な制限がありましたが今年だからできることは何か、地域、保護者と共に、あきらめず考え実施することで、地域の方を身近な存在と感じ、感謝の気持ちや思いやりの心を育むことにつながりました。

来年度に向けて

○　『みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園』を目指し、子どもたちにとって豊かな経験となるよう、感染対策を講じながら定着している活動を継承していくと共に、さらに内容を見直し出来ることを考え、地域・保護者との連携を深め、教育・保育を充実させたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**平城東中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取 組 目 標　**「地域力によって育成する心豊かな子ども」**

【今年度の取組紹介】

◆地域の方々にとって、学校がこのような長い休業期間となったことは驚きと不安であったと思いますが、常に協力的で、学校再開後まもなく様々な形でボランティアに来ていただきました。

◆図書館開放事業では、返却した本の消毒について、ボランティアさんと教職員で試行錯誤しながら子どもたちの安全に留意し、図書活動の活性化を止めることなく取り組んでいただきました。

◆地域との協働事業について地域の方からアドバイスを頂き、パーティションを購入し、校区内すべての園や学校で地域の方とシールドペイント事業を実施しました。これはパーティションを購入して並べるだけでなく、子どもたちが自由な発想で透明な板に絵を描き、その作品を活用することで、このパーティションの意味を理解し、感染に注意を払うことや、ものを大切に使う心を育てていこうという願いが込められています。







【今年度のまとめ】

地域行事が中止になり、協議会の活動がかなり縮小した一年でしたが、今できることに目を向けて活動できたと思います。

【来年度に向けて】

感染対策をしっかり講じた上で、地域行事をできるところから実施したいと考えています。限られた予算を子どもたちや地域の方々の安全な教育活動に活かす方策をたて、丁寧に進める必要があります。地域人材の力は学校・園にとって大きな助けであり、地域に根ざす子どもたちの育成をともに考えていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立平城東中学校運営委員会**

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取 組 目 標

「知ろう、地域のすばらしさ！本物に触れる感動を子どもたちに！」

【今年度の取組紹介】

今年度は長期間にわたる臨時休校の末、多くの行事が規模の縮小や中止になってしまいましたが、学校に生徒たちが登校するようになると、地域の方々が図書室の開放や環境整備、学習支援に集まってくださり、学びに潤いをもたらしてくれました。

◆学校の美化活動では、これまで同様に遊歩道の清掃や樹木の手入れ、花壇作りを地域と生徒が一緒に活動しました。

◆３年生は高齢者疑似体験授業を実施しました。足腰に装具を付け、杖をついて階段を昇降するため、地域の方に階段付近等に立っていただくなど安全面に配慮して実施することができました。

◆生徒の健全な成長を支えるため、１年生と３年生に向けて性教育講演会を実施しました。また、奈良の伝統文化学習として筆作り職人を招き、１年生が体験をしました。実際に目の前で行われる巧みな技術を見ることは、オンラインでは得られない貴重な時間になりました。







【今年度のまとめ】

地域行事の中止や会合の縮小など、これまでにない変更を余儀なくされた一年でした。そのような中でも学校には地域や団体から多くの援助をしていただき、本物を見せたり体験させることができました。これからも地域とともに子どもの育成に努めたいと思います。

【来年度に向けて】

もっと学校を知りたい、もっと学校の手伝いをしたい、という声を地域の方からいただきます。

保護者だけでなく、子育てを終えた世代の方々との交流は、地域に根ざす学校として何より心強く、子どもたちの居場所作りの上で大切な存在です。子どもたちをより多くの目と心で育てられるよう、また、地域行事を１つでも安全に実施できるよう、考えていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立朱雀小学校運営委員会**

めざす子ども像　**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標　**地域の方々に支えられていることを実感しながら，児童が主体的に学ぶことができるための環境整備と取組の充実**

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍により，多くの取組が中止または多くの制約を受ける状況となりました。その中でも，地域の協力を得ながら，できる限りの方法を模索し，取り組みました。

○学習支援事業（２年　体験学習「芋掘り体験」「収穫祭」）



２年生の栽培体験学習として地域の方々の手を借りながら，さつまいもの苗を植え，収穫し，焚火から焼き芋を作る体験学習を行いました。自分たちの手で土を触り，作物を育てる活動を通じて，地域の方々と交流を深め，人との付き合い方を学ぶ貴重な場にもなったようです。



○環境整備事業

学校の広い敷地を生かして，花いっぱい，緑いっぱいの素晴らしい環境づくりに取り組んでいます。

○図書環境整備事業

読書推進活動は図書館整備活動を中心に進めました。本年度はコロナ禍により，予定していた読み聞かせの活動は中止となりましたが，子どもたちも楽しみにしている活動なので，一刻も早い再開を望んでいます。また，北部図書館の司書の方と連携し，様々なジャンルの本を紹介してもらったりすることで，子どもたちの読書意欲も高まっています。

【今年度のまとめ】

○体験学習事業では，実際に触れ，自ら経験する貴重な機会となりました。様々な方との触れ合う中で，コミュニケーション力や仲間と力を合わせて協働する力を身に付ける良い機会にもなりました。

○読書活動推進事業では，取組がしっかりと根付き，休み時間も本に触れる児童が数多くみられました。また，図書室の整備も進み，様々なジャンルの本に親しむ児童が増え，子どもたちの知識の広がりにも役立っています。

○環境整備事業では，子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めるだけでなく，花や自然いっぱいの素晴らしい環境に保たれています。子どもたちもこの素晴らしい環境を維持しようと，工夫しながら取り組んでくれています。

【来年度に向けて】

○コロナ禍の中，実施ができない取組も多かったですが，地域に根付いてきた取組も多く，地域の助けを得ながら，工夫し，取り組むことができました。来年度以降も地域と連携しながら，継続及び推進を目標に事業を進めていきたいと考えています。また，協力していただける人材を増やし，新たな計画と組み合わせながら，さらなる充実を図っていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立佐保台小学校運営委員会**

めざす子ども像　**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標　**学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたり、子どもたちが感動するような体験活動を通した魅力あふれる取り組みの継続と地域人材の活用・発掘**

今年度の取組紹介

○地域に学ぶ活動事業について



今年は新型コロナウィルスの影響で、田植えを一緒にすることはできませんでしたが、稲刈りは、５年生の児童と地域の方が一緒に実施しました。児童は、地域の方から稲刈りの仕方を教えていただきながら頑張りました。

稲刈りから１週間後、笹がけにして乾かした稲穂を昔ながらの方法で脱穀しました。千歯こきを上手に回転させるのが難しかったけれど、地域の方に助けてもらいながら、うまく回せるようになりました。地域の方と一緒に活動する中で、米作りの大変さがよくわかりました。また、地域の方に感謝する気持ちも生まれました。出来上がったお米は、児童が持ち帰って食べました。子どもたちは、生産したものを食べる活動をとおして、食に対する興味・関心が深まりました。



今年度のまとめ

新型コロナウィルスが猛威を振るう中での取組でしたが、活動自体をなくすのではなく、感染症対策を実施しながら、地域の方と相談を繰り返しながら事業を実施しました。改めて、学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長の支援にあたり、子どもたちは体験活動を通して多くの事を学ぶということを確認できた一年でした。

今後さらに地域とのふれあいを大切にし、地域の方に助けてもらいながら、自分たちの郷土を愛する子どもたちを育てたいと思います。

来年度に向けて

様々な取組は長期的な視野に立ち、事業を継続的に行うことにより大きな成果が得られると考えます。来年度も活動内容の工夫・精選を検討し、本事業を継続していきたいと考えております。

具体的には、佐保台小学校としての学校支援ボランティアの仕組みを定着させ、地域の方に教育活動に参画していただき、教職員と一緒に「チームとしての学校」を創り上げていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立左京小学校運営委員会**

めざす子ども像　**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標　**子どもたちが地域を知り、地域の人達との繋がりを意識するとともに、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけて成長していける取組の充実を目指す。**

【今年度の取組紹介】

本校区には、地域の方々が憩うことができる、緑あふれる「左京の森」があります。そこには左京小学校の花壇もあり、毎年、環境整備活動の一つとして地域ボランティアのグリーンサポートクラブの方々にお手伝いをしていただきながら、３年生の子どもたちが春と秋に花植えをしています。

今年も、グリーンサポートクラブの方が事前に肥料を入れ整地して下さった花壇に、ベゴニア、日日草、パンジー、ベゴニアなど色とりどりな花を植えました。グリーンサポートクラブの方に丁寧に花の植え方を教えてもらいながら、子どもたちは本当に楽しそうに花植えを楽しみ、植え終わった花壇を見てとてもうれしそうにしていました。



グリーンサポートクラブの方も「来られた地域の方々もきっと喜びますよ。」と話してくださいました。

本事業において、子どもたちは地域の方と一緒に左京の森を心和む場所にしようとしています。美しい花壇を造ることを通して、子どもたちは「左京」は自分たちのまちであり、地域の一員である自分たちもきれいなまちづくりに貢献できたと実感してくれたと思います。



【今年度のまとめ】

・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域の方々と触れ合う機会を設けることが難しい状況がありましたが、「左京の森」の花壇の整備を通して、子どもたちが地域の人たちとのつながりを意識する機会を設けることができました。
・好話会の方々による読み聞かせを子どもたちは楽しみにしており、話してくださる物語に子どもたちは耳を澄ませて、聞きこんでいました。人の声を通して、物語を聞くことは子どもたちの感性を豊かにしてくれています。コロナ禍の中、子どもたちの心を温かくしてくれる事業となりました。

【来年度に向けて】

・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一つの場所に多くの人が集まって取り組む事業ができませんでしたが、次年度はいろいろな人と触れ合うことができる事業を企画していきたいと考えています。多くの人との交流を通して、地域を知り、地域の人達との繋がりを意識する子どもの育成を目指すとともに、子どもたちの感性を豊かにしていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立左京こども園運営委員会**

めざす子ども像 自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標 地域と連携しながら心豊かに生き生きと活動できる子どもを育てる

今年度の取組紹介

◆お話の会

地域の読み聞かせのボランティアの皆さんにより、継続して行っていた　「お話の会」は、9 月からの実施となりました。エプロンシアターや大型絵本、紙芝居など年齢に応じた楽しいお話は子どもたちもとても楽しみにしています。毎月 2 回実施する事で、期待を持ちながら落ち着いてお話を聞く態度が身についてきています。また、絵本コーナーに棚を作り整理する事で、絵本を見やすく、取り出しやすくなり、より興味をもって絵本を手にとる姿が増えてきました。
絵本貸し出しを楽しみにする子どもも増え、お話が好きな子どもに育ってきていることが感じられます。



◆左京の森での芋の苗植え・芋堀り体験

今年も左京グリーンサポートの皆さんが、「左京の森」の畑の整地などをしてくださいました。そして子どもたちに丁寧にさつま芋の苗植えを教えてくださり、その後収穫までの貴重な体験もさせていただくことができました。共に活動し常に見守りお世話してくださることに親しみを感じると共に感謝の気持ちを持つことができました。



今年度のまとめ

○今年度はコロナ禍により、地域の方と活動する機会が十分に持てませんでしたが、少人数で行うなど内容や方法を工夫して実施することで、地域の方と関わることができました。

○継続して地域の方々と関わる機会をもってきたことで、地域の方々への親しみが増し子ども達からは、「楽しかった」「また、やってみたい」の声も聞かれ、交流の場に期待しながら参加し、次回を楽しみにする姿へとつながってきています。

来年度に向けて

○今年度実施できなかった事業を来年度にもつなげ、継続して地域の方々と関わる事で、園児の経験や体験を広げ、親しみもって関わっていけるように事業を進めていきたいと考えています。

○地域の教育力を最大限に活かせるように情報収集に努め、無理のないよう保育に取り入れながら、園児の豊かな経験につながるようにし、地域に根ざしたこども園を目指していきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立朱雀こども園運営委員会**

めざす子ども像　**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標　**地域とのつながりを大切にし、地域の方々やコーディネーターとの連携を図り、子どもの心を動かせるような、感動体験ができるようにする。**

【今年度の取組紹介】

＜体操教室＞



年間３回講師の先生を招いて、体操教室を行いました。跳ぶ、走るなどの動きから、運動遊具を使って体全身を動かすことにより、体力向上と体幹を鍛えるだけでなく、体を動かす楽しさを味わうことができました。このことで、子どもたちの日々の遊びにも繋がり、継続してしなやかな心身を育むことができました。

＜おもしろ理科実験＞

地域の教育力を生かし、地域の「平城ＮＴ楽しい理科実験研究会」の方々に来ていただいて、ペットボトルロケットと、大型シャボン玉を見せていただきました。ペットボトルが空高く上がるのを見て感動を味わい、「どうして？」「やってみたい」と科学への驚きや意欲が育まれました。

＜絵本の読み聞かせ＞



絵本に親しむというねらいをもち、「朱雀お話の会」の方に来ていただき、腹話術やお話を読み聞かせしていただいています。静かな空間で年齢にあった楽しい絵本との出会いは、地域の方の優しさや温かさと心に触れる体験であり、感情を豊かにし、絵本好きな子どもを育てています。

【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍の中で、少人数や戸外で行うなど工夫しながらの活動となりましたが、地域や講師の皆さまに支えられながら楽しく行うことができました。

ゲストティーチャーを招いての事業では、遊びの中から興味を持ち、専門的な知識を身につけることができました。また、環境ボランティアさんや地域の方と自然の中で触れ合うことにより、思いやりの心、優しさ、労働することの気持ちよさや、様々な感動から、豊かな感性も育まれました。終わりには、「また、来てね」「また来るね」と地域の方と子どもたちのやりとりや、「子どもたちから元気を頂きました」という地域の方の声を頂き、温かい時間を過ごすことができ感謝しております。

【来年度に向けて】

今年度の取組で学んだことを職員間で共有し、子どもたちの心が豊かに育まれるように、日々の保育で生かしていきたいと思います。

また、今年度の事業とできなかった事業を更に充実し、自信を持ち何事にも挑戦する園児の育成に向けて進めていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**月ヶ瀬中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標　**歴史・人・自然・もの‥未来につなげる　ＥＳＤ！**
ふるさとに夢と誇りを持とう‥故郷の良さを発見！　ふるさとの良さを発信！
ふるさとの文化をつないでいこう！地域ぐるみで特産品を作ろう！

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が見合わせとなる中、２５年目を迎えた「アルミ缶回収活動」については、地域の方々の手厚い協力のお陰で、例年と同様に活動を続けることができました。この活動は、当時の中学校生徒会の呼びかけで始まりましたが、今では地域福祉協議会、ボランティア愛歩２１、地域住民、学校が一つになり継続して実施しています。今年は、５台の福祉機器を寄贈することができ、これまでに寄贈した福祉機器は１３７台になりました。この取組は環境保全の面でも認められ、今年度は「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」において「循環型の生活スタイルの普及を目指して」をテーマに取材を受け、地域ぐるみで四半世紀続いてきた取組が紹介されました。

他にも、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動、烏梅を使った紅花染めなど、いつもとは少し進め方を変えながら行ったものもありますが、いずれも地域の方々には十分な感染症予防対策を考慮いただき、実施することができました。



☜ ２５年目を迎えた「アルミ缶回収活動」



☞ 福祉センターでの福祉機器贈呈式

【今年度のまとめ】

今年度は、今まで行ってきた多くのふるさと学習が中止となり、校外へ出て発信する機会も社会情勢上やむを得ず実施を見合わせました。また、地域合同体育祭や文化祭が中止になったこともあり、地域との交流の場も少なくなりました。しかし、この状況の中でも、２５年目となったアルミ缶回収活動では、地域の方々の協力のもと、これまでと同様に活動が行われ、福祉センターや診療所に車いす等の福祉機器を贈呈することができました。

また、集まることが難しいこの機会に、地域内外に広く活躍する新たな人材探しを兼ね、人材バンクの整理を行いました。これまでの取組をさらに発展させられるよう、連携強化に努めていきたいと思います。

【来年度に向けて】

少子高齢化の進むへき地ではありますが、長年地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。こども園・小中学校の子どもたちを地域ぐるみで育てる環境を今後も継続して構築していきたいと考えます。また、伝統となったアルミ缶回収活動をはじめ、広報活動にも重点を置き、若い世代の取込を積極的に進めていきたいと考えております。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立月ヶ瀬中学校運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標　**「ふるさとに夢と誇りを持とう」ふるさとの支援を受けながら、郷土愛を育て、ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の育成**

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、梅やお茶に関する体験学習や、各地区を巡り歴史や伝統を学ぶふるさとWalk等、恒例となっていた多くの事業が活動見合わせとなりました。地域清掃や友愛訪問（一人暮らしの地域の高齢者との交流）も中止となりましたが、せめて毎年楽しみにしていただいている方に暑中お見舞いや年賀状だけでも…と、コロナ禍で不安な毎日を送る高齢者の方に元気を与えられるよう、心を込めて作成した葉書を送りました。また、地域花いっぱい運動やアルミ缶回収活動は、地域の方々の協力を得て、例年通り活動することができました。

そんな中、今年度は公民館との連携を強化し、コロナ禍の中、学習や将来について悩みを抱えている子どもたちのためにできることはないかと「子どもSTUDYサポート塾」を開講していただきました。地域の方々の協力のお陰で、子どもたちは自分たちの暮らす地域をより深く知ると共に、地域の人とのつながりの大切さを学ぶことができました。



子どもSTUDYサポート塾

地域花いっぱい運動



【今年度のまとめ】

今年度は、感染症予防のため、例年通りの活動がほぼできませんでしたが、今までのふるさと学習から、故郷を発見、故郷の良さを発信、故郷の文化を継承する精神は変わらずつながっていると考えています。また、ふるさとの抱える課題にも目を向けることができました。

本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で２５年目になりました。今年度は「きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会」において取材を受け、福祉だけでなく環境面でも貢献できたと評価していただきました。また、今年度から始まった「子どもSTUDYサポート塾」では、勉強を教えてもらいながら、先輩方からのアドバイスなども受けられ、成果を挙げることができたと思います。

【来年度に向けて】

今年度から始まった「子どもSTUDYサポート塾」では、より多くの子どもが安心して利用できるよう、広報活動にも力を入れ、参加人数を増やしていきたいです。

月ヶ瀬は非常に人材にも恵まれています。広く活躍する人材とつなぐ体制をつくり、キャリア教育をより豊かで充実した学習にする支援体制の構築にも努めていきたいです。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立月ヶ瀬小学校運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとに夢と誇りをもち、自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標　**月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品・この地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝承芸能継承者の方から直に教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。**

【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組む地域学習は、地域の方々に支えられて成り立っています。例年、１．２年生では生活科の昔遊び、３年生のお茶の学習、４年生の地域の産業、５年生は尾山万歳、６年生では狂言を学んでいますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が中止となりました。そんな中、地域の方々の支援により、梅干し作りや伝統芸能等は、少し形を変えながら実施することができました。特に、伝統芸能の指導では、マスクをつけてのせりふ回しや接触を避けた演技構成等、できる限りの感染予防を考慮していただき、無事に発表を終えることができました。

子どもたちは、自分たちの暮らす地域の生活文化や習慣、産業、伝統文化まで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。６年生になると、月ヶ瀬地域を活性化するにはどうすればよいかをテーマに、自分の考えをまとめ、発表します。発達年齢や教科・領域などの学習との関連も考慮しながら、子どもたちは無理なく、自然と月ヶ瀬を深く知り、故郷を思う気持ちを醸成させています。この学びはやがて中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思います。



伝統芸能の伝承
狂言「口真似」

梅干し作り



【今年度のまとめ】

小学校における学習活動は、学びの基礎基本が中心であり、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。本校の場合、地域で唯一の学校であり施設一体型の小中一貫教育校という特性を生かすために、小学校ではこれまで取り組んできた地域学習に基盤を置き、取り組んでいます。

今年は多くの活動が中止となりましたが、コロナ禍の中ご支援くださったことへの感謝の気持ちを忘れず、ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担ってくれるような児童の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思います。

【来年度に向けて】

指導してくださる地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や文化の伝承が危ぶまれるようになってきています。伝統芸能や生活文化を伝承する人材の確保が難しい中、どのように続けていくかを地域も学校も考えていく必要が出てきています。たいへん難しい課題ではありますが、子どもたち自身がそれらを伝承していく自覚が育つように、これからもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立月ヶ瀬こども園運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標　**地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、地域の伝統、産業に触れ興味関心を持つ**

【今年度の取組紹介】





・夏野菜の苗植え。玉ねぎの苗植え。
キュウリ、トマト、ピーマン、パプリカ、おくらなど植えました。
・陶芸体験
間隔をあけて陶芸用の粘土をこねてお茶会で使う湯のみと菓子皿を作りました。
・染物体験（玉ねぎ染め）（どんぐり染め）
玉ねぎ染めとどんぐり染めで、ランチョンマットを作りました。
・お茶会
自分で作った湯のみと皿で月ヶ瀬の美味しいお茶を頂きました。
・お話の会（だっこ）（１０８）
大型絵本や大型紙芝居、エプロンシアターなど地域の方と楽しみました。
・しめ縄づくり体験
地域の方に、お正月の話を聴いた後木の実や松、千代紙などを使ってしめ飾りを作りました。

【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウィルス感染症の関係と天候の加減で茶摘み、茶工場見学、地域散歩など計画していたが、中止になってしまいました。また、お年寄りとの交流もできませんでした。しかし野菜の苗植え、陶芸体験、お茶会、染物体験、お話の会、しめ縄づくり体験など、地域の方と三密を守り、マスク着用、手指消毒、検温など感染対策をした上で行う事ができ、新しい生活様式での活動となりました。子ども達は地域の方といろいろな経験をし、一緒に活動することで、いろいろな発見に驚き自分たちの住む地域の特産物を知り、地域に関心を持ち親しむことができました。

【来年度に向けて】

新しい生活様式の中で出来ることを広げ、様々な経験を通し得たことを次年度に生かせるように、また、目標に向け子ども達が生き生きと活動できるように、事業内容を検討し進めていきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**都祁中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**ふるさとでの学びを誇りに**

たくましく未来を切り拓く　都祁の子

取組目標　**学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し，連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。**

【今年度の取組紹介】

現在，全国的に高齢化が進んでいることに加え，特に中山間地域においては，日常生活やコミュニティの維持が問題となっており，これらの解決のために地域の教育力の向上を基に，持続可能な地域社会をつくることが求められているところです。

奈良市東部に位置する都祁中学校区（都祁地域）においても，ここ数年来，前述の課題が顕在化してきたことから，これらの解決に向け，日々の教育活動を地域からの協力・支援を得ながら進めてきました。



東日本大震災以降，防災教育の重要性と有効性が改めて確認されているところでありますが，都祁中学校区においてもキャリア教育に地域防災の視点を踏まえ取り組んでおり，今年度は，地域の「防災マニュアル」改訂に関わるなど，万一の災害発生時に備えることの大切さについて学ぶことができました。

【今年度のまとめ】

今年度は，４月から２か月間の臨時休校を経て教育活動を開始することとなり，協議会活動にも感染症防止対策としてさまざまな制限が設けられることとなりました。そのような状況下においても，コーディネーターや委員の方々を中心として，地域の方々からのご協力を得て各事業をすすめることができました。

また中学校区内のこども園・小学校・中学校とも機会を精選しつつも効率的に連携・交流を深めることができ，学びの連続性を踏まえた教育活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウィルス感染症に関しては，未だ，収束の兆しを見せていませんが，今後に向けては，新しい生活様式に基づきながら，オンライン等を活用した園児・児童・生徒や地域と教職員の交流などを取り入れながら，効果的に事業を行えるよう事業計画の検討をすすめていきたいと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都祁中学校運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとでの学びを誇りに**
たくましく未来を切り拓く　都祁の子

取組目標　**中学校が積極的に地域に出て地域の方々と交流し，連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。**

【今年度の取組紹介】

１．防災教育への取組

「生きる力」を育むことを目的とし，防災教育の一環として，地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。地域在住の防災士の方よりご指導をいただき，具体的に「命を守る行動」として何ができるかを考え，日々，万一の災害発生時に備えることの大切さについて学ぶことができました。

２．学力向上に向けた取組

地域在住の元学校教員の方を講師に招いて「学力補充教室」を開催しました。

「数学」の学力向上を目的として，教員２名とともにティームティーチングや少人数指導によるきめ細やかな学習指導により，基礎学力向上を図りました。

〔学力補充教室〕



３．伝統・文化理解教育への取組

「保健体育」カリキュラムや「総合的な学習の時間」における伝統文化理解の取組として，地域の指導者により「エイサー（沖縄民謡・舞踊)」の指導を行っていただきました。

自然と伝統にあふれる都祁の地域に住まう生徒にとって「自然･文化理解」など，多様な学習への発展や「伝統に対する感性」を培うための貴重な学びの機会となりました。

〔エイサー指導〕



【今年度のまとめ】

今年度は，新型コロナウィルス感染症の影響から，例年実施されている地域最大の行事「都祁高原マラソン」の開催が中止となるなど，運営委員会の事業に関して，年度当初の計画から大幅に変更せざるを得ない状況でありましたが，地域の方々のご協力・ご支援をいただきながら，事業を進めることができました。

【来年度に向けて】

来年度においても，新型コロナウィルス感染症への対策を十分に講じながら，事業を精査・精選し，効率的・効果的に推進していきたいと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都祁小学校運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとでの学びを誇りに**

たくましく未来を切り拓く　都祁の子

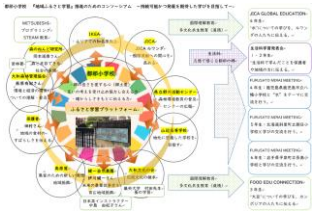
取組目標　**地域や地域の人から学ぶ学習『探求心・好奇心にあふれた学びの場：キャリア教育の活性化』を通して、自分たちが住む郷の持続可能な社会の実現に向けて SDGs の視点を意識し、自分たちに何が出来るのかを考えられる力の育成。**

【今年度の取組紹介】

昨年度（H31）より、郷土「ふるさと」学習において“育みたい力”の１つに“郷の良さを愛せる心”に据え、６年間を見通した教育プログラムの構築と、教科の特性を生かし合う横断的な学習、すなわちカリキュラムマネジメントを積極的に取り入れ学習を進めてきました。

“『地域ふるさと学習』推進のためのコンソーシアム”とは、教科の特性を生かし合う横断的な学習、すなわちカリキュラムマネジメントを積極的に取り入れ、“持続可能かつ発展を期待した学び”を目指して、企業や事業所、地域にある公共施設や学校関係機関、地域の方々等を取り込んだ“学びのプラットフォーム”を基盤に、その発信先である学校や機関を含めた“学びの共同体”のことです。

また、全校一斉に取り組む“森の学校”（11 月 17 日、県野外活動センター）では、“ふるさと学習プラットフォーム”に係る方々を招き、実際に大自然に触れながら、自然を五感で触れられる機会とすることで、“育みたい力”の１つに“郷の良さを愛せる心”を確かなものとして定着させました。



【今年度のまとめ】

多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制として、平成 27 年の中央教育審議会の答申で提言された地域学校協働本部。まさにこの事業に当たるのが、この事業であり、本校ではこのことを念頭に進めてきた結果、一人一人が自分に与えられた役割に責任感を感じながら、地域の課題を解決しながら作業を進めていくことで、持続可能な社会・地域の作り手として責任を果たせる素地を養えることができました。

【来年度に向けて】

GIGA スクール構想で整えられた環境を最大限に生かし、“学びのプラットフォーム”で関わり合う団体・個人が互いに要求し合い、それを適宜確認しあい（MUTUAL PROSPERITY の関係）、より良い教育の創造、『教育の力で地域創生を！』に努めていきたいと考えます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立都祁こども園運営委員会**

めざす子ども像　**ふるさとでの学びを誇りに、たくましく未来を切り拓く、都祁の子**

取組目標　**地域とのつながりを感じながら、心豊かで、生き生きと生活する子どもの育成**

【今年度の取組紹介】





『サツマイモの収穫』臨時休業中に地域の方と職員で、子ども達に代わって畑の準備や苗の植え付けを行いました。保育再開後から、4歳児が中心になりサツマイモ畑の世話をしました。水やりや草引き等をしてサツマイモの生長を願い大切に育てました。大きく育ったサツマイモの収穫当日は、地域の『畑の先生』が来てくださり一緒に掘りました。サツマイモの掘り方を教えていただき、ツルを引っ張ったりスコップや自分の手で土を掘ると、大きなサツマイモや赤ちゃんサツマイモが出てきました。園児たちは「大きいおイモとれた」「赤ちゃんイモや」と自分で収穫したことに大喜びでした。沢山のサツマイモがいくつあるか数を数えることにし、シートに並べました。畑の先生に「２４０個ありました」と報告すると「わあすごいね」「たくさん掘れたね」と一緒に喜んでくださいました。

『焼き芋パーティー』後日収穫したサツマイモで焼き芋パーティーをしました。畑の先生は、園児が拾い集めた落ち葉やもみ殻にエントツを立て焼き芋の準備をしてくださいました。園児達は、サツマイモを洗い、濡らしたキッチンペーパーとアルミホイルで包み準備をしました。黒くなったもみ殻の焚火の中に包んだ芋を入れ、「おいしくなあれ」とお願いをしました。煙のにおいでいっぱいになった園庭の焚火のそばに集まり、畑の先生と一緒に焼き芋を食べました。「おいしい」「みんなで食べたらめっちゃおいしい」と大喜びでした。地域の方と触れ合い楽しい経験をすることで、親しみを持ち自ら関わったり、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする姿が増え、地域への親しみの気持ちが自然と培われてきました。





【今年度のまとめ】

コロナ禍の１年で地域の方と触れ合う機会が限られていましたが、一つ一つが大変貴重なものとなりました。おはなしのひろば・生け花体験・菜園活動等様々な活動ができ、また１年を通して地域の方と関わることで、「畑の先生や」「お話、届けに来てくれたよ」とより親しみや感謝の気持ちを持ちました。次回に期待し楽しみにする姿が見られました。また地域の方々に認めてもらったり褒めてもらったりすることで、自信や意欲にも繋がりました。

【来年度に向けて】

地域の方との繋がりを感じ「心豊かで生き生きと生活できる子ども」を目指して、地域・園・家庭が一体となり取り組んでいけるよう、相互の連携を強化し、様々な感動体験ができるように取り組んでいきたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**富雄第三中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども**

取組目標　**子どもたちと地域の大人たちとが直接関わる中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の大人たちは自己有用感を感じる事ができるようなウィンウィンの関係を築く取組を充実させる。**

【今年度の取組紹介】

コロナで学校へ出向くこともはばかられた雰囲気があり、活動が中止となっていった中、学校から正門前花壇への花苗植え付けの提案がありました。ずっと活動が休みの状態であったので、募集に対しボランティア参加は少なかったのですが、再び子どもたちと地域の方が関わることができました。ジョーロの使い方がよくわからない子がいたり、少し根の土をほぐして植え付けてあげる事等興味深く聞き、きれいに整備できました。

また図書のカバー付けや補修、見守り活動も実施できました。その中で、ボランティアの方とよりわかりやすくするためにも活動時エプロンを付けてもらうことにしました。エプロンの色とデザインは、子どもたちに投票で決めてもらいました。





【今年度のまとめ】

コロナ感染予防のために、実施できる内容や日程も、とても限られることとなり活動が激減した中で、本当に学校が必要とする支援について考えることができました。

また学校に地域の人材が入らせてもらえることの喜びと、地域の人材が学校に来てくださることが貴重なことであり、ありがたさを強く実感する一年となりました。

【来年度に向けて】

学校 HP への活動掲載、地域へのボランティア情報開示などを再開し広報活動をできるだけ戻すことで、現在登録されている方のモチベーションを保ちながら募集をしていきたいと考えます。

安全な形での活動を目指し、令和２年度に行うことができなかった記念行事などに対しても、学校園と連携し模索工夫しながら行い、新しい学校園支援活動の形をつくりあげたいと思います。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄第三中学校運営委員会**

めざす子ども像　**心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども**

取組目標　**子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。**

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍のため、計画していた事業がほとんど実施できない状況ではありましたが、地域の方々のご協力をいただき、工夫をしながら学校環境の整備などを児童生徒と共に行うことができました。花の苗植えはもとより、普段何気なく通っている校門付近の溝掃除など、感染症対策を講じながら協働する場面に生徒の生き生きした姿が見られました。また、キャリア教育の一環で、講師の先生を招き、マナーについての講習会を学年の目的に応じて実施できたことは大変有意義でありました。定期的なコーディネーター会議等学校と地域の打合せにおいて教育課程に照らして活動の見直しを行い、ねらいに沿った活動の設定となるように協議を重ねました。地域の方から「できるときに　できることを　できるひとが」という形での支援が広まり、持続可能な活動への見直しの機会となりました。





【今年度のまとめ】

環境整備支援や読書活動推進等にボランティアの方が参加してくださいました。コロナ禍のためたくさんの制約のある中、工夫をしながら生徒と地域の方が出会い、ふれあい、経験をすることで大人も子どももこの地域での存在意義を少ない機会ではありましたが強く意識することができたように思います。実施できない事業がたくさんあったり、ボランティアの方に来校いただけない期間があったりしましたが、学校と地域が話し合いの場をもって「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性も見えてきました。

【来年度に向けて】

ねらいに沿った活動を効果的に実施するため、めざす子ども像を学校と地域が共有し、共に達成感のある事業内容を工夫改善し、継続していくことが大切であると考えています。また、新しい生活様式に対応する事業の視点をもちながら計画することが必要で、めざす子ども像である「心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども」を地域と共に実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域の中での有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄第三小学校運営委員会**

めざす子ども像　**心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども**

取組目標　**子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。**

【今年度の取組紹介】

新型コロナ感染症の影響により、子どもたちや、地域の皆さんの安全を第一に活動の見直しを行いました。

環境整備活動として、委員会活動の時間に地域のボランティアの方の協力を得て、校門前に花苗を植えました。これまでガーデニングの経験の少ない子どもたちがボランティアの方からのアドバイスを受けて、作業を進めました。



学習補助として、感染症対策を講じながら家庭科の実技支援をいただき、子どもたちが安心して活動することができました。またゲストティーチャーとして直接対面での支援が難しい場合は、学習に使用する地域学習の資料提供をいただき、子どもたちの学習が深まりました。



活動が制限される中、地域の方から「できるときにできることを　できるひとが」という形での支援が広まり、持続可能な活動への見直しの機会となりました。

【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。コロナ禍のためたくさんの制約のある中、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。実施できない事業がたくさんあったり、ボランティアの方に来校いただけない期間があったりしましたが、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性も見えてきました。

【来年度に向けて】

今年度は活動が制限されましたが、地域の方より「来年こそはもっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。ねらいに沿った活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点をもち、めざす子ども像である「心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども」を地域と共に実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域の中での有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

令和２年度　取組報告　　**奈良市立富雄第三幼稚園運営委員会**

めざす子ども像　**心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども**

取組目標　**地域の教育力を生かした幼小中連携教育**
―豊かな心を育み、たくましく生きる幼児の育成―

今年度の取組紹介

みんなであそぼう



地域の方々や保護者に協力していただき、キャリア教育の一環として「みんなであそぼう」をしました。忍者になり様々な修行に挑戦。挑戦するためにはチケットが必要で、修行ごとにチケットのポイントが異なるので、「あと２００ポイントあるから１００の修行２回できる」など自分の手持ちのチケットをどのように使ったらいいかを考えながらいろいろなゲームや遊びを楽しみました。困った場合は地域の方に自分の思いを伝え相談する姿が見られました。

わくわくダンス（リズム体操）



地域でインストラクターをされている方を招いて、音楽に合わせて楽しみながら体幹・バランスを鍛えていこうと計画しました。新型コロナ感染拡大防止対策を取りながら、「リズム・拍」を体で感じ、最後の日には子ども達が考えた簡単な創作ダンスを講師の先生と共に、保護者に披露しみんなで楽しいひと時を共有することができました。

今年度のまとめ

・地域の方々や保護者に協力していただき、コロナ禍の中でも様々な事業に取り組む中で、子どもたちは、たくさんの感動体験を味わうことができました。その中で、「楽しかったね。」「もっとやってみたいなぁ。」と次につながる意欲が生まれてきました。

・様々な地域の行事が中止になる中で、奈良西養護学校とリモート交流、人数制限やディスタンスを図る工夫をしながら、身近な人とのかかわりをしていくことにより、自分の住んでいる地域が大好きになり、その中でやさしさや思いやり、相手の気持ちに気付く心が育ってきました。

来年度に向けて

・園児が減少していく中、感染予防対策をとり、地域の支援や保護者の協力をいただきながら、様々な人とのかかわりを大切にし、コミュニケーション能力の向上に努めていきたいと思います。また、運動能力を高めたり、創造力を豊かにしたり、人を思いやる気持ちを育んだりしていくために、多様な経験を多く取り入れていきたいと思います。